

2026 年度

修 士 課 程
学 生 募 集 要 項

Guidelines for Applicants
to the 2026 Master's Program

京都大学大学院工学研究科
Graduate School of Engineering, Kyoto University

〒615-8530 京都市西京区京都大学桂

TEL 075-383-2040, 2041

Kyoto daigaku-Katsura, Nishikyo-Ku, Kyoto, 615-8530, JAPAN

Phone: +81-75-383-2040 or +81-75-383-2041

E-Mail: 090kdaigakuin-nyushi@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

重要 京都大学大学院工学研究科修士課程・博士後期課程の組織再編について（予告）

工学研究科では、令和8（2026）年度から、次のとおり組織再編（一部専攻の統合）を計画しています。

この計画は、設置構想中であり、内容に変更が生じることがあります。

令和7年8月の入学試験は、現行の制度による入試を実施します。ただし、組織再編が認められた場合、この入試において当該専攻に合格された方は、組織再編後の専攻に入学することになります。

また、電気工学専攻、電子工学専攻は、改組に伴い入学定員を増やす計画です。組織再編が認められれば、今年の秋頃に二次募集を実施する可能性があります。

○組織再編計画

・現行の工学研究科に属する17の専攻のうち2専攻（電気工学専攻、電子工学専攻）を統合し、新たに「電気電子デジタル理工学専攻」を、6専攻（材料化学専攻、物質エネルギー化学専攻、分子工学専攻、高分子化学専攻、合成・生物化学専攻、化学工学専攻）を統合し、新たに「化学理工学専攻」を、設置する。

〈現行〉工学研究科（17専攻）	〈組織再編後〉工学研究科（11専攻）
社会基盤工学専攻	社会基盤工学専攻
都市社会工学専攻	都市社会工学専攻
都市環境工学専攻	都市環境工学専攻
建築学専攻	建築学専攻
機械理工学専攻	機械理工学専攻
マイクロエンジニアリング専攻	マイクロエンジニアリング専攻
航空宇宙工学専攻	航空宇宙工学専攻
原子核工学専攻	原子核工学専攻
材料工学専攻	材料工学専攻
電気工学専攻 電子工学専攻	電気電子デジタル理工学専攻
材料化学専攻 物質エネルギー化学専攻 分子工学専攻 高分子化学専攻 合成・生物化学専攻 化学工学専攻	化学理工学専攻

○ 入試概要

令和7（2025）年8月現行制度での修士課程・博士後期課程入学試験実施

→組織再編が認められれば、上記入学試験における電気工学専攻、電子工学専攻の2専攻の合格者は、電気電子デジタル理工学専攻に入学となります。また、材料化学専攻、物質エネルギー化学専攻、分子工学専攻、高分子化学専攻、合成・生物化学専攻、化学工学専攻の6専攻の合格者は、化学理工学専攻に入学となります。

目 次

Part A	<u>全入試区分共通部分</u>	4
I.	募集人員	4
II.	出願資格と出願資格の審査	4
i.	出願資格	4
ii.	出願資格の確認（出願資格(3)(4)(5)(6)）	5
iii.	出願資格の審査（出願資格(9)(10)）	5
III.	出願要領	6
i.	出願手続	6
ii.	出願書類	7
IV.	入学者選抜方法と受験票	9
i.	学力検査	9
ii.	受験票	9
V.	合格者発表	9
VI.	入学料及び授業料と入学手続	9
VII.	注意事項	9
VIII.	共通部分に関する問合せ先	10
IX.	入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）について	10
X.	修士課程入学後の教育プログラムについて	10
XI.	博士課程教育リーディングプログラムについて	11
XII.	卓越大学院プログラムについて	11
XIII.	スーパーグローバルコースについて	11
XIV.	大学院修士課程ダブルディグリープログラムについて	11
XV.	表 修士後期課程入学後の教育プログラムと入試区分・専攻	12
XVI.	試験日程一覧	13
Part B	<u>入試区分別入学試験詳細</u>	25

Contents

<u>Part A</u>	<u>Common Part for All Divisions/Departments</u>	14
I.	Number to Be Accepted.....	14
II.	Eligibility and its screening.....	14
i.	Eligibility.....	14
ii.	Eligibility Confirmation (under requirement (3) (4) (5) (6)).....	15
iii.	Eligibility Screening (under requirement (9)(10)).....	15
III.	Application.....	16
i.	Application Procedures.....	16
ii.	Application Documents.....	17
IV .	Selection Methods and Examination Voucher.....	19
i.	Academic Examination.....	19
ii.	Examination Voucher.....	19
V.	Announcement of Entrance Examination Results.....	19
VI.	Admission Fee, Tuition and Admission Procedure.....	19
VII .	Notes.....	20
VIII.	Contact Information for Inquiries Regarding Common Part for All Departments	20
IX.	Admission Policy.....	21
X.	Educational Programs in Master's Program.....	21
XI.	Program for Leading Graduate Schools.....	21
XII.	Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education.....	21
XIII.	Top Global Course.....	21
XIV.	Master's Double Degree Program.....	21
XV.	Table: Educational Program and Division/Department.....	22
XVI.	List of Examination Schedule.....	23
<u>Part B</u>	<u>Details of Entrance Examinations of each Division/Department</u>	25

Part A 全入試区分共通部分

※本募集要項の記載内容については日本語版が優先となります。

京都大学大学院工学研究科の修士課程は、大学院設置基準第4条第4項にいう博士課程の前期2年の課程です。

本試験の結果が、各入試区分ごとに定められた基準以上のものを有資格者とし、その中から合格者を決定します。なお、合格者発表後、辞退等があれば有資格者の中から繰り上げ合格者を決定します。

I. 募集人員 688 名

入 試 区 分	分 属 専 攻	募集人員
社会基盤・都市社会系	社会基盤工学専攻	58 名
	都市社会工学専攻	57 名
都市環境工学	都市環境工学専攻	36 名
建築学	建築学専攻	75 名
機械工学群	機械理工学専攻	59 名
	マイクロエンジニアリング専攻	30 名
	航空宇宙工学専攻	24 名
原子核工学	原子核工学専攻	23 名
材料工学	材料工学専攻	38 名
電気系	電気工学専攻	38 名
	電子工学専攻	35 名
創成化学専攻群	材料化学専攻	29 名
	高分子化学専攻	46 名
先端化学専攻群	物質エネルギー化学専攻	39 名
	分子工学専攻	35 名
	合成・生物化学専攻	32 名
化学工学	化学工学専攻	34 名

- (1) 社会基盤・都市社会系、機械工学群、電気系、創成化学専攻群及び先端化学専攻群では、各系・各群・各専攻群ごとに一括募集を行い、合格者決定後、各専攻に配属します。
- (2) 各専攻の内容については、「入試区分別入学試験詳細」を参照してください。

II. 出願資格と出願資格の審査

出願時において、次の各号のいずれかに該当する者、又は次の各号のいずれかに 2026 年 3 月末日までに該当する見込みの者

i. 出願資格

- (1) 日本の大学又は専門職大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者（ii 参照）
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者（ii 参照）
- (5) 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者（ii 参照）
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者（ii 参照）
- (7) 文部科学大臣が指定する専修学校の専門課程を文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号）
- (9) 日本の大学又は専門職大学に 3 年以上在学した者（学校教育法第 102 条第 2 項の規定により、これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、京都大学大学院工学研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者（iii 参照）

- (10) 京都大学大学院工学研究科において、個別の入学資格審査により、大学又は専門職大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者（Ⅲ参照）

ii. 出願資格の確認（出願資格(3)(4)(5)(6) 外国の大学を卒業した者等（京都大学大学院工学研究科研究生は除く））

出願資格(3)(4)(5)(6)により出願を希望する者（外国の大学を卒業した者及び卒業見込みの者又は外国において学士の学位を取得した者及び取得見込みの者（京都大学大学院工学研究科研究生は除く））は、事前に確認のため、必ずアドミッション支援オフィス（Admissions Assistance Office/AAO）で手続きを行ってください。詳しくは、以下のホームページに掲載していますので確認してください。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/international/students1/study1/graduate/graduateinfo/ku-aa0>

その後、履歴書（Ⅲ-ii-⑤）を、2025年5月12日（月）午後5時までに大学院掛（Ⅷ参照）へメールで提出してください（件名は「出願資格確認」としてください）。

iii. 出願資格の審査（出願資格(9)(10)）

出願資格(9)又は(10)により出願を希望する者には、出願に先立ち出願資格の審査を行いますので、次の書類を大学院掛（Ⅷ参照）へ提出してください。郵送する場合は、封筒の表に「工学研究科修士課程出願資格認定申請」と朱書きし、必ず「書留」にしてください。

提出期限：2025年5月19日（月）午後5時（必着）

〔出願資格審査提出書類〕

(1) 出願資格認定申請・調書	(出願資格(9)又は(10)該当者)様式は工学研究科ホームページからダウンロードしてください。
(2) 推薦書	(出願資格(9)該当者)在籍する大学が作成し、厳封したものを提出してください。(様式随意)
(3) 成績証明書	(出願資格(9)該当者)在籍する大学が作成し、厳封したものを提出してください。 (出願資格(10)該当者)最終出身学校が作成し、厳封したものを提出してください。
(4) 教育課程表	(出願資格(9)該当者)在籍する学科等の開講科目の講義内容等が記載されているものを提出してください。

1. 出願資格(9)により出願資格の認定申請をした者には、書類審査を行います。
2. 出願資格(10)により出願資格の認定申請をした者には、書類審査並びに大学卒業程度の学力について筆記試験又は口頭試問若しくはその両方を行います。
3. 試験及び試問は、2025年5月28日（水）に京都大学大学院工学研究科において行います。
4. 資格審査の結果は、2025年5月30日（金）に申請者あて郵送により通知します。

Ⅲ. 出願要領

i. 出願手続

出願手続は、下記期限内に「①インターネット出願システムでの出願登録および入学検定料納入」、および「②出願書類の提出（郵送または持参）」をすることにより完了します。

インターネット出願システムのページには、以下の URL からアクセスしてください。

<https://prod.shutsugan.ucaro.jp/kyoto-u-daigakuin/top>

- (1) 出願者は、角型 2 号の封筒（240 mm×332 mm）にインターネット出願システムから印刷した宛名ラベルを貼り、全ての出願書類（ii 参照）を封入し、書留速達扱いにて郵便局の窓口より郵送（郵便ポストへの投函不可）又は持参してください（※宛名ラベルは出願登録完了後に印刷できます）。海外から発送する場合は、追跡可能な国際郵便サービス（EMS, UPS, DHL, FedEx など）で送ってください。
- (2) 出願書類に不備があるもの及び出願期間後に郵送、提出された出願書類は受理しませんので注意してください。
- (3) 出願書類受理後は、出願事項の変更は認めませんので注意してください。
- (4) 次に該当する場合には納付済の検定料を返還します。
 1. 検定料は納付したが京都大学大学院工学研究科に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合
 2. 検定料を誤って二重に納付した場合※検定料返還を希望する場合は、以下の事項を大学院掛（Ⅷ参照）にメールでお知らせください。
①志願者氏名、②郵便番号、③住所、④電話番号、⑤検定料の納入方法、⑥納入した金融機関名又はコンビニエンスストア名及び支店名
- (5) 志望する入試区分（専攻・系・群・専攻群）によっては、独自の書類の提出を課していることがあります。「入試区分別入学試験詳細」をよく読んで対応してください。
- (6) 複数の入試区分への出願は認めません。
- (7) 障害等があり、受験上あるいは修学上の合理的配慮を必要とする場合は、協議しますのでご相談ください。なお、内容によっては対応に時間を要することもありますので、相談を希望する者は、出願前の早い時期に大学院掛（Ⅷ参照）へ申し出てください。

① インターネット出願システムでの出願登録および入学検定料納入期間：

2025 年 5 月 28 日（水）～6 月 10 日（火）午後 5 時まで

② 出願書類提出期間（郵送または持参）：

2025 年 5 月 28 日（水）～6 月 11 日（水）午後 5 時（必着）

①の期間中にインターネット出願の登録と入学検定料の納入を済ませ、なおかつ②の期間中に書類が本研究科に到着していなければなりません。

※ただし、6 月 9 日（月）以前の日本の発信局消印がある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合においても受理します。

- 受付方法：原則郵送とする（郵便局窓口にて書留速達便を申し込むこと）。ただし、所要により大学に来ている場合は専用ボックスに提出してもよい（対面での受付は行わない）。
- 書類に不備があった場合、再提出等を求める場合があるため、締切まで余裕を持って提出すること。
- 送付先：〒615-8530 京都市西京区京都大学桂 京都大学工学研究科教務課大学院掛
- 専用ボックス受付期間：出願書類提出期間中の平日の午前 9 時～午後 5 時
- 専用ボックス設置場所：桂キャンパス B クラスター事務管理棟 1 階教務課大学院掛窓口前
- 持参による提出の場合も、インターネット出願システムより出力できる郵送用の宛名ラベルを貼付した封筒に入れ、封をした状態で専用ボックスに入れてください。

ii. 出願書類

【A 全員提出が必要】

① 志願票・写真票 ※出願登録を完了しないと印刷できません。	インターネット出願システムの出願登録完了画面から A4 で印刷してください。 写真票には、上半身脱帽正面向きで出願前 3 か月以内に単身で撮影した写真 1 枚（縦 4 cm×横 3 cm）を枠内に貼り付けてください。 ※おって、大学から送付する受験票に写真を貼付する必要があるため、あらかじめ同じ写真をもう 1 枚準備しておいてください。
② 受験票送付用封筒 ※海外への発送は行いません（下記注意事項参照）。	工学研究科ホームページからダウンロードした受験票送付用ラベルに 410 円切手（速達）を貼付のうえ、受験票発送時の連絡先、志望入試区分を記入し、<u>長形 3 号の封筒（120 mm×235 mm）に貼り付けてください。</u> <u>※カラーで印刷してください。白黒の場合は上部に朱書きで速達と分かるように線を引いてください。</u>
③ 合格者受験番号一覧送付用封筒 ※海外への発送は行いません（下記注意事項参照）。	工学研究科ホームページからダウンロードした合格者受験番号一覧送付用ラベルに 110 円切手を貼付のうえ、合格者発表時の連絡先、入試区分を記入し、<u>長形 3 号の封筒（120 mm×235 mm）に貼り付けてください。</u>
④ 在留カード（両面）のコピー ※ 外国人留学生のみ	出願時に提出できない者は、パスポートのコピー（顔写真のあるページ）を提出し、入学時までには必ず在留カード（両面）のコピーを提出してください。
⑤ 履歴書	工学研究科ホームページから様式をダウンロードし、履歴に空白期間のないように記載してください。重国籍者はすべての国籍を記載してください。A4 で印刷してください。
⑥ 入学検定料 ※京都大学総長が指定する災害による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災された方で、罹災証明書等を得ることができる場合は入学検定料を免除または返還することがあります。対象となる災害及び要件については、京都大学ホームページ（「入学検定料の免除について」https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/fees-exemption）を参照してください。 詳しくは、工学研究科 教務課 大学院掛まで問い合わせてください。	入学検定料 30,000 円 支払い方法は、インターネット出願時に以下のいずれかを選択してください。 ・コンビニエンスストア ・クレジットカード ・金融機関 ATM [Pay-easy] ・ネットバンキング ※入学検定料の他に支払い手数料（650 円）が必要となります。 ※出願書類受理後の入学検定料の払い戻しには応じません。（左記「総長が指定する災害」による免除対象者及び下記の国費留学生として入学することが決定した者を除く） ※国費留学生については、入学後に検定料を返還します。ただし、検定料支払い時の手数料は返還されません。また、検定料返還時にかかる振込み手数料は受験者の負担となります。出願時点で国費留学生であり、かつ、京都大学工学部・工学研究科以外に在籍している者は「国費留学生証明書」を提出してください。出願時点で国費留学生として選考中である者は「第一次選考合格証明書」等を提出してください。なお、現在国費留学生であっても入学時に延長されない場合は、<u>入学検定料は返還されません。</u>

注意：海外在住の場合は、日本の切手や封筒の入手及び工学研究科から送付する書類の受け取りについて、研究室あるいは日本に在住している知人に代理受領を依頼するなど、予め手配しておいてください。

【B 外国の大学を卒業した者及び卒業見込みの者（京都大学大学院工学研究科研究生は除く）は、上記A（①～⑥）に加えて以下の書類（⑦～⑨）が必要】

⑦ 成績証明書	本紙（オリジナル）を提出してください。 なお出願時点で大学を卒業している場合は、卒業日以降に発行された成績証明書を提出してください。
⑧ 卒業（見込）証明書および学位授与証明書	本紙（オリジナル）を提出してください。 なお、卒業証明書等で学位取得が確認できる場合は学位授与証明書の提出は不要です。
⑨ 推薦書	出身大学（卒業見込者は在学大学）の指導教員等が作成したもの。推薦者が所属する機関の公式なレターヘッドが印刷された用紙を使用して、以下（１）～（６）の内容が記載されていること。 （１）出願者の学力、研究者や専門家としての適性、人物像、学業や研究の成果等についての総合的な所見 （２）出願者氏名 （３）出願者との関係 （４）推薦者の所属、身分、連絡先（Eメールアドレス含む） （５）推薦者の自筆による署名 （６）作成年月日 ※必要に応じて推薦者に推薦内容を照会することがあります。

※ 日本語または英語以外で書かれている証明書を提出する場合は、日本語訳（または英語訳）を添付してください。

※ （再掲）外国の大学を卒業した者及び卒業見込みの者又は外国において学士の学位を取得した者及び取得見込みの者は、事前に出願資格の確認が必要です（II-ii 参照）。

【C 日本の大学（京都大学工学部を除く）を卒業した者及び卒業見込みの者は、上記A（①～⑥）に加えて以下の書類（⑦、⑧）が必要】

⑦ 成績証明書	本紙（オリジナル）を提出してください。 なお出願時点で大学を卒業している場合は、卒業日以降に発行された成績証明書を提出してください。
⑧ 卒業（見込）証明書	本紙（オリジナル）を提出してください。

【D 出願資格（2）に該当する者は、上記A（①～⑥）に加えて以下の書類（⑦、⑧、⑩）が必要】

⑦ 成績証明書	本紙（オリジナル）を提出してください。高等専門学校修了（見込）者は本科及び専攻科の両方が必要です。 なお出願時点で当該学校を修了している場合は、修了日以降に発行された成績証明書を提出してください。
⑧ 卒業（見込）証明書	本紙（オリジナル）を提出してください。
⑩ 学士の学位授与証明書	大学評価・学位授与機構に学士の学位を申請する予定の者は、学校長名の学位授与申請予定である旨の証明書（学位が得られないこととなった場合は、そのことを速やかに通知する旨の記載があるもの）を提出してください。

◎ 各入試区分において、上記の書類とは別に書類を求める場合がありますので、注意してください。
詳細は、「入試区分別入学試験詳細」を参照してください。

IV. 入学者選抜方法と受験票

入学者の選抜は、出願書類の内容、学力検査の成績を総合して行います。

i. 学力検査

(1) 学力検査日： 2025 年 7 月 31 日（木）～8 月 8 日（金）

なお、詳細については、「XV 試験日程一覧」及び「入試区分別入学試験詳細」を参照してください。

(2) 試験当日は、特に指定のない場合は試験開始 20 分前までに当該試験室前に集合してください。

(3) 台風接近時の学力検査の実施について

台風等により学力検査日程への影響が懸念される場合は、下記工学研究科ホームページから実施についての告知を行います。

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/graduate/exam1>

ii. 受験票

受験票は、受験票送付用封筒に記入された住所へ 7 月中旬に郵送します。

V. 合格者発表

日時： 2025 年 8 月 22 日（金）17 時

上記日時に、「合格者受験番号一覧」および「有資格者（※）番号一覧」を京都大学大学院工学研究科インターネットホームページに掲載するとともに郵送します（ただし、合格者には「合格通知書」のみを送付します）。電話等による問い合わせには応じません。

※合格者発表後、辞退等があれば有資格者の中から繰り上げ合格を実施することがあります。繰り上げ合格者に該当した受験者には、2026 年 2 月 10 日（火）までに連絡します。ただし、専攻または入試区分により、上記より早く期限を設定している場合がありますので、入試区分別入学試験詳細を参照してください。

VI. 入学科及び授業料と入学手続

(1) 入学科及び授業料

【入学科】282,000 円 ※国費留学生として入学予定の者は不要

【授業料】半期額 267,900 円（年額 535,800 円）※国費留学生として在学中は不要

注：入学科及び授業料は予定額ですので、改定されることがあります。入学時及び在学中に改定された場合には、改定時から新入学科及び新授業料が適用されます。

(2) 入学手続

(1) 入学日は 2026 年 4 月 1 日です。

(2) 合格者の入学手続の詳細については、2026 年 3 月上旬に郵送により通知します。

(3) 事情により入学を辞退する者は、直ちにその旨を各専攻事務室（クラスター事務区教務掛）に届け出てください。

(4) 留学生は、2026 年 4 月 1 日までに留学ビザを取得しておいてください。

(5) 入学手続き日は 2026 年 3 月中旬の予定です。

(6) 入学手続き日等の情報は 2026 年 1 月下旬に京都大学大学院工学研究科ホームページに掲載予定です。

VII. 注意事項

(1) 個人情報の取扱いについて

個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び「京都大学における個人情報の保護に関する規程」に基づいて取り扱います。

入学者選抜を通じて取得した氏名、性別、生年月日、住所、その他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）関係、②合格者発表関係、③入学手続業務を行うために利用します。

入学者選抜を通じて取得した個人情報（成績判定に関する情報を含む）は、入学者のみ①教務関係（学籍管理、修学指導、教育課程の改善等）、②学生支援関係（保健管理、就職支援、授業料免除・奨

学金申請等)、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

なお、入学者選抜を通じて取得した個人情報や電算処理する場合、当該電算処理に係る業務を外部の業者等に行わせるために当該業者に個人情報を提供することがあります。ただし、この場合には、当該業者に対して個人情報保護法の趣旨に則った保護管理の業務を契約により課します。

(2) 安全保障輸出管理について

京都大学では、外国人留学生等への教育・研究内容が、国際的な平和及び安全の維持を妨げることが無いよう、「外国為替及び外国貿易法」に基づく安全保障輸出管理を行っています。規制事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない場合や研究ができない場合がありますので、注意してください。

(3) 長期履修学生制度について

工学研究科では、仕事・出産・育児・介護・身体等の障害などの事情に基づき、標準修業年限の2倍までの間で計画的に教育課程を履修することを認める長期履修学生制度を導入しています。希望者は、詳細を工学研究科ホームページ-入学案内ページで確認のうえ、12月末までに申請してください。

Ⅷ. 共通部分に関する問合せ先

〒615-8530 京都市西京区京都大学桂

京都大学工学研究科教務課大学院掛

TEL 075-383-2040・2041

E-Mail 090kdaigakuin-nyushi@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

大学院入試に関する情報については、工学研究科及び各専攻のホームページに随時掲載しております。

台風等による入試日程への影響が懸念される場合にも、下記ホームページから実施についての告知を行います。

※工学研究科のホームページ：<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja>

※各専攻のホームページ：上記の URL よりアクセスしてください。

Ⅸ. 入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）について

(1) 工学研究科の理念・目的

工学は、真理を探究し、その真理を核として人類の生活に直接・間接に関与する科学技術を創造する役割を担っており、地球社会の持続的な発展と文化の創造に対して大きな責任を負っています。京都大学大学院工学研究科は、この認識のもとで、学問の基礎や原理を重視して自然環境と調和のとれた科学技術の発展を先導するとともに、高度の専門能力と創造性、ならびに豊かな教養と高い倫理性・責任感を兼ね備えた人材を育成することをめざしています。

(2) 望む学生像

工学研究科修士課程では、次のような入学者を求めます。

○工学研究科が掲げる理念と目的に共感し、これを実現しようとする意欲を有する人。

○専門分野とこれに関連する諸分野において真理を探究するために必要な基礎知識を有し、それを踏まえた論理的思考と既成概念にとらわれない判断力を有する人。

○科学技術および社会の諸課題について、知識を総合しその解決に取り組む中で創造的に新しい科学技術の世界を開拓しようとする意欲と実行力に満ちた人。

○他者の意見を理解し、自らの意見や主張をわかりやすく表明できるコミュニケーションの基礎的能力を持った人。

入学者選抜では、個別学力検査を実施し、学修を希望する専門分野の基礎的知識とそれを踏まえた論理的な思考能力に重点をおきつつ、英語の能力も含めて評価・選抜しています。なお、各評価方法等の詳細については、本募集要項に明記しています。

X. 修士課程入学後の教育プログラムについて

京都大学大学院工学研究科では2008年4月入学者から、従来の修士課程教育プログラムに加えて、博士学位の修得を目指す諸君を対象に新たな教育プログラム『大学院博士課程前後期連携教育プログ

ラム』を創設しました。修士課程（博士前期課程）入試に合格し入学を許可された諸君は、所定の審査の後、教育プログラムのいずれかを選択することになります。

各プログラムの詳細については、工学研究科 HP（「工学研究科教育プログラム」）をご確認ください。

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>

XI. 博士課程教育リーディングプログラムについて

京都大学では、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへ導くため、2012年度から博士課程教育リーディングプログラムを開始しました。

工学研究科が参画しているプログラム（5年一貫コース）の内容については、工学研究科HP（「博士課程教育リーディングプログラム」）をご確認ください。

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/programs/hakase>

XII. 卓越大学院プログラムについて

京都大学では、国内外の大学・研究機関・民間企業等と組織的な連携を行いつつ、世界最高水準の教育力・研究力を結集した5年一貫の博士課程学位プログラムを構築するため、2019年度から卓越大学院プログラムを開始しました。

プログラムの内容については、工学研究科HP（「卓越大学院プログラム」）をご確認ください。

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/programs/takuetsu>

XIII. スーパーグローバルコースについて

京都大学では、先見性を重視する本学の精神にもとづき、戦略性、創造性、展開性ならびに継続性をもって世界で活躍するグローバル人材を育成するトップ型日本モデルとして、スーパーグローバル大学創成支援「京都大学ジャパングートウェイ構想」を2014年度より開始しました。

工学研究科では、この事業に6専攻（材料化学専攻、物質エネルギー化学専攻、分子工学専攻、高分子化学専攻、合成・生物化学専攻、化学工学専攻）が参画しており、その一環として「スーパーグローバルコース」を設置しました。当コースの履修生は、上記の化学系6専攻入試の合格者で博士後期課程への進学を目指す学生から選抜され、選抜された学生は、融合工学コース物質機能・変換科学分野所属となります。

コースの内容については、工学研究科HP（「スーパーグローバルコース」）をご確認ください。

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/programs/sgu>

XIV. 大学院修士課程ダブルディグリープログラムについて

京都大学では、協定大学と双方がそれぞれ学位を授与するダブルディグリープログラムを提供しています。

工学研究科では2022年度4月より、中国清華大学深セン国際研究生院との修士課程ダブルディグリープログラムを開始しました。本ダブルディグリープログラムは、京都大学（日本）と清華大学（中国）の両方で、計3年間学び、修了時に二つの修士学位が取得できるプログラムです。対象は、都市環境工学専攻修士課程の学生であり、本入試に合格し、入学後、1か月以内に、本プログラム参加希望者の募集をします。ただし、中国国籍の学生は対象になりません。

プログラムの内容については、京都大学オンサイトラボラトリー、環境技術共同研究・教育センターHPをご確認ください。

<https://crecet.env.kyoto-u.ac.jp/ddp/>

XV. 表 修士課程入学後の教育プログラムと入試区分・専攻

教育プログラム		対応する入試区分・専攻
連携プログラム	高等教育院	
	融合工学コース	
	a. 応用力学分野	社会基盤工学、機械理工学、マイクロエンジニアリング、航空宇宙工学、原子核工学、化学工学
	b. 物質機能・変換科学分野	機械理工学、マイクロエンジニアリング、航空宇宙工学、材料工学、材料化学、物質エネルギー化学、分子工学、高分子化学、合成・生物化学、化学工学
	c. 生命・医工融合分野	機械理工学、マイクロエンジニアリング、原子核工学、物質エネルギー化学、分子工学、高分子化学、合成・生物化学、化学工学
	d. 融合光・電子科学創成分野	機械理工学、マイクロエンジニアリング、電気工学、電子工学
	e. 人間安全保障工学分野	社会基盤工学、都市社会工学、都市環境工学
	f. デザイン工学分野	建築学、機械理工学、マイクロエンジニアリング、航空宇宙工学
	g. 総合医療工学分野	機械理工学、マイクロエンジニアリング、原子核工学、材料化学、物質エネルギー化学、分子工学、高分子化学、合成・生物化学、化学工学
	高度工学コース	
	社会基盤工学専攻	社会基盤・都市社会系
	都市社会工学専攻	
	都市環境工学専攻	
	建築学専攻	建築学 ※3年型のみ
	機械理工学専攻	機械工学群
	マイクロエンジニアリング専攻	
	航空宇宙工学専攻	
	原子核工学専攻	原子核工学
	材料工学専攻	材料工学
	電気工学専攻	電気系
	電子工学専攻	
	材料化学専攻	材料化学
	物質エネルギー化学専攻	物質エネルギー化学
	分子工学専攻	分子工学
	高分子化学専攻	高分子化学
	合成・生物化学専攻	合成・生物化学
	化学工学専攻	化学工学
	修士プログラム	
	社会基盤工学専攻	社会基盤・都市社会系
	都市社会工学専攻	
	都市環境工学専攻	
	建築学専攻	建築学
	機械理工学専攻	機械工学群
	マイクロエンジニアリング専攻	
	航空宇宙工学専攻	
	原子核工学専攻	原子核工学
	材料工学専攻	材料工学
	電気工学専攻	電気系
	電子工学専攻	
	材料化学専攻	創成化学専攻群
	高分子化学専攻	
	物質エネルギー化学専攻	先端化学専攻群
	分子工学専攻	
	合成・生物化学専攻	
	化学工学専攻	化学工学

※ 本表の「対応する入試区分・専攻」に属する全講座・分野には、必ずしも志望する教育プログラムが開講されているとは限らないので、「入試区分別入学試験詳細」で確認してください。

XVI. 試験日程一覧

詳細については、「入試区分別入学試験詳細」を参照してください。

入 試 区 分	コ ー ス	8 月 5 日 (火)		8 月 6 日 (水)	
		時 間	科 目	時 間	科 目
社会基盤・都市社会系 〔社会基盤工学専攻〕 〔都市社会工学専攻〕 TEL075-383-2967	一般学力選考	10:00～11:30 13:00～15:00	数学・物理(力学) 専門	なし	
	学科外別途選考Ⅰ型	10:00～11:30 13:00～14:20	数学・物理(力学) 専門	なし	
	学科外別途選考Ⅱ型 社会人別途選考	10:00～11:00 13:00～14:00	数学・物理(力学) (選択者のみ) 専門(選択者のみ)	9:00～	口頭試問
都市環境工学 TEL075-383-2969	一般学力選考	10:00～11:30 13:00～15:00	数学 専門	なし	
	特別選考	10:00～11:30 13:00～15:00	数学(選択者のみ) 専門(選択者のみ)	9:00～11:00 13:00～	小論文 口頭試問

入 試 区 分	コ ー ス	8 月 2 日 (土)		8 月 3 日 (日)	
		時 間	科 目	時 間	科 目
建築学 TEL075-383-2967	—	9:00～11:30 13:00～17:00	計画系科目 設計製図	9:00～11:30 13:00～14:30	構造系科目 環境系科目

入 試 区 分	コ ー ス	8 月 3 日 (日)		8 月 4 日 (月)	
		時 間	科 目	時 間	科 目
機械工学群 〔機械理工学専攻〕 〔マイクロエンジニアリング専攻〕 〔航空宇宙工学専攻〕 TEL075-383-3521	一般選考	9:30～11:30 13:00～14:30	数学 機械力学	9:00～12:30	専門科目
	特別選考	なし		14:30～	口頭試問

入 試 区 分	コ ー ス	8 月 5 日 (火)	
		時 間	科 目
原子核工学 TEL075-383-3521	—	10:00～11:00 12:30～15:30 16:00～17:00	工学基礎 専門 口頭試問(連携教育プログラム志望者のみ)

入 試 区 分	コ ー ス	8 月 4 日 (月)		8 月 5 日 (火)		8 月 6 日 (水)	
材料工学 TEL075-383-3521	一般選考	9:30～11:30 13:00～16:00	材料基礎学 A 材料基礎学 B	9:30～11:00 11:00～	工業数学 面接	なし	
	特別選考	なし		なし		9:30～	口頭試問

入 試 区 分	コ ー ス	8 月 2 日 (土)		8 月 3 日 (日)	
		時 間	科 目	時 間	科 目
電気系 〔電気工学専攻〕 〔電子工学専攻〕 TEL075-383-2077	修士課程 教育プログラム※	9:00～12:00 13:30～16:00	専門基礎 a 専門基礎 b	13:00～	面接 (留学生のみ)
	博士課程前後期連携 教育プログラム	なし		9:00～	面接

入 試 区 分	コ ー ス	8 月 6 日 (水)		8 月 7 日 (木)	
		時 間	科 目	時 間	科 目
創成化学専攻群 〔材料化学専攻〕 〔高分子化学専攻〕 TEL075-383-2077	—	9:30～11:30 12:45～14:45 15:30～17:00	物理化学 有機化学 専門科目(選択)	9:00～	口頭試問
先端化学専攻群 〔物質エネルギー化学専攻〕 〔分子工学専攻〕 〔合成・生物化学専攻〕 TEL075-383-2077	—	10:00～11:30 13:00～16:00	化学Ⅰ 化学Ⅱ	9:00～	口頭試問
化学工学 TEL075-383-2077	—	9:00-11:30 13:00-15:30 16:00-18:00	専門科目 1 専門科目 2 面接	なし	

Part A: Common Part for All Divisions/Departments

※The Japanese language version of the information provided here is to be given precedence.

The Master's Program at the Graduate School of Engineering, Kyoto University refers to the two-year program prior to the Doctoral Program, as stipulated in Article 4-4 of the University Establishment Standards.

The applicants who meet the standard set by the division/department is considered as a qualifier. The successful applicants will be decided among the qualifiers. When there are declensions after the announcement of successful applicants, the next qualifier in a waiting list in each division/department becomes an additional successful applicant.

I. Number to be accepted (expected capacity) 688

Division	Department	Expected Capacity
Civil and Earth Resources Engineering / Urban Management	Civil and Earth Resources Engineering	58
	Urban Management	57
Environmental Engineering	Environmental Engineering	36
Architecture and Architectural Engineering	Architecture and Architectural Engineering	75
Mechanical Engineering	Mechanical Engineering and Science	59
	Micro Engineering	30
	Aeronautics and Astronautics	24
Nuclear Engineering	Nuclear Engineering	23
Materials Science and Engineering	Materials Science and Engineering	38
Electrical and Electronic Engineering	Electrical Engineering	38
	Electronic Science and Engineering	35
Frontier Chemistry	Material Chemistry	29
	Polymer Chemistry	46
Advanced Chemistry	Energy and Hydrocarbon Chemistry	39
	Molecular Engineering	35
	Synthetic Chemistry and Biological Chemistry	32
Chemical Engineering	Chemical Engineering	34

- (1) The divisions of Civil and Earth Resources Engineering/Urban Management, Mechanical Engineering, Electrical and Electronic Engineering, Frontier Chemistry and Advanced Chemistry do lumping recruitment in each division, and then assign the successful applicants to the departments.
- (2) For further information on each division / department, refer to “Details of Entrance Examinations of Each Division / Department”.

II. Eligibility and its screening

i. Eligibility

Applicants must satisfy any of the following eligibility or will satisfy any of the following eligibility by the end of March 2026.

- (1) A person who has graduated from a Japanese university or Professional and Vocational University (hereinafter, referred to as PVU) .
- (2) A person who has received a bachelor's degree according to the provisions of Article 104, Paragraph 7 of the School Education Law.
- (3) A person who has completed a 16-years of formal school education in a foreign country. * ii
- (4) A person who has completed a 16-years of education by correspondence courses of a foreign-affiliated educational institution in Japan. * ii
- (5) A person who has completed a program(limited to a program whose graduates are regarded as having completed a 16-year course in the respective foreign country) of a foreign-affiliated educational institution in Japan which is accredited under the school education system of the respective foreign country as offering a undergraduate program of the foreign university(this includes the school equivalent to PVU in that country, the same shall apply hereinafter) and which is designated by the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology(hereinafter, referred to as the MEXT). * ii
- (6) A person who has received a degree equivalent to a bachelor's degree by completing a three-year or longer program at a foreign university or other foreign educational institution. The university or educational institution must have been accredited by the respective foreign government or a person certified by the appropriate foreign governmental agency, or have been so designated by the MEXT. (This includes a person who has completed an appropriate program offered by the respective foreign educational institution through distance learning while residing in Japan, and a person who has completed an appropriate foreign educational program at an educational institution in Japan as specified in the previous item.) * ii
- (7) A person who has completed the required course of study in a higher professional school designated by the MEXT after a date specified by the MEXT.

- (8) A person designated by the MEXT (under Notification No.5, Minister of Education, 1953)
- (9) A person having attended a Japanese university/PVU for at least 3 years(including a person designated by the MEXT as satisfying Article 102 Paragraph 2 of the School Education Act) and having been recognized by the Graduate School of Engineering, Kyoto University as having achieved excellent grades in certain determined classes. *iii
- (10) A person who has reached the age of 22, and has been recognized by the individual screening in the Graduate School of Engineering, Kyoto University as having academic abilities equivalent or superior to those of university/PVU graduates. *iii

ii. Eligibility Confirmation (under requirements (3)(4)(5)(6))

(Except Research students of Graduate School of Engineering, Kyoto University)

A person who has graduated or expects to graduate from a foreign university, or a person who has received or is expected to receive a bachelor's degree from a foreign university, are required to contact the Admissions Assistance Office (AAO) for a preliminary screening. For details, refer to the following website.

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/international/students1/study1/graduate/graduateinfo/ku-aao>

After contacting the AAO, submit the Resume form prescribed in III-ii-⑤ to the Graduate Student Section (refer to VIII)

. by 5:00pm, 12May 2025 by email. The subject of the email is to be “Eligibility Confirmation”.

iii. Eligibility Screening (under requirement (9)(10))

Those who intend to apply under requirement (9) or (10) above are subject to screening prior to Application. The documents below must be submitted to the Graduate Student Section (refer to VIII).

When mailing, use registered mail and mark “For eligibility screening for application to Master’s Program in Graduate School of Engineering” in red on the envelope. The required documents must arrive by 5:00 pm, 19 May 2025.

[Documents necessary for eligibility screening]

(1) Eligibility statement	(Applicants under requirement (9) or (10)) Download the designated form from the website of the Graduate School of Engineering.
(2) Recommendations	(Applicants under (9)) To be prepared and sent in a sealed envelope by the university at which the applicant has been enrolled (any format is acceptable).
(3) Academic transcript	(Applicants under (9)) To be prepared and sent in a sealed envelope by the university at which the applicant has been enrolled. (Applicants under (10)) To be prepared and sent in a sealed envelope by the last university at which the applicant is or was enrolled.
(4) Curriculum	(Applicants under (9)) The curriculum including class descriptions is to be provided by the university department at which the applicant has been enrolled.

1. Applicants under (9) above are screened by the submitted documents.
2. Applicants applied under (10) above are screened by both the submitted documents and either a written or oral examinations (or both) for evaluating their academic abilities.
3. The written and/or oral examinations will be conducted on 28 May 2025 at the Graduate School of Engineering.
4. The screening results will be mailed on 30 May 2025.

III. Application

i. Application Procedures

The application procedure will be completed when you registered your information and make payment for entrance exam fee on the Kyoto University Online Application(①) and submit the application documents in paper by mail or bringing (②) within the designated periods.

Access the Kyoto University Online Application from the following URL.

<https://prod.shutsugan.ucaro.jp/kyoto-u-daigakuin/top>

- (1) You should paste the label that you can print from the registration completion screen of the Kyoto University Online Application on a square shape envelope(Size 240 mm × 332 mm), and enclose all the completed application documents prescribed in ii by registered express mail or direct submission. Overseas applicants must send the documents by registered express mail (e.g. EMS, UPS, DHL or FedEx).
- (2) Incomplete documents or those submitted after the designated period(②) will not be accepted.
- (3) No changes are allowed in applications once they have been received.
- (4) The entrance exam fee will be returned to the applicant under the following circumstances only.
 1. The fee was paid but the applicant did not apply for the Graduate School of Engineering, Kyoto University. (No application was made for the Graduate School of Engineering, or an application was not accepted by the Graduate School of Engineering).
 2. The applicant inadvertently made a double payment of the fee.※If you wish to request a refund of entrance exam fee, please send us the following information by email (for contact information, refer to VIII) on ①Name of Applicants, ②Postal Code, ③Address, ④Phone Number, ⑤Payment method of entrance exam fee, ⑥Bank or Convenience Store you used for payment and its branch name.
- (5) In some divisions/departments, additional documents are required. Read “Details of Entrance Examinations of Each Division/Department” carefully so that you can prepare complete application documents.
- (6) Simultaneous applications to multiple divisions and/or departments are not allowed.
- (7) Persons with disabilities who need reasonable accommodation are invited to consult with the Graduate School of Engineering when taking the entrance examination and attending courses. Those persons are advised to contact the Graduate Student Section(refer to VIII) well in advance since it may require some time for the university to prepare for appropriate correspondence.

**① Registration and Payment Period on the Kyoto University Online Application :
28 May, 2025, Wednesday to 10 June, 2025, Tuesday 5:00 pm**

**② Application Documents Submission Period:
28 May, 2025, Wednesday to 11 June, 2025, Wednesday 5:00 pm (must arrive)**

Applicants must register and make payment on the Kyoto University Online Application within the aforementioned period① and all the documents must arrive at Graduate School of Engineering within the aforementioned period②.

The application documents postmarked by Japan Post on or before 9 June and sent by registered express mail will also be accepted even if they arrive after the deadline.

- The submission methods: please send the documents by registered express, which you need deposit at a Japan Post office. Applicants can also submit the documents to the designated box installed on the 1st Floor of Cluster B Administration Complex Katsura campus. We do not accept face-to-face application.
 - Please submit the documents well in advance, since we might require applicants to deal with some problems regarding the procedure after submission.
 - Shipping address: Graduate Student Section, Educational Affairs Division, Graduate School of Engineering, Kyoto University Katsura, Nishikyo-Ku, Kyoto 615-8530, JAPAN
 - Acceptance hours by the designated box: 9:00am – 5:00pm on weekdays in the aforementioned period ②.
- Be sure to enclose all the application documents in an envelope with the address label that can be downloaded from the Kyoto University Online Application, seal it and put it in the designated box.

ii. Application Documents

【A. All Applicants are required to submit the following documents (①to⑥)】

① Application form / Photograph card *You can't print out this form unless completing registration on website.	Submit the designated form that you can print from registration completion screen of the Kyoto University Online Application. Affix a photograph taken within 3months (Single, Upper body front facing without hat) size (4 cm × 3 cm). You will need to affix the same photograph on an examination voucher which we will send you later, so prepare a total of 2 photographs in advance.
② Return envelope for receiving an examination voucher *We will not ship overseas. Read *note below.	Affix a total of ¥410 postage stamp (for sending in express mail) and write the name of the division you apply and mailing address in Japan to a label for sending examination voucher, which can be downloaded from the website of the Graduate School of Engineering, and paste it to a long type envelope (Size 120 mm × 235 mm). ※ Print the label in color. In the case of black and white print, draw a Red line under the letter of “速達” on the top.
③ Return Envelope for the result of entrance examination *We will not ship overseas. Read *note below.	Affix an ¥110 postage stamp and write the name of the division you apply and the mailing address in Japan to a label for sending the result of entrance examination, which can be downloaded from the website of the Graduate School of Engineering, and paste it to a long type envelope (Size 120 mm × 235 mm).
④ Photocopy of both sides of Residence card *Applicable only to international students	Applicants who do not have a residence card at the time of application need to submit a photocopy of his/her passport page with face photograph, then submit a photocopy of both sides of Residence card by the enrollment date.
⑤ Resume	Download the designated form from the website of the Graduate School of Engineering. Those who have multiple citizenships must list all the nationalities. Print it in A4 size. Fill out all items without blank.
⑥ Entrance exam fee ※ For households in regions where the Disaster Relief Act is effective and whose principal wage-earner has been adversely affected by the disasters listed in the website below, an exemption/refund may be made to the payment of Entrance Examination Fees for cases where a <i>risai shomeisho</i> (Disaster Victim Certificate) has been issued. For the list of the disasters and requirements of an exemption, refer to https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/fees-exemption For further details, contact the administrative office at the Graduate School of Engineering.	Entrance exam fee: ¥30,000 Select one payment method among four listed below when you apply to the Kyoto University Online Application. • Convenience Store • Credit Card • Bank ATM [Pay-easy] • Internet Banking ※Applicants are required to pay a processing fee (650 yen) as well as entrance exam fee. ※Entrance exam fee will not be refunded once your application is accepted, except for the cases given left. ※We will refund the entrance exam fee to the international students who receive the Japanese Government (Monbukagakusho) MEXT Scholarship after enrollment. We do not refund a processing fee. Bank transfer fee will be borne by the applicants when refunding. Those who enroll as MEXT scholarship student in other than Faculty/Graduate School of Engineering, Kyoto University must submit a MEXT Scholarship Student certificate. Those who are applying to MEXT scholarship must submit a Passing Certificate of the First Screening, etc.. We do not refund the entrance exam fee in case current MEXT scholarship students cannot extend their status as MEXT scholarship student after the enrollment.

※Note: We do not ship overseas, therefore, applicants who reside overseas must arrange how to prepare Japanese standard envelopes and postage stamps, and how to receive the return envelopes from us, for example, asking your prospective hosting laboratory or acquaintance in Japan to prepare such materials and to receive them on behalf of you.

【B. Applicants who has graduated or are expected to graduate from a foreign university should submit the following documents (⑦to⑨), in addition to those specified above A (①to⑥)】

(Except Research students of Graduate School of Engineering, Kyoto University)

⑦ Academic transcript	Submit the original document. If you are no longer enrolled in your bachelor's program at the time of application, submit the academic transcripts issued on or after the date of your graduation.
⑧ Certificate of (Expected) Graduation and Certificate of Bachelor's Degree Conferment	Submit the original document. If the graduation certificate shows that bachelor's degree has been conferred, they don't need to submit a Certificate of Bachelor's Degree Conferment.)
⑨ Letter of recommendation	Please submit a letter of recommendation from the supervisor of your current/former degree program. The letter of recommendation should include the following: (1) General remarks and overall impressions of the applicant (academic ability, aptitude for research or professional skills, character, quality of previous work, etc.) (2) Name of the applicant (3) Recommender's relationship with the applicant (4) Recommender's institution, position, and contact information including email address (5) Recommender's signature (in his/her own handwriting) (6) Date of issue Notes: i. There is no official form for letters of recommendation; the letter should be written on the official letterhead of the recommender's institution. ii. The recommender might be contacted to inquire about the contents of the recommendation letter.

※ If the certificate is not written in English or Japanese, its English or Japanese translation must be attached. (A translation by the applicant is acceptable.)

※Reminder: A person who has graduated or is expected to graduate from a foreign university, or a person who has received or is expected to receive a bachelor's degree from a foreign university, needs to go through aforementioned Eligibility Confirmation process (refer to II-ii).

【C Applicants who has graduated or are expected to graduate from a Japanese university (excluding Faculty of Engineering of Kyoto University) should submit the following documents (⑦to⑧), in addition to those specified above A (①to⑥)】

⑦ Academic transcript	Submit the original document. If you are no longer enrolled in your bachelor's program at the time of application, submit the academic transcripts issued on or after the date of your graduation.
⑧ Certificate of (Expected) Graduation	Submit the original document.

【D Applicants who meet the eligibility II-i-(2) should submit the following documents D(⑦,⑧,⑩), in addition to those specified above A (①to⑥)】

⑦ Academic transcript	Submit the original document. If you are no longer enrolled in your bachelor's program at the time of application, submit the academic transcripts issued on or after the date of your graduation. For the graduate/ the expected graduate from a college of technology, both of the documents for regular course and advanced course are required.
⑧ Certificate of (Expected) Graduation	Submit the original document.
⑩ Certificate of Bachelor's Degree Conferment	Submit a "Certificate of Expected Bachelor's Degree Conferment" signed or stamped by the head of the academic institution if you intend to apply for a bachelor's degree with the National Institution for Academic Degrees. (This must include a statement indicating that the applicant will promptly notify the Graduate School of Engineering, Kyoto University if and when the bachelor's degree is not conferred.)

※ In some divisions/departments, documents and procedures other than those indicated above may be required for application. For further information on each division/department, refer to "Details of Entrance Examinations of Each Division/Department".

IV. Selection Methods and Examination Voucher

Applicants shall be selected on the basis of the submitted documents and their results of the academic examination.

i. Academic Examination

(1) Dates 31 July 2025-8 August 2025

*For further information, refer to “XV. List of Examination Schedule” and “Details of Entrance Examinations of Each Division/Department”.

(2) Unless otherwise indicated, applicants must arrive at the designated room for the entrance examination by 20 minutes before the posted time.

(3) For those examinees who will have difficulty in taking the entrance exam due to the inclement weather (e.g. Typhoon) or emergencies, we will notice on the implementation of examination for Graduate School of Engineering, which will be posted on the following website.

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/en/admissions/graduate/exam1>

ii. Examination Voucher

The examination voucher will be mailed to the applicant in mid-July to the addresses written on the return envelope for receiving an examination voucher.

V. Announcement of Entrance Examination Results

Date and Time: 17:00, 22 August, 2025

List of examinee numbers of successful applicants and qualified applicants(*) will be posted on the website of the Graduate School of Engineering and mailed to the applicants (To successful applicants, only the letter of acceptance will be mailed). Inquiries by telephone is not available.

*After announcing the entrance examination results, if successful applicants decline the admission, the qualified applicants may be advanced and passed. In such cases the qualified applicants concerned will be notified by February 10, 2026 (Tuesday). However, the deadline may be set earlier than the above depending on division or department, so please refer to the Details of Entrance Examinations of Each Division/Department.

VI. Admission Fee, Tuition and Admission Procedure

1. Admission Fee and Tuition

Admission fee: ¥282,000

*International students expected to receive MEXT Scholarship are exempt from this fee.

Tuition: ¥267,900 for one semester (annually ¥535,800)

*International students receiving MEXT Scholarship are exempt from this fee.

Notes: The amounts quoted above are tentative and may be revised. If the amounts are amended at the time of admission or while the individual is registered as a student, the new amounts shall apply from the time of the amendment.

2. Admission Procedure

(1) Enrolment Date: April 1, 2026

(2) Instructions on admission procedure will be mailed to each successful applicant in early-March 2026.

(3) Notify the cluster office for each division/department immediately if the successful applicant declines admission.

(4) International students must obtain their student visas by 1 April 2026.

(5) The deadline for admission procedure is scheduled in mid-March 2026.

(6) Information regarding dates for enrollment procedure will be uploaded on the website of the Graduate School of Engineering in late-January 2026.

VII. Notes

(1) Handling of Personal Information

Personal information will be handled in accordance with “Act on the Protection of Personal Information” and “The personal information policy at Kyoto University”.

Name, gender, date of birth, address and other personal information provided through application is used for ①entrance examinations (application procedures and screening), ②announcement of successful applicants, ③ admission procedures.

In addition, personal information (including information relating to performance evaluation) of enrolled students provided through application is used for ①students affairs(management of students’ ID, academic supervision, improvement of educational curriculum, etc.), ② offering support to students (securing student health care, career support, application for tuition exemption and scholarship, etc.), ③collecting tuition fees.

Personal information provided through application may be provided to outside contractors for electronic data processing. In such cases, Kyoto University will conclude a contract with said outside contractor to ensure that personal information is managed and protected appropriately, in accordance with the Private Information Protection Law.

(2) Security Export Control

In Kyoto University, Security Export Control for the purpose of maintaining the peace and security of Japan and the international community is conducted in accordance with “Foreign Exchange and Foreign Trade Act”. International applicants who fall under any of the conditions set out in said regulations may be unable to enter their desired course or program.

(3) Long-Term Study Program

The Graduate School of Engineering provides the long-term study program that allow students to extend their study period up to twice of the standard study period for completion under certain circumstances/conditions such as work, childbirth, childcare, nursing to other family in special need and disabilities. If you wish to apply please confirm the details in the page of admissions of our website, and apply by the end of December.

VIII. Contact Information for Inquiries Regarding Common Part for All Departments

Graduate Student Section, Educational Affairs Division,
Graduate School of Engineering, Kyoto University
Address: Kyoto University Katsura, Nishikyo-Ku, Kyoto 615-8530, JAPAN
Phone: +81-75-383-2040 or +81-75-383-2041
E-Mail: 090kdaigakuin-nyushi@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

Information on the entrance exam is uploaded on the website of the Graduate School of Engineering and each department as needed.

For those examinees who will have difficulty in taking the entrance exam due to the inclement weather (e.g. Typhoon) or emergencies, we will notice on the implementation of examination for Graduate School of Engineering, which will be posted on the following website.

The website of the Graduate School of Engineering: <https://www.t.kyoto-u.ac.jp/en/>

The website of each department: Please access from above URL.

IX. Admission Policy

(1) Philosophy and Objectives

The pursuit of the truth is the essence of learning. Engineering is an academic field that impacts the lives of people, and is greatly responsible for the sustainability of social development and the formation of culture. The Graduate School of Engineering at Kyoto University, based on the above premise, is committed to the development of science and technology with an emphasis on disciplinary fundamentals and basic principles while harmonizing with the natural environment. At the same time, we aim to assist students in their pursuit of a rich education with specialized knowledge, as well as the ability for its creative application, while nurturing high ethical standards and sense of responsibility.

(2) Student Profile

The Graduate School of Engineering welcomes the following students:

- Individuals who agree the philosophy and objectives of the Graduate School of Engineering and those who achieve these things actively.
- Individuals who have the basic education to pursue the truth and also have the judgment with logical thinking and beyond established concepts in specialized fields and related fields.
- Individuals who have a strong desire and initiative to pioneer new fields of science technology while integrating knowledge and keeping on solving, regarding the science technology and the social issues.
- Individuals with basic communication ability who understands other opinions and also express own opinions and assertions in an easy to understand.

Entrance examination will be performed individual academic exam, evaluate and select the applicants including English ability, with emphasis on the basic knowledge of specialized field and those who have logical thinking abilities.

For detail of evaluation methods, it is mentioned in this Guidelines.

X. Educational Programs in Master's Program

As of April 2008, the Graduate School of Engineering instituted a new Integrated Master's-Doctoral Course Program for students who look beyond the master's to doctoral degree.

For further details, please refer to the following website:

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/en/education/graduate/dosj69>

XI. Program for Leading Graduate Schools

This program was started in 2012 in order to develop talented students into future leaders globally active across wide range of sectors in industry, academia and government, with a broad perspective and creativity.

For further details, please refer to the following website:

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/en/education/programs/hakase>

XII. Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education

Kyoto University's new Doctoral program for World-leading Innovative & Smart Education was launched in 2019 in order to create new 5-year doctoral programs that bring together world-class educational and research capabilities while incorporating with other universities, research institutes, and private companies in Japan and/or abroad through systematic collaboration.

For further details, please refer to the following website:

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/en/education/programs/takuetsu>

XIII. Top Global Course

The Japan Gateway: Kyoto University Top Global Program was launched in 2014 as a "Top Type" model university in Japan to foster global talent that will take active roles around the world with strategic vision, creativity, ability to develop ideas, and continuity. Currently six chemistry-related departments from the Graduate School of Engineering participate in this program. The members are selected from the students who pass the entrance examination of one of six chemistry-related departments and plan to study at the doctoral course. The selected students will belong to the Postgraduate Integrated Course Program of Materials Engineering and Chemistry in the Interdisciplinary Engineering Course.

For further details, please refer to the following website:

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/programs/sgu>

XIV. Master's Double Degree Program

Kyoto University offers a double degree program in which both partner universities award degrees to each other.

In April 2022, the Graduate School of Engineering launched a master's double degree program with the Shenzhen International Graduate School of Tsinghua University in China. This double degree program allows students to study for a total of three years at both Kyoto University (Japan) and Tsinghua University (China), and to obtain two master's degrees upon completion. The program is open to master's degree students in the Department of Environmental Engineering who have passed this entrance examination and who wish to participate in the program within one month of their enrollment. However, students of Chinese nationality are not eligible.

For details of the program, please refer to the HP of Kyoto University On-Site Laboratory, Cooperative Research and Education Center for Environmental Technology.

<https://crecet.env.kyoto-u.ac.jp/ddp/?lang=en>

XV. Table: Educational Program and Division/Department

Educational Program		Division/Department
Integrated Master's-Doctoral Course Program	Interdisciplinary Engineering Course	Advanced Engineering Education Center
		a Postgraduate Integrated Course Program of Applied Mechanics
		b Postgraduate Integrated Course Program of Materials Engineering and Chemistry
		c Postgraduate Integrated Course Program of Engineering for Life Science and Medicine
		d Postgraduate Integrated Course Program of Interdisciplinary Photonics and Electronics Science
		e Postgraduate Integrated Course Program of Human Security Engineering
		f Postgraduate Integrated Course Program of Design Studies
		g Postgraduate Integrated Course Program of Integrated Medical Engineering
	Advanced Engineering Course	Department of Civil and Earth Resources Engineering
		Department of Urban Management
		Department of Environmental Engineering
		Department of Architecture and Architectural Engineering
		Department of Mechanical Engineering and Science
		Department of Micro Engineering
		Department of Aeronautics and Astronautics
		Department of Nuclear Engineering
		Department of Materials Science and Engineering
		Department of Electrical Engineering
		Department of Electronic Science and Engineering
		Department of Material Chemistry
		Department of Energy and Hydrocarbon Chemistry
		Department of Molecular Engineering
		Department of Polymer Chemistry
		Department of Synthetic Chemistry and Biological Chemistry
		Department of Chemical Engineering
	Master's Course Program	Department of Civil and Earth Resources Engineering
		Department of Urban Management
		Department of Environmental Engineering
		Department of Architecture and Architectural Engineering
		Department of Mechanical Engineering and Science
		Department of Micro Engineering
		Department of Aeronautics and Astronautics
		Department of Nuclear Engineering
		Department of Materials Science and Engineering
		Department of Electrical Engineering
		Department of Electronic Science and Engineering
		Department of Material Chemistry
		Department of Polymer Chemistry
		Department of Energy and Hydrocarbon Chemistry
		Department of Molecular Engineering
		Department of Synthetic Chemistry and Biological Chemistry
		Department of Chemical Engineering

※ Each research laboratory at each department does not necessarily provide all educational programs listed on the table above. For detailed information, please refer to “Details of Entrance Examinations of Each Division/Department” to check whether your preferred educational program is available at each laboratory.

XVI. List of Examination Schedule

For further information, refer to “Details of Entrance Examinations of Each Division/Department”.

Division	Course	August 5(Tue)		August6 (Wed)	
		Time	Subject	Time	Subject
Division of Civil and Earth Resources Engineering / Urban Management Department of Civil and Earth Resources Engineering Department of Urban Management	General Academic Selection	10:00～11:30 13:00～15:00	Mathematics and Physics (Mechanics) Specialized Engineering Knowledge	—	
	Special Selection of Non-Civil, Environmental and Resources Engineering Students Type I	10:00～11:30 13:00～14:20	Mathematics and Physics (Mechanics) Specialized Engineering Knowledge	—	
	Special Selection of Non-Civil, Environmental and Resources Engineering Students Type II Special Selection of Career-Track Working Students	10:00～11:00 13:00～14:00	Mathematics and Physics (Mechanics) (only for those who select Mathematics of Physics (Mechanics) for examination subject) Specialized Engineering Knowledge (only for those who select one of Specialized Engineering Knowledge Subjects for examination subject)	9:00～	Oral Exam
Department of Environmental Engineering	General Academic Selection	10:00～11:30 13:00～15:00	Mathematics Specialized Subject	—	
	Special Selection	10:00～11:30 13:00～15:00	Mathematics (only for those who select Mathematics for examination subject) Specialized Subject (only for those who select Specialized Subjects for examination subject)	9:00～11:00 13:00～	Essay Oral Exam

Division	Course	August 2 (Sat)		August 3 (Sun)	
		Time	Subject	Time	Subject
Department of Architecture and Architectural Engineering	—	9:00～11:30 13:00～17:00	Planning and Design Design Drawing	9:00～11:30 13:00～14:30	Structural Engineering Environmental Engineering

Division	Course	August 3 (Sun)		August 4 (Mon)	
		Time	Subject	Time	Subject
Division of Mechanical Engineering Department of Mechanical Engineering and Science Department of Micro Engineering Department of Aeronautics and Astronautics	General Selection	9:30～11:30 13:00～14:30	Mathematics Dynamics of Machinery	9:00～12:30	Specialized Subjects
	Special Selection	—		14:30～	Oral Exam

Division	Course	August 5 (Tue)	
		Time	Subject
Department of Nuclear Engineering	—	10:00～11:00 12:30～15:30 16:00～17:00	Fundamentals of Engineering Major Subjects Oral Exam (Integrated Master's-Doctoral Course Program only)

Division	Course	August 4 (Mon)		August 5 (Tue)		August 6 (Wed)	
		Time	Subject	Time	Subject	Time	Subject
Department of Materials Science and Engineering	General Selection	9:30～11:30 13:00～16:00	Fundamentals of Materials A Fundamentals of Materials B	9:30～11:00 11:00～	Engineering Mathematics Interview	—	
	Special Selection	—		—		9:30～	Oral Exam

Division	Course	August 2 (Sat)		August 3 (Sun)	
		Time	Subject	Time	Subject
Division of Electrical and Electronic Engineering Department of Electrical Engineering Department of Electronic Science and Engineering	Master's Course Program	9:00～12:00 13:30～16:00	Basics of Specialized Subjects a Basics of Specialized Subjects b	13:00～	Interview (International Students only)
	Integrated Master's-Doctoral Course Program	—		9:00～	Interview

Division	Course	August 6 (Wed)		August 7 (Thu)	
		Time	Subject	Time	Subject
Division of Frontier Chemistry Department of Material Chemistry Department of Polymer Chemistry	—	9:30～11:30 12:45～14:45 15:30～17:00	Physical Chemistry Organic Chemistry Specialized Subject (Selection)	9:00～	Oral Exam
Division of Advanced Chemistry Department of Energy and Hydrocarbon Chemistry Department of Molecular Engineering Department of Synthetic Chemistry and Biological Chemistry	—	10:00～11:30 13:00～16:00	Chemistry I Chemistry II	9:00～	Oral Exam
Department of Chemical Engineering	—	9:00～11:30 13:00～15:30 16:00～18:00	Chemical Engineering 1 Chemical Engineering 2 Interview	—	

Part B: 入試区分別入学試験詳細

Details of Entrance Examinations of Each Division/Department

➤ 社会基盤・都市社会系（社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻）	26
Division of Civil and Earth Resources Engineering/Urban Management (Department of Civil and Earth Resources Engineering, Department of Urban Management)	
➤ 都市環境工学	37
Department of Environmental Engineering	
➤ 建築学	43
Department of Architecture and Architectural Engineering	
➤ 機械工学群（機械理工学専攻・マイクロエンジニアリング専攻・航空宇宙工学専攻）	47
Division of Mechanical Engineering (Department of Mechanical Engineering and Science, Department of Micro Engineering, Department of Aeronautics and Astronautics)	
➤ 原子核工学	60
Department of Nuclear Engineering	
➤ 材料工学	65
Department of Materials Science and Engineering	
➤ 電気系（電気工学専攻・電子工学専攻）	70
Division of Electrical and Electronic Engineering (Department of Electrical Engineering, Department of Electronic Science and Engineering)	
➤ 創成化学専攻群（材料化学専攻・高分子化学専攻）	80
Division of Frontier Chemistry (Department of Material Chemistry, Department of Polymer Chemistry)	
➤ 先端化学専攻群（物質エネルギー化学専攻・分子工学専攻・合成・生物化学専攻）	86
Division of Advanced Chemistry (Department of Energy and Hydrocarbon Chemistry, Department of Molecular Engineering, Department of Synthetic Chemistry and Biological Chemistry)	
➤ 化学工学	94
Department of Chemical Engineering	

※ 入試区分によっては、出願書類以外にこの「入試区分別入学試験詳細」により提出書類を指示している場合がありますので、注意してください。なお、「入試区分別入学試験詳細」で指示された提出書類については、出願書類とは別に、志望する入試区分の事務室（クラスター事務区教務掛）に直接提出してください。

※ Please be noted there are some cases that applicants are required to submit other documents specified on “Details of Entrance Examinations of Each Division/Department” page onward depending some of divisions/departments. And then these documents must be submitted to cluster office in each division/department.

社会基盤・都市社会系（社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻）

社会基盤工学専攻と都市社会工学専攻は合同で入学試験を実施し、受験生は両専攻の中から志望研究室や志望教員を選択できる。

I. 専攻別志望区分

以下に示す研究内容を参照し、予め志望区分の教員と十分に連絡をとり、受験する選考方法および研究計画等について相談すること。なお、各志望区分の教員の連絡先については、京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛（社会基盤・都市社会系 入試担当）に問い合わせること。

(1) 社会基盤工学専攻

志望 区分	研 究 内 容 (担当教員) (2025 年 4 月現在)	対応する教育プログラム		
		連携プログラム (融合工学コース)	連携プログラム (高度工学コース)	修士プログラム
1	応用力学：粒子法による流体解析、流体構造連成解析、乱流モデリング、海底トンネルの安定性評価、剛塑性有限要素法の開発と応用（西藤潤准教授・Khayyer, Abbas 准教授）	人間安全保障工学分野	志望区分 44 以外の任意の志望区分を選択することができます。	任意の志望区分を選択することができます。
2	構造材料学：コンクリートを含む土木材料の諸性質、コンクリート構造を含む土木構造物の耐久性能・維持管理、設計法・シナリオデザイン（山本貴士教授・高谷哲准教授）			
3	構造力学：鋼・複合構造物の力学性状と合理的設計法、構造物の残存性能の非破壊評価、鋼構造物の維持管理と耐久性向上（北根安雄教授）	応用力学分野， 人間安全保障工学分野		
4	橋梁工学：構造物の空気力学、空力不安定現象、流体関連振動、耐風安定化対策、耐風設計法、飛来塩分の輸送・付着機構、風災害の防止と安全性評価（八木知己教授・松宮央登准教授）			
5	構造ダイナミクス：構造物の動的応答と制御（免震・制振）、耐震設計法、構造デザイン、構造物の更新技術（高橋良和教授）			
6	水理環境ダイナミクス：移動床水理学、混相流の力学、群集挙動の力学、開水路流れの水理学、河床・河道変動の力学、破堤の水理（原田英治教授・音田慎一郎准教授）	人間安全保障工学分野		
7	水文・水資源学：水循環、水文予測、リアルタイム水文予測、水工計画、水資源管理（立川康人教授・金善玖准教授）			
8	地盤力学：地盤や岩盤の静的・動的挙動の解明、計算地盤力学、土と流体の相互作用、土と建設機械の相互作用、岩盤斜面の安定性評価、歴史的地盤構造物の保全（肥後陽介教授・橋本涼太准教授・Zhu, Fan 准教授）			
9	社会基盤創造工学：車両-橋梁連成系の構造動力学、橋梁構造物の環境振動、橋梁ヘルスマニタリング、移動橋梁点検、スマートセンシングシステム、走行荷重作用下の高架橋の耐震性能評価（金哲佑教授・張凱淳准教授）			
10	空間情報学：リモートセンシング、地理情報システム、デジタル写真測量、都市空間の 3 次元データの生成と時空間解析（須崎純一教授）			
11	景観設計学：景観デザイン、都市デザイン、土木施設アーキテクチャ、風土・景城環境、地域計画、都市形成史（川崎雅史教授・山口敬太准教授）			
12	沿岸都市設計学：沿岸都市の水理構造物設計、粒子法、数値波動力学、数値流体力学、数値流砂水理学、混相流の計算力学、都市群集行動のマイクロモデル（後藤仁志教授・五十里洋行准教授）			

志望 区分	研 究 内 容 (担当教員) (2025 年 4 月現在)	対応する教育プログラム		
		連携プログラム (融合工学コース)	連携プログラム (高度工学コース)	修士プログラム
13	応用地球物理学：地球物理学的手法による浅部から深部にいたる地下構造調査や社会的に影響のある地学現象のモデル化、地下情報可視化技術（福山英一教授・武川順一准教授）	人間安全保障工学 分野	志望区分 44 以外の任意の志望区分を選択することができます。	任意の志望区分を選択することができます。
14	地殻開発工学：二酸化炭素地中貯留、放射性廃棄物処分、エネルギー資源開発等の岩盤工学プロジェクトへの貢献を目的とした岩石の力学・水理特性の研究（奈良禎太准教授・保田尚俊准教授）			
15	計測評価工学：資源開発に関わる岩盤構造物や地下環境の保全のための計測評価技術、石油・天然ガスおよび鉱物資源の環境調和型開発技術、CCS や CCUS などのカーボンニュートラルに貢献する技術（村田澄彦教授）			
16	砂防工学：流砂系の総合的土砂管理、山地流域における土砂動態の予測・モニタリング、土砂災害の機構と防止対策、水・土砂・河川生態系構造の解明（中谷加奈教授・山野井一輝准教授・高山翔揮准教授）			
17	防災水工学：洪水流と河床変動の 3 次元構造、土砂生産と洪水への影響予測、土砂移動現象の観測と実験、河川堤防決壊のメカニズム、都市の内外水氾濫の水理、河川環境保全（川池健司教授・竹林洋史准教授）			
18	地盤防災工学：大地震時の地盤・構造物系の被災程度予測、降雨や地震による地盤の複合災害予測、複合材料を含む地盤の力学的挙動解明（渦岡良介教授・上田恭平准教授）			
19	水文気象工学：気候変動による降雨場への影響評価、気象レーダーを用いた降雨予測、レーダー水文学、降雨場の衛星リモートセンシング、都市域の水・熱循環とその予測、河川流域の形成過程（山口弘誠教授）			
20	海岸防災工学：極端な高潮・高波・津波のモデリング、ハザード・リスク評価および観測、気候変動による沿岸部への影響評価と適応策、巨大津波リスクの長期評価（森信人教授・馬場康之准教授・志村智也准教授）			
21	防災技術政策：リアルタイム洪水予測、地球温暖化・土地利用変化が及ぼす流域水循環への影響評価、降雨流出・洪水氾濫解析、水災害に対する戦略的対策策定（佐山敬洋教授・田中智大准教授・Lahournat, Florence 講師）			
22	水際地盤学：河海の水災害メカニズム、水際域の土砂動態、河川・沿岸環境の保全技術、水理流体力学、先進実験水理学（山上路生教授）			
23	計算科学：地盤の変形・破壊のシミュレーション、土壌汚染・浄化のシミュレーション、地盤と構造物の相互作用、大規模・高速科学技術計算、AI・機械学習を用いた計測技術の開発、解析検証のための各種試験（菊本統教授）			

(2) 都市社会工学専攻

志望 区分	研 究 内 容 (担当教員) (2025 年 4 月現在)	対応する教育プログラム		
		連携プログラム (融合工学コース)	連携プログラム (高度工学コース)	修士プログラム
26	構造物マネジメント工学：構造物の劣化メカニズム、状態診断と機能回復、高性能材料・低環境負荷材料の物性値及び部材の耐荷性能と耐久性能 ※今年度、本区分は募集無し	人間安全保障工学 分野	志望区分 44 以外 の任意の志望 区分を選択する ことができます。	任意の志望区分 を選択すること ができます。
27	地震ライフライン工学：地震工学、防災工学、耐震工学（古川愛子教授）			
28	河川流域マネジメント工学：流域水動態の理解と予測、水災害リスク管理、土地利用と住まい方を含めた河川流域マネジメント（市川温教授）			
29	土木施工システム工学：地下空間の開発と利活用、不連続性岩盤の力学的・水理学的挙動、地盤材料の力学-水理-熱-化学連成問題、エネルギー生成後の副産物処理に関する先端のアプローチ、地盤と構造物の動的・静的相互作用（岸田潔教授・澤村康生准教授）			
30	ジオフロントシステム工学：岩盤を対象とした熱・水理・力学・化学連成現象のモデル化、バイオグラウト開発、斜面防災モニタリング・センシング、海底地すべり・津波励起メカニズム、海底地盤工学（安原英明教授・岩井裕正准教授）			
31	地球資源システム：深部掘削における原位置応力状態の解明とその計測技術、高温高压条件下における岩石の物理的性質の評価、石油・天然ガスの掘削坑壁安定性、地熱システムの数理モデリング、地表変動を用いた地下のモニタリング（林為人教授・石塚師也講師）			
32	計画マネジメント論：社会資本政策、民営化や公共調達制度などのインフラ産業論、リスク・ガバナンス、プロジェクト・マネジメント、災害レジリエンス政策、ソーシャル・キャピタル（大西正光教授・中尾聡史准教授）			
33	都市地域計画：都市計画学、都市政策論、公共交通政策論、都市交通計画（宇野伸宏教授・松中亮治准教授）			
34	都市基盤システム工学：国土計画、都市論、都市再生・保全、都市強靱化、地理空間情報やデジタル都市基盤の利活用、都市解析・調査分析論（大庭哲治教授）			
35	交通情報工学：交通・物流システムの最適化、ビッグデータを利用した交通マネジメント、交通ネットワーク信頼性解析、交通工学における実験的アプローチ（山田忠史教授・Qureshi, Ali Gul 准教授）			
36	交通行動システム：公共心理学研究、社会的ジレンマについての研究、公共政策のための計量経済学、実践的社会科学研究、公共交通とシェアードモビリティシステム、クラウドソースデータを用いた交通・観光需要モデリング（藤井聡教授・Schmöcker, Jan-Dirk 准教授・川端祐一郎准教授）			
37	地殻環境工学：リモートセンシングや数理地質学による鉱物・水・エネルギー資源の分布形態解析、地殻のガス・流体貯留機能評価の高精度化、浅部から深部に至る地殻環境の評価と時空間モデリングの技術（小池克明教授・柏谷公希准教授）			
38	耐震基礎：地震工学、地震動予測、耐震設計法、地盤-構造物の動的解析、土木構造物の地震応答性状、新耐震構造（後藤浩之教授）			
39	地域水環境システム：複合的環境動態モデル、総合流域管理、気候変動の洪水や渇水への影響評価（田中賢治教授・萬和明准教授）			
40	水文循環工学：水資源システムのマネジメント、地球水動態、水害対応行動のモデリング、水災害の防止と軽減（堀智晴教授）			

志望 区分	研 究 内 容 (担当教員) (2025 年 4 月現在)	対応する教育プログラム		
		連携プログラム (融合工学コース)	連携プログラム (高度工学コース)	修士プログラム
41	災害リスクマネジメント：災害リスクの分析・評価方法、自然と産業の複合災害のマネジメント、住民参加型地域防災、災害リスクコミュニケーション（松田曜子准教授）	人間安全保障工学 分野	志望区分 44 以 外の任意の志望 区分を選択する ことができます。	任意の志望区分 を選択すること ができます。
42	自然・社会環境防災計画学：水資源のリスクマネジメント、流砂系総合土砂管理、生物多様性保全、流域生態系管理（Kantoush, Sameh Ahmed 教授・小林草平准教授）			
43	都市耐水：都市複合災害、水・構造システムの動的連成応答、極端事象に対する構造物の設計法、動的応答の制御、都市施設の性能経年劣化評価と管理、都市水害、防災水理学、津波防災、地下空間の水防災（五十嵐晃教授・米山望准教授）			
44	社会基盤親和技術論：地盤汚染と廃棄物の適正処理、環境リスク評価、都市セキュリティのための基盤創成技術、環境地盤工学（勝見武教授・高井敦史准教授）	*	*	

・*印の志望区分には、連携プログラム（融合工学コース・高度工学コース）の設定はない。

Ⅱ. 募集人員

社会基盤・都市社会系（社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻）合計 115 名

（うち、学科外別途選考Ⅰ型：上限 30 名、学科外別途選考Ⅱ型・社会人別途選考：若干名）

・各志望区分の一般学力選考と学科外別途選考Ⅰ型、学科外別途選考Ⅱ型・社会人別途選考を合わせた上限定員は以下の通りである。

志望区分定員：7 名

・また、各志望区分には、一般学力選考と学科外別途選考Ⅰ型、学科外別途選考Ⅱ型・社会人別途選考のそれぞれに上限定員がある。

・さらに、志望区分 1～12・16～23・26～30・32～36・38～44 で構成されるグループと、13・14・15・31・37 で構成されるグループのそれぞれに上限定員がある。

Ⅲ. 出願資格

選考方法には(1)一般学力選考、(2)学科外別途選考Ⅰ型、(3)学科外別途選考Ⅱ型、(4)社会人別途選考および(5)外国人別途選考の 5 種類があり、出願時いずれかを選択しなければならない（Ⅵ. 出願要領を参照）。なお、学科外別途選考にはⅠ型とⅡ型がある。一般学力選考、学科外別途選考Ⅰ型、学科外別途選考Ⅱ型および社会人別途選考の出願資格は以下の通りである。外国人別途選考の詳細は国際コースの募集要項（英文）を参照すること。出願資格が不明の場合は、京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛（社会基盤・都市社会系 入試担当）に問い合わせること。出願資格を満たさない場合、出願資格に応じた選考方法に変更されることがある。

(1) 一般学力選考

本募集要項の各専攻に共通の要項（以下「募集要項」と略す）を参照。

(2) 学科外別途選考Ⅰ型

「募集要項」に定められた出願資格を持つ者で、京都大学工学部地球工学科（土木工学科、交通土木工学科、衛生工学科ならびに資源工学科を含む）以外の学科・学部・他大学を卒業、あるいは卒業見込みの者。

(3) 学科外別途選考Ⅱ型

「募集要項」に定められた出願資格を持つ者で、土木系・資源系以外の学科を卒業、あるいは卒

業見込みの者。

(4) 社会人別途選考

「募集要項」に定められた出願資格を持つ者で、文部科学省の定める 4 年制大学を卒業後、社会人としての実務経験を 2 年以上有する、あるいは有する見込みの者。

IV. 学力検査日程

(1) 一般学力選考

桂キャンパス C クラスタ C1 棟 191・192・117 号室 他

月日	時 間 試験科目	
8 月 5 日 (火)	10:00～11:30 数学・物理 (力学)	13:00～15:00 専 門

(2) 学科外別途選考 I 型

桂キャンパス C クラスタ C1 棟 171 号室 他

月日	時 間 試験科目	
8 月 5 日 (火)	10:00～11:30 数学・物理 (力学)	13:00～14:20 専 門

(3) 学科外別途選考 II 型・社会人別途選考

桂キャンパス C クラスタ C1 棟 145 号室 他

月日	時 間 試験科目	
8 月 5 日 (火)	10:00～11:00 数学・物理 (力学) (選択者のみ)	13:00～14:00 専門 (選択者のみ)
8 月 6 日 (水)	9:00～ 口頭試問	

○学力検査に関する注意事項

- ・ 試験開始時刻 15 分前までに試験室前に集合すること。口頭試問の場合は、受験者控え室に集合すること。
- ・ 試験室には必ず受験票を携帯し、係員の指示に従うこと。
- ・ 携帯電話等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なされることがあるので注意すること。
- ・ 時計のアラームは確実に切っておくこと。
- ・ 試験に使用する筆記用具は、鉛筆、万年筆、ボールペン、シャープペンシル、鉛筆削り、消しゴムに限る。

V. 入学試験詳細

一般学力選考、学科外別途選考 I 型、学科外別途選考 II 型あるいは社会人別途選考の入学試験の詳細は、以下の通りである。

(1) 一般学力選考

- ①英語 (200 点/1000 点) : TOEFL、TOEIC または IELTS の成績により評価する。

②数学・物理（力学）（200点/1000点）：以下の(1)と(2)を受験すること。

科目名	出題範囲
(1)数学	微積分学、線形代数、ベクトル解析、複素関数、フーリエ変換、ラプラス変換、微分方程式、確率・統計
(2)物理（力学）	運動の法則、慣性系、回転座標系、振動、ポテンシャル、剛体の力学、ラグランジュの運動方程式

※注 科目(1)と(2)は日本語および英語で出題される。

③専門（600点/1000点）：以下の(1)～(5)から 3 科目 を選択すること。

ただし、13・14・15・31・37 を第一志望区分とする場合には、3 科目の 1 科目として、必ず(5)資源工学を選択しなければならない。

科目名	出題範囲
(1)構造力学	力のつりあい、断面力、影響線、応力とひずみ、材料の力学的性質、断面の性質、構造物の安定性および静定・不静定、静定構造、構造物の変形、柱の弾性座屈、不静定構造、弾性方程式法、仕事・エネルギーと仮想仕事、エネルギー原理
(2)水理学	流体運動の基礎、静水力学、完全流体の力学、水の波、粘性と乱れ、次元解析と相似律、管路の定常流、開水路の定常流
(3)土質力学	土の分類と物理的性質、土中の水理、圧密、土のせん断強さ、土の締固め、土圧、支持力、地盤内応力、斜面の安定、地盤改良、地盤の液化、地盤の振動特性
(4)計画理論	線形計画法、非線形計画法、動的計画法、ゲーム理論、ネットワーク手法、費用便益分析、重回帰モデル
(5)資源工学	岩石・岩盤の力学・水理、地質調査法と鉱床学、弾性波・電気・電磁探査の原理・データ解析と解釈

※注 科目(1)～(4)は日本語および英語で出題される。科目(5)は日本語で出題される。英語の問題冊子には科目(5)は含まれない。

(2) 学科外別途選考Ⅰ型

①英語（200点/1000点）：TOEFL、TOEIC または IELTS の成績により評価する。

②数学・物理（力学）（300点/1000点）：出題範囲は一般学力選考と同じである。

③専門（500点/1000点）：一般学力選考と同じ(1)～(5)から 2 科目 を選択すること。

ただし、13・14・15・31・37 を第一志望区分とする場合には、2 科目の 1 科目として、必ず(5)資源工学を選択しなければならない。

(3) 学科外別途選考Ⅱ型・社会人別途選考

①英語（200点/1000点）：TOEFL、TOEIC または IELTS の成績により評価する。

②学力試験（400点/1000点）：以下の(1)～(7)から 1 科目 を選択すること。出題範囲は一般学力選考と同じである。ただし、13・14・15・31・37 を第一志望区分とする場合には、(3)～(6)を選ぶことはできない。

(1)数学、(2)物理（力学）、(3)構造力学、(4)水理学、(5)土質力学、(6)計画理論、(7)資源工学

出願時に、選考方法及び英語成績証明書の提出に関する申請書（様式－M1）により、希望する科目を1つ選択すること。出願後、受験希望の科目を変更することはできない。

(1)数学、(2)物理（力学）のいずれかを選択する場合は、8月5日（火）10:00～11:00の「数学・物理（力学）（選択者のみ）」の時間に受験すること。(3)構造力学、(4)水理学、(5)土質力学、(6)計画理論、(7)資源工学のいずれかを選択する場合は、8月5日（火）13:00～14:00の「専門（選択者のみ）」の時間に受験すること。

③口頭試問（400点/1000点）：専門学識、志望理由等に関する口頭試問。

口頭試問が受験可能な受験生は、英語および学力試験の成績を評価して選抜される。選抜された受験生と口頭試問の時刻は、8月6日（水）8:00までに社会基盤工学・都市社会工学専攻のウェブサイトに掲示する。選抜されなかった場合は成績の如何にかかわらず不合格となる。

(4) 有資格者及び合格者決定法

原則として、合計得点が500点（基準点）以上の者を有資格者とし、有資格者の中から合格者を決定する。ただし、問題の難易度に応じて有資格判定の基準点を調整することがある。

(5) 合格者の発表

「募集要項」の「Ⅵ. 合格者発表」を参照。

合格発表後、辞退等があれば有資格者の中から繰り上げ合格者を決定する。繰り上げ合格の期限は2025年9月末までとする。

Ⅵ. 出願要領

出願時に、(1)一般学力選考、(2)学科外別途選考Ⅰ型、(3)学科外別途選考Ⅱ型あるいは(4)社会人別途選考のいずれかの選考方法を選択して、「選考方法及び英語成績証明書の提出に関する申請書」（様式－M1）によって届け出ること。(1)一般学力選考あるいは(2)学科外別途選考Ⅰ型のいずれかの選考方法を選択したものは、希望する問題冊子の言語についても選択すること。(3)学科外別途選考Ⅱ型あるいは(4)社会人別途選考のいずれかの選考方法を選択したものは、学力試験において希望する科目も選択すること。出願後、受験希望の科目を変更することはできない。外国人別途選考の詳細は国際コースの募集要項（英文）を参照すること。また下記の指示にしたがい「志望する指導教員調書」（様式－M3）に志望区分を記入すること。合格後の志望区分の変更は認めない。

(1) 一般学力選考

社会基盤・都市社会系に含まれる志望区分（1～23・26～44）の中から、第1志望から順に記入すること。志望区分は第10志望まで記入可能である。

それぞれの選考方法の上限定員のために、第2志望以降の志望区分での合格となることや、第2志望以降の志望順位を記入しないと有資格者であっても合格できない場合がある。

(2) 学科外別途選考Ⅰ型、学科外別途選考Ⅱ型・社会人別途選考

社会基盤・都市社会系に含まれる志望区分（1～23・26～44）の中から、第1志望の志望区分を記入すること。ただし、それぞれの選考方法の上限定員のために、有資格者であっても合格できない場合がある。

(3) 事前コンタクトについて

事前コンタクトにおいては、希望指導教員が志願者の希望する学習・研究内容と、希望指導教員の研究活動との整合性の有無を判断する。

○別途提出書類（様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること）

一般学力選考、学科外別途選考Ⅰ型、学科外別途選考Ⅱ型あるいは社会人別途選考の別途提出書類は、以下の通りである。

(1) 一般学力選考

工学研究科に提出する出願書類の他に、下記の書類を「入試別途書類（修士・一般）」と朱書した封筒で、京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛（社会基盤・都市社会系 入試担当）に提出または郵送（書留便）しなければならない。

①選考方法及び英語成績証明書の提出に関する申請書（様式－M1）

②入学後の教育プログラム履修志望調書（様式－M2）

※必ず、希望指導教員から署名をもらうこと

③志望する指導教員調書（様式－M3）

※必ず、希望指導教員から署名をもらうこと

④TOEIC または IELTS の成績証明書

※TOEFL の場合、紙媒体の提出は不要。「英語の成績証明書・学力評価について」参照。

(2) 学科外別途選考 I 型

工学研究科に提出する出願書類の他に、下記の書類を「入試別途書類（修士・学科外別途選考 I 型）」と朱書した封筒で、京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛（社会基盤・都市社会系 入試担当）に提出または郵送（書留便）しなければならない。

①選考方法及び英語成績証明書の提出に関する申請書（様式－M1）

②入学後の教育プログラム履修志望調書（様式－M2）

※必ず、希望指導教員から署名をもらうこと

③志望する指導教員調書（様式－M3）

※必ず、希望指導教員から署名をもらうこと

④TOEIC または IELTS の成績証明書

※TOEFL の場合、紙媒体の提出は不要。「英語の成績証明書・学力評価について」参照。

(3) 学科外別途選考 II 型

工学研究科に提出する出願書類の他に、下記の書類を「入試別途書類（修士・学科外別途選考 II 型）」と朱書した封筒で、下記の提出先宛に提出または郵送（書留便）しなければならない。

①選考方法及び英語成績証明書の提出に関する申請書（様式－M1）

②入学後の教育プログラム履修志望調書（様式－M2）

※必ず、希望指導教員から署名をもらうこと

③志望する指導教員調書（様式－M3）

※必ず、希望指導教員から署名をもらうこと

④TOEIC または IELTS の成績証明書

※TOEFL の場合、紙媒体の提出は不要。「英語の成績証明書・学力評価について」参照。

⑤志望区分の選択理由およびこれまでの研究経緯：(i)志望区分（志望研究室）を選択した理由（動機）を 500 字程度、(ii)これまでの研究経緯（卒業論文の内容の概略、あるいは、得意とする学習科目や興味を抱いている自然現象、社会問題など）を 1500 字程度で記載した文書（5 部）。書式は随意。A4 紙（2～3 枚：1 枚目に氏名を記載）にワードプロセッサで明瞭に記載すること。(ii)については概念図を用いるなど分かり易い表現に配慮すること。

(4) 社会人別途選考

工学研究科に提出する出願書類の他に、下記の書類を「入試別途書類（修士・社会人別途選考）」と朱書した封筒で、下記の提出先宛に提出または郵送（書留便）しなければならない。

①選考方法及び英語成績証明書の提出に関する申請書（様式－M1）

②入学後の教育プログラム履修志望調書（様式－M2）

※必ず、希望指導教員から署名をもらうこと

③志望する指導教員調書（様式－M3）

※必ず、希望指導教員から署名をもらうこと

④TOEIC または IELTS の成績証明書

※TOEFL の場合、紙媒体の提出は不要。「英語の成績証明書・学力評価について」参照。

⑤志望区分の選択理由およびこれまでの研究経緯：(i)志望区分（志望研究室）を選択した理由（動機）を 500 字程度、(ii)これまでの研究経緯（卒業論文の内容の概略、あるいは、得意とする学習科目や興味を抱いている自然現象、社会問題など）を 1500 字程度で記載した文書（5 部）。書式は随意。A4 紙（2～3 枚：1 枚目に氏名を記載）にワードプロセッサで明瞭に記載すること。(ii)については概念図を用いるなど分かり易い表現に配慮すること。

⑥所属長（代表者）等の承諾書（様式－M4）

出願時において、官公庁、企業、教育機関等に勤務しており、在職したまま入学及び在学することについて、所属長（代表者）から承諾を得ること。

別途提出書類を下記窓口へ提出または郵送（書留便）すること。準備に時間を要する書類もあるので、注意すること。

・書類提出期限：2025 年 6 月 11 日（水）午後 5 時（必着）

※何らかの理由で、TOEIC または IELTS 試験の紙媒体の成績証明書を上記期限までに提出できない者は、2025 年 7 月 18 日（金）午後 4 時必着で、京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛（社会基盤・都市社会系 入試担当）に提出または郵送（書留便）しなければならない。

・提出先：〒615-8540 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛

（社会基盤・都市社会系 入試担当） TEL：075-383-2967

○英語の成績証明書・学力評価について

- ・ TOEIC、IELTS、TOEFL の成績により英語の学力を評価する（ただし、2023 年 8 月 1 日以降に実施された試験に限る）。下記の指定されたいずれかの提出物を、期日までに提出または郵送（書留便）すること。2025 年 7 月 18 日（金）午後 4 時以後は受け付けないので注意されたい。

<TOEIC>

- ・公式認定証（Official Score Certificate）の原本のほかにデジタル公式認定証（Digital Official Score Certificate）を印刷したものも認める。ただし、いずれの場合も紙媒体として提出すること。TOEIC Listening & Reading 公開テストのみ受け付ける。TOEIC-IP などの団体試験の成績証明書は無効となるので注意されたい。

<IELTS>

- ・追加成績証明書（紙媒体）が期日までに社会基盤・都市社会系 入試担当に届くように、IELTS 公式テストセンターに発行・直送の申請手続きをとること。成績証明（原本）のコピーは受け付けない。IELTS（Academic Module）のみ受け付ける。Paper-based IELTS と Computer-delivered IELTS のいずれも認めるが、IELTS Online のスコアは認められないので留意すること。

<TOEFL>

- ・ Institutional Score Report が期日までに社会基盤・都市社会系に届くように、TOEFL 実施機関（米国 Educational Testing Service）に送付依頼の手続きをとること。送付依頼手続きに必要な、社会基盤・都市社会系の Institution Code は「C092」である。また、Institutional Score Report の社会基盤・都市社会系への到着に関する問い合わせには回答しない。
- ・ TOEFL-iBT（internet-Based Test）のみ受け付ける。TOEFL iBT Paper Edition および TOEFL iBT

Home Edition のスコアは認められないので留意すること。また、TOEFL-iBT テストの MyBest スコアも認めない。TOEFL-ITP などの団体試験の成績証明書は無効となるので注意されたい。

- ・ 後日書類に不正が認められた場合には合格を取り消すことがある。
- ・ 成績証明書の返却希望の有無を「選考方法及び英語成績証明書の提出に関する申請書」（様式－M1）の所定の欄に記入すること。

Ⅶ. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には 3 種類の教育プログラムが準備されており、入試区分「社会基盤・都市社会系」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは以下の通りである。

- 博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース）
- 博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コース）
- 修士課程教育プログラム

いずれの教育プログラムを履修するかは、受験者の志望と入試成績に応じて決定する。志望の調査は、出願時に「入学後の教育プログラム履修志望調書」（様式－M2）により実施する。

Ⅷ. 教育プログラムの内容について

【融合工学コース】

「募集要項」の「X. 修士課程入学後の教育プログラムについて」を参照すること。

【高度工学コース】【修士課程教育プログラム】

○社会基盤工学専攻

新たな産業と文明を開き、環境と調和して、安心・安全で活力ある持続可能な社会を創造するためには、人類が活動する領域とそこにある社会基盤構築物を対象とした技術革新が欠かせません。社会基盤工学専攻では、最先端技術の開発、安全・安心で環境と調和した潤いのある社会基盤整備の実現、地下資源の持続的な利用に重点を置き、社会基盤整備を支援する科学技術の発展に貢献します。

そのために、地球規模の環境問題とエネルギー問題を深く理解し、国際的かつ多角的な視野から新たな技術を開拓する工学基礎力、さらに実社会の問題を解決する応用力を有する人材を育成します。すなわち、1) 工学基礎に基づく最先端科学技術の高度化、2) 自然災害のメカニズム解明と減災技術の高度化、3) 社会インフラの統合的計画・設計技術とマネジメント技術の高度化、4) 発展的持続性社会における地下資源エネルギーの利用、5) 低炭素社会実現に向けた諸問題解決に対し、高い工学基礎力を有する高度技術者を育成します。

高度工学コースでは、さらに博士後期課程での高度かつ先端的な基盤研究、実社会の諸課題に即応する応用技術研究を通して、深い工学基礎力を有する国際的な研究者・技術者を育成します。

○都市社会工学専攻

高度な生活の質を保証し、持続可能で国際競争力のある都市システムを実現するためには、都市システムの総合的なマネジメントが欠かせません。都市社会工学専攻では、地球・地域の環境保全を制約条件として、マネジメント技術、高度情報技術、社会基盤技術、エネルギー基盤技術などの工学技術を統合しながら、社会科学、人文科学の分野を包含する学際的な視点から、都市システムの総合的マネジメントの方法論と技術体系の構築を目指します。

そのために、社会科学、人文科学の分野を含む総合的かつ高度な素養を身につけた、高い問題解決能力を有する人材を育成します。すなわち、1) 都市情報通信技術の革新による社会基盤の高度化、2) 高度情報社会における災害リスクのマネジメント、3) 都市基盤の効率的で総合的

なマネジメント、4) 国際化時代に対応した社会基盤整備、5) 有限エネルギー資源論に立脚した都市マネジメントに対し、高い問題解決能力を有する国際的な高度技術者を育成します。

高度工学コースでは、さらに博士後期課程での実践的かつ学際的な研究を通して、都市システムの総合的マネジメント能力を身につけた、国際的リーダーとなる研究者・技術者を育成します。

IX. その他

○入学試験説明会

入学試験に関する説明会の開催を予定している。

日時・場所等の詳細は、社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻ウェブサイトに掲載する。

ウェブサイト：

- ・社会基盤工学専攻：<https://www.ce.t.kyoto-u.ac.jp/>
- ・都市社会工学専攻：<https://www.um.t.kyoto-u.ac.jp/>

○社会情勢の変化への対応について

社会情勢の変化に関連して、募集要項公表後に入試に関する変更が生じる可能性がある。変更する場合には専攻のウェブサイトに掲載するので、定期的に最新の情報を確認すること。

○問い合わせ先

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛

(社会基盤・都市社会系 入試担当) TEL：075-383-2967

都市環境工学専攻

I. 志望区分

以下に示す研究内容を参照し、予め志望区分の教員と十分に連絡をとり、受験する選考方法及び研究計画等について相談すること。なお、各志望区分の教員の連絡先については、京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛（都市環境工学専攻 入試担当）に問い合わせること。

志望区分	研 究 内 容 (一般学力選考における志望区分別上限定員) (担当教員) (2025 年 4 月現在)
1	環境デザイン工学、都市代謝工学、環境装置工学、資源循環科学、有害化学物質制御 (6) (高岡昌輝教授・大下和徹准教授)
2	環境衛生学、環境予防医学、 環境予防工学 (環境化学物質・大気汚染物質等の健康リスク評価、評価手法および予防・軽減手法の開発) (6) (松田知成教授・松田俊准教授・山本浩平講師)
3	水環境工学、環境微生物工学、水処理工学、水・資源循環システム、水環境管理 (6) (藤原拓教授・日高平准教授)
4	環境リスク工学、環境リスクマネジメント、土壌・地下水汚染制御、汚染物質環境動態モデル解析、 放射能環境汚染対策、環境中病原微生物モニタリング (6) (島田洋子教授)
5	大気・熱環境工学、地球環境シミュレーション、統合評価モデリング、気候変動緩和策分析、エネルギーシ ステム分析、大気汚染シミュレーション、気候変動影響分析、環境政策評価、環境経済分析 (6) (藤森真一郎教授)
6	都市衛生工学、環境ヘルスリスク制御工学、高度浄水処理工学、飲料水質のリスクマネジメント、 上水道システムのトータルデザイン (6) (伊藤禎彦教授)
7	環境質管理、統合的流域管理、環境微量汚染物質の検出・挙動把握・毒性評価・排出制御 (4) (松田知成教授・浅田安廣准教授)
8	環境質予見、環境汚染物質及び病原微生物のモニタリング・制御・影響評価、水の再利用、雨天時排水管理、 水域生態系保全、汚染源の推定と管理 (4) (西村文武教授)
9	環境保全工学、リサイクルシステムと廃棄物管理、循環型社会システム、教育研究機関の環境安全管理 (4) (平井康宏教授・矢野順也准教授)
10	安全衛生工学・エネルギー管理工学、労働衛生学、粒子状物質や化学物質の曝露評価、安全工学、安全衛生マ ネジメント (4) (松井康人教授)
11	放射能環境動態、環境中での放射性・安定同位体の分布挙動の研究 (4) (高宮幸一教授)
12	放射性廃棄物管理、原子力技術の安全性研究及び有害物質の環境中での移行挙動の研究 (4) (福谷哲准教授)
13	環境調和型産業論、流域水環境管理論、沿岸生態系保全、有害微量化学物質管理、途上国水環境衛生、 資源回収・循環 (2) (越後信哉教授・田中周平准教授)

【注 1】 特別選考による各志望区分の上限定員は、2 名であり、上記の表中の一般学力選考の志望区分別上限定員には含めない。

【注 2】 志望区分 1～12 は、入学後の教育プログラムとして、連携教育プログラム（融合工学コース：人間安全保障工学分野）、連携教育プログラム（高度工学コース）、修士課程教育プログラムのうちから一つを選択できる。志望区分 13 については、連携教育プログラムの設定はない。

Ⅱ. 募集人員

都市環境工学専攻 36 名

選考種別には 2 種類（一般学力選考あるいは特別選考）がある。受験者は、出願時に (1) 一般学力選考あるいは (2) 特別選考のいずれかの選考方法を選択しなければならない（Ⅵ. 出願要領 を参照）。なお、特別選考枠の定員は 6 名である。また、特別選考に不合格となった者のうち、数学と専門の両方を受験した者は、一般学力選考と同じ配点にした上で、一般学力選考に組み入れられて再度合否判定が行われる。

Ⅲ. 出願資格

選考種別（一般学力選考あるいは特別選考）の出願資格は、以下のとおりである。

(1) 一般学力選考

京都大学大学院工学研究科 2026 年度修士課程学生募集要項（以下「募集要項」と略す）を参照。

(2) 特別選考

特別選考は、一般学力選考とは異なる評価基準によって合否を判定するもので、下記の資格を有する者のみが受験できる。

- 募集要項に定められた出願資格を持つ者で、京都大学工学部地球工学科環境工学コース（京都大学工学部衛生工学科を含む）以外のコース・学科・学部・他大学を卒業、あるいは卒業見込みの者。
- 募集要項に定められた出願資格を持つ者で、京都大学工学部地球工学科環境工学コース（京都大学工学部衛生工学科を含む）を卒業後、社会人としての実務経験を 2 年以上有する、あるいは有する見込みの者。

Ⅳ. 学力検査日程

(1) 一般学力選考

（筆記試験会場：桂キャンパス C クラスタ C1 棟 173 号室、他）

月日	時 間 試験科目	
8 月 5 日 (火)	10 : 00 ~ 11 : 30 数学	13 : 00 ~ 15 : 00 専門

(2) 特別選考

（筆記試験会場：桂キャンパス C クラスタ C1 棟 173 号室、他、口頭試問会場：桂キャンパス C クラスタ C1 棟 152 号室、他）

月日	時 間 試験科目	
8 月 5 日 (火)	10 : 00 ~ 11 : 30 数学（選択者のみ）	13 : 00 ~ 15 : 00 専門（選択者のみ）
8 月 6 日 (水)	9 : 00 ~ 11 : 00 小論文	13 : 00 ~ 口頭試問

○学力検査に関する注意事項

- 試験開始時刻 10 分前までに試験室前に集合すること。なお、口頭試問の場合は、受験者控え室（桂キャンパス C クラスタ C1 棟 107 号室(1 階)）に集合すること。
- 試験室には必ず受験票を携帯し、係員の指示に従うこと。
- 試験に使用する筆記用具は、鉛筆、万年筆、ボールペン、シャープペンシル、鉛筆削り

及び消しゴムに限る。

- ・ 携帯電話等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なされることがあるので注意すること。
- ・ 時計のアラームは確実に切っておくこと。
- ・ 数学及び専門の受験にあたっては、関数電卓（プログラム機能を有さないもの）を各自が用意すること。
- ・ その他、口頭試問の時刻など、詳細は事前に、桂キャンパスCクラスターC1棟191号室（1階、大講義室）西側廊下の専攻掲示板上に掲示する。

V. 入学試験詳細

選考種別（一般学力選考あるいは特別選考）の入学試験の詳細は、以下のとおりである。なお、京都大学工学部地球工学科環境工学コースを2026年3月に卒業見込みの者のうち、3年後期までの成績が学科の上位10位以内、または環境工学コースの上位5位以内かつ学科上位30位以内で、出願時に「2026年度 都市環境工学専攻修士課程 一般学力選考 筆記試験免除願」を提出した者は、筆記試験が免除される。詳細は、下記の（3）を参照すること。

（1）一般学力選考

①英語（200点/1000点）：TOEFL、TOEIC または IELTS のスコアにより評価する。

②専門科目（800点/1000点）

・ 学部成績（200点/1000点）

・ 数学（200点/1000点）

科目名	出題範囲
(1) 数学	線形代数、ベクトル解析、微分方程式、確率・統計

・ 専門（400点/1000点）：

必須問題：環境物理学、環境化学、及び環境生物学に関する語句説明、6題すべてに解答すること。

選択問題：以下の(1)～(3)より出題される計6題のうち、3題を選択し解答すること。

科目名	出題範囲
(1) 環境物理学	熱や物質などの移動現象と環境装置設計、放射線の基礎と管理、騒音・振動の管理技術、大気汚染と地球温暖化
(2) 環境化学	物理化学の基礎、無機・有機化学の基礎、化学的環境指標、界面化学
(3) 環境生物学	微生物の代謝様式と増殖、生物学的水質指標、環境生態学の基礎

【注】数学及び専門の受験にあたっては関数電卓（プログラム機能を有さないもの）を各自が用意すること。

（2）特別選考

①英語（200点/1000点）：TOEFL、TOEIC または IELTS のスコアにより評価する。

②専門科目（800点/1000点）

・ 学部成績（200点/1000点）

・ 数学または専門（200点/1000点）：出題範囲は、一般学力選考と同じである。

数学、専門のうち一方、あるいは両方を選択できる。両方を選択した場合、点数の高い方を「数学または専門」の得点とする。専門を選択する場合は、一般学力選考と同じ要領で解答すること。

【注】数学及び専門の受験にあたっては関数電卓（プログラム機能を有さないもの）を各自が用意すること。

- ・小論文及び口頭試問（400点/1000点）： 都市環境工学に関連した問題について小論文をまとめる。口頭試問については、小論文の内容及び基礎学力等に関して質疑応答を行う。

試験問題は日本語で出題する。口頭試問も日本語での質疑とする。

（3）地球工学科卒業見込み者の筆記試験免除について

京都大学工学部地球工学科環境工学コースを2026年3月に卒業見込みの者のうち、3年後期までの成績が学科の上位10位以内、または環境工学コースの上位5位以内かつ学科上位30位以内で、出願時に「2026年度 都市環境工学専攻修士課程 一般学力選考 筆記試験免除願」（以下、「筆記試験免除願」と略す）を「京都大学大学院工学研究科Cクラスター事務区教務掛（都市環境工学専攻 入試担当）」に提出した者は、筆記試験（数学と専門）が免除される。ただし、筆記試験免除者には、筆記試験当日に面接が課せられるので注意すること。なお、「筆記試験免除願」は、該当者に交付される「2026年度 都市環境工学専攻修士課程 一般学力選考 筆記試験免除 通知書」から切り離して用いること。免除者の専門科目の配点は、800点満点とし、学部成績を600点、面接点を200点とする。

（4）有資格者及び合格者決定法

総得点（1000点満点）が500点以上の者を有資格者とする。有資格者の中から合格者を決定する。

（5）合格者の発表

募集要項「**Ⅵ 合格者発表**」のとおり。

Ⅵ. 出願要領

出願時に、(1)一般学力選考あるいは(2)特別選考のいずれかの選考方法を選択して、「選考方法及び受験科目申請書」（様式-M1）によって届け出ること（詳細は、「**Ⅸ. その他**」の別途提出書類を参照）。なお、特別選考を選択する場合、受験する科目を選択すること（様式-M1）。また、都市環境工学専攻の各研究内容を参照し、志望区分調書（様式-M2）の欄に、第1志望から順に志望区分を記入すること。各志望区分には上限定員があるので、複数の志望順位を記入しないと有資格者であっても合格できない場合がある。志望区分は第10志望まで記入可能である。ただし、合格後の志望区分の変更は認めない。

Ⅶ. 入学後の教育プログラムの選択

（1）履修できる教育プログラム

修士課程入学後には3種類の教育プログラムが準備されており、入試区分「都市環境工学専攻」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記の通りである。

- 博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース）
人間安全保障工学分野
- 博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コース）
都市環境工学専攻
- 修士課程教育プログラム
都市環境工学専攻

(2) 教育プログラムの選択

いずれの教育プログラムを履修するかについては、合格者決定後に希望調査を実施し、下記の要領によって決定する。

教育プログラム希望調査： 2026 年 1 月中に実施

連携教育プログラム希望者口頭試問： 2026 年 2 月中に実施

連携教育プログラム（融合工学コース及び高度工学コース）を希望するものについては、卒業論文の内容や入学後の研究計画等について口頭試問を実施する。修士課程教育プログラムの履修を希望するものには口頭試問は実施しない。

なお、連携教育プログラム希望者に対する口頭試問において連携教育プログラムの履修が不可となった場合は、修士課程教育プログラムを履修することとなる。

Ⅷ. 教育プログラムの内容について

【融合工学コース】

内容については、工学研究科 HP（「工学研究科教育プログラム」 <https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>）をご確認ください。

【高度工学コース】

都市環境工学専攻では、「顕在化/潜在化する地域環境問題の解決」、「健康を支援する環境の確保」、「持続可能な地球環境・地域環境の創成」、「新しい環境科学の構築」を理念とし、地球環境問題及び地域固有の環境問題の解決に貢献する幅広い基礎学力、問題設定・解決能力及び高い倫理観を備えたこの分野の次世代のリーダーとなる研究者・技術者を育成します。このコースでは、1 年次から論文研究を中心として、最先端の環境研究手法を習得します。また、環境工学/科学の全領域をカバーする体系的なカリキュラムにより、工学はもとより、医学・社会学・経済学から倫理学に及ぶ環境問題に関わる様々な学理について教授します。

【修士課程教育プログラム】

都市環境工学専攻では、地球環境問題及び地域固有の環境問題の解決に貢献する技術者・研究者を育成します。より具体的には、「顕在化/潜在化する地域環境問題の解決」、「健康を支援する環境の確保」、「持続可能な地球環境・地域環境の創成」、「新しい環境科学の構築」を理念として、工学技術を基盤に、アジア地域を中心とした国際的研究フィールドを含む、環境問題の現場を重視した教育・研究活動と、医学・社会学・経済学から倫理学に及ぶ学際的なアプローチを通じて、人々の健康と安心を保障しつつ持続可能社会を支える総合的な学問体系を構築し、それに基づいた人材育成を行います。

Ⅸ. その他

○英語の学力評価について

- TOEFL の都市環境工学専攻が指定する Institution Code : C121 により、**7 月 25 日(金)の午後 5 時**までに工学研究科都市環境工学専攻に提出された受験者成績書 (Test Taker Score Report)、TOEIC の公式認定証 (Official Score Certificate) または IELTS の成績証明書 (Test Report Form) (以下、成績証明書と略す) の成績 (ただし、2023 年 8 月 1 日以降に実施された試験に限る) により英語の学力を評価する。
- 成績証明書を提出する場合は、**7 月 25 日(金)の午後 5 時**まで必着で、「京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛 (都市環境工学専攻 入試担当)」に提出または郵送しなければならない (下記の**別途提出書類**を参照)。この期限以後の提出は受け付けないので注意されたい。
- TOEFL の場合は TOEFL-iBT (internet-Based Test) ((Special) Home Edition を含む) 及び TOEFL-

PBT(Paper-Based Test)、TOEIC の場合は日本または韓国で実施される TOEIC Listening & Reading 公開テストのみ受け付ける。TOEFL-ITP や TOEIC-IP などの団体試験の成績証明書は無効となるので注意されたい。

- ・ TOEFL の成績証明書は、上記の受験者成績書のコピー(ウェブサイトからダウンロードした PDF 形式の Test Taker Score Report を印刷したものも可)を提出すること。TOEFL のスコアにおいて MyBest™スコアは認めない。TOEIC の成績証明書は、公式認定証 (Official Score Certificate) 原本(紙媒体)そのもの、もしくはデジタル公式認定証 (Digital Official Score Certificate) (PDF 版)を印刷したものを提出すること。IELTS の成績証明書は原本に限り、コピーは受け付けない。ただし、成績証明書の送付に遅延がある場合、ウェブサイトに表示される成績を印刷したものの提出を IELTS についても認める。また、後日書類に不正が認められた場合には合格を取り消す。
- ・ 成績証明書は試験当日に返却する。
- ・ TOEFL、TOEIC または IELTS 試験の詳細についての問い合わせ先は、それぞれ下記の通り。

TOEFL: 国際教育交換協議会 (CIEE)・TOEFL 事業部

TEL: 0120-981-925、<http://www.cieej.or.jp/toefl/>

TOEIC: (一財)国際ビジネスコミュニケーション協会・TOEIC 運営委員会

TEL: 06-6258-0224、<https://www.iibc-global.org/toeic.html>

IELTS: (公財)日本英語検定協会 IELTS 東京テストセンター TEL: 03-3266-6852

(公財)日本英語検定協会 IELTS 大阪テストセンター TEL: 06-6455-6286

<http://www.eiken.or.jp/ielts/contact/>

○別途提出書類

一般学力選考、特別選考ともに工学研究科に提出する出願書類の他に、下記の書類を「入試別途書類」と朱書した封筒で、下記期限内に「京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛 (都市環境工学専攻 入試担当)」に提出または郵送しなければならない。なお、一般学力選考受験者で筆記試験免除を希望する者は、「筆記試験免除願」をこれらの書類とともに提出しなければならない。

(様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること。)

①選考方法及び受験科目申請書 (様式-M1)

②志望区分調書 (様式-M2)

③TOEFL、TOEIC または IELTS の成績証明書

- ・ 書類提出期限: **6月4日(水)午後5時(必着)**

TOEFL、TOEIC または IELTS の成績証明書のみ **7月25日(金)午後5時(必着)**

- ・ 提出先: 〒615-8540 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛

都市環境工学専攻 入試担当 TEL: 075-383-2967

○問い合わせ先

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛

都市環境工学専攻 入試担当 TEL: 075-383-2967

当専攻のより詳しい情報は、<http://www.env.t.kyoto-u.ac.jp/>を参照のこと。

建築学専攻

I. 志望区分

志望区分	研 究 内 容	担当教員	優先合格者数	志望区分定員
構 造 系				
I-1a	建築構造力学 構造解析学 構造安定論 建築構造最適化	張 景耀	1	2
I-1b	構造形態創生 建築情報学 コンピュータショナルデザイン	林 和希		2
I-2	鉄筋コンクリート構造学 プレストレスト・コンクリート構造学 構造材料学 複合構造学 耐震設計学 耐火設計	谷 昌典	1	3
I-3	鉄骨構造学 合成構造学 高性能材料工学 空間構造計画学 溶接・接合工学	聲高 裕治 稲益 博行	1	5
I-4	建築・都市保全再生 地震工学 災害リスクマネジメント 構造デザイン論 伝統木造	杉野 未奈	1	2
I-5	構造最適設計・逆問題 システム同定 建築動力学 制振構造 耐震設計法 建築地盤工学	荒木 慶一 藤田 皓平	1	5
I-6	建築材料学 耐久設計・維持管理 非破壊・微破壊診断 反応速度論 材料力学	寺本 篤史	1	2
I-7	地震環境工学 地盤震動論 地震ハザード解析 地震荷重論 地盤-建物系非線形応答解析	松島 信一 長嶋 史明	1	4
I-8	建築風工学 耐風構造工学 工学的意思決定論 強風災害軽減	西嶋 一欽	1	3
I-9	鋼構造耐震学 構造振動制御論 極限解析学 建築防災工学 構造ヘルスマニタリング	池田 芳樹 倉田 真宏	1	4
計 画 系				
II-1	建築計画・設計 設計方法・プロセス論 環境行動・心理 医療福祉建築 建築情報学	三浦 研 酒谷 粹将	1	5
II-2	建築史 都市史	富島 義幸 岩本 馨	1	5
II-3	国際建築批評学 現代建築史 現代建築論 建築設計	トーマス ダニエル	1	3
II-4	建築設計学 建築設計 建築形態論	平田 晃久	1	3
II-5	建築生産 建築プロジェクトマネジメント 生産設計 建築経済 建築社会システム 生産管理	金多 隆 西野佐弥香	1	5
II-6	生活空間設計学 建築論	田路 貴浩 猪股 圭佑	1	5
II-7a	居住空間学 都市・地域計画 環境再生・共生	神吉紀世子	1	3
II-7b	住居・住環境計画 居住空間の再編・再生	柳沢 究		2
II-8	人間生活環境学 建築設計 建築構法計画 建築構法技術史	小見山陽介	1	2
II-9	人間環境設計論 環境デザイン 地域建築学 自然災害と人間居住	小林 広英 落合 知帆	1	3
II-10	災害と都市・建築 防災・復興計画論 災害建築・都市のデザイン 危機管理論	牧 紀男	1	3
環 境 系				
III-1	温熱環境制御 建築と設備の省エネルギー 文化財保存	小椋 大輔 伊庭千恵美	1	5
III-2	人間生活環境学 建築光環境 建築照明・色彩 視覚工学	石田泰一郎	1	3
III-3	都市と建築空間の環境調整 建築火災安全工学	原田 和典 仁井 大策	1	5
III-4	音環境 騒音・振動制御 建築音響 環境心理 音とコミュニケーション	大谷 真	1	3
III-5	都市防火 自然災害起因の大規模火災 地震火災 津波火災 都市複合災害リスク評価 広域避難計画 レジリエンス解析	西野 智研	1	2

Ⅱ．志望区分の申告について

- (a) 「Ⅰ．志望区分」を参考に志望区分を申告する。「Ⅰ．志望区分」には志望区分、研究内容、担当教員、優先合格者数、志望区分定員が記載してある。
- (b) インターネット出願システムの志望情報入力画面で、第 1 から第 12 までの順位の志望区分を申告する。合格を希望する志望区分数が 12 に満たない場合には、希望する順位まで申告すればよい。
- (c) 入学後の志望区分の変更は認めない。

Ⅲ．募集人員

建築学専攻 75 名

Ⅳ．入学試験日程

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、変更する可能性がある。

月日(曜)			試験室
8 月 2 日 (土)	9 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0	1 3 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0	C 1 棟 (桂キャンパス)
	計画系科目	設計製図	
	建築計画、都市および地域計画、建築史・都市史、建築論、建築生産、建築設計論、建築意匠	小規模建築の設計：指定された用紙に一般図の製図を行う。	
8 月 3 日 (日)	9 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0	C 1 棟 (桂キャンパス)
	構造系科目	環境系科目	
	建築構造力学、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、耐震構造、木構造、構造材料、基礎工学	建築環境工学、建築設備システム、建築光・音環境学、建築温熱環境設計、都市環境工学、建築安全設計、建築設備計画法	

8 月 4 日は予備日である。

Ⅴ．入学試験詳細

(1) 配点

科 目	配 点
英語	1 0 0
設計製図	1 0 0
計画系、構造系、環境系科目	6 0 0
合 計	8 0 0

(2) 英語

TOEFL 試験の成績を 100 点満点に換算する。

成績の提出方法その他については、下記の項目(a)を参照のこと。なお、(ii)を提出しなかった場合は、英語の得点は 0 点となる。

(a) TOEFL 成績の提出について

- (i) 2023 年 8 月 1 日以降に実施された TOEFL スコアを有効とする。Test Date scores のみを利用し、MyBest™ scores は利用しない。TOEFL-iBT(Internet-Based Test)のみ受け付ける。自宅受験 TOEFL iBT Home Edition や団体特別受験 TOEFL-ITP などの成績は無効とする。

- (ii) Institutional Score Report が ETS (Educational Testing Service) から京都大学

工学研究科建築学専攻宛に届くようにすること（期限：8月1日（金））。手続の際には、送付先の Institution Code に **B472** を指定し、以下のいずれかの方法をとること。（Institution Code に B472 が指定されていれば、Department Code は、どの番号が指定されていてもよい。）

- ・ TOEFL 試験申込時又は試験前日の 22 時までに ETS に申請する方法（無料）
- ・ TOEFL 試験日以降に ETS に申請する方法（有料）
- (iii) 複数の Institutional Score Report が提出された場合には、それらのうち最高点を英語の点数とする。
- (iv) 受験資格により TOEFL を受験することが困難な場合は、事前に C クラスター事務区教務掛（建築系）まで連絡すること。
- (v) TOEFL の Institutional Score Report が指定送付先に到着するまでの期間を確認して、十分に時間的余裕を持って早めに受験することを推奨する。TOEFL 試験の詳細についての問い合わせ先は、以下の通り。

<https://www.toefl-ibt.jp/index.html>

- (vi) Institutional Score Report の到着の有無についての問い合わせには回答しない。

(3) 受験で使用を許可する物品

- (a) 筆記用具は、黒鉛筆、シャープペンシル、ナイフ、芯削り、鉛筆削り、消しゴムとする。
- (b) 製図用具は、黒鉛筆またはシャープペンシル・消しゴム・ナイフ・鉛筆削り・芯削り・コンパス・分度器または角度定規・三角定規・物差しまたは三角スケール・字消し板・テープ（製図用紙貼付用）・製図用刷毛とする。
- (c) 製図用具の貸し出しは、原則として行わない。
- (d) 設計製図の試験終了後に解答用紙（A3 サイズのトレーシングペーパー）を A1 サイズのケント紙にホッチキス留めするので、ホッチキス（例えば、MAX サクリフラット 32 枚 HD-10FL3 と同等品程度）を持参すること。

(4) 受験時の注意事項

- (a) 試験は桂キャンパスで行う。詳細は受験票交付時に指示する。
- (b) 試験開始後 30 分以上遅刻した者の入室は認めない。また、試験中の途中退室は認めない。
- (c) 試験室には必ず受験票を携帯し、係員の指示に従うこと。
- (d) 時計（計時機能のみ）の使用は認めるが、アラーム機能は予め切っておくこと。携帯電話等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なされることがあるので注意すること。

(5) 合格者決定法

- (a) 総得点（800 点満点）が 400 点以上の者を有資格者とする。
- (b) 志望区分ごとに優先合格者を決定する。志望区分ごとの優先合格者数は、「Ⅰ．志望区分」に記載してある。選考にあたっては、各志望区分を第 1 順位で志望する有資格者の中で総得点が最も高く、かつ、総得点の有資格者の中で上位 75 番までの者を優先合格者とする。
- (c) 優先合格者に選考されなかった有資格者の中から、総得点の高い順に合格者を決定する。この際、志望区分ごとの選考を行う。有資格者が申告した志望区分の合格者数が志望区分定員に達した場合には、下位の志望順位の志望区分が選考の対象となる。
- (d) 総得点で同得点者があるときは、計画系、構造系、環境系科目の合計点が高い方を優先させる。計画系、構造系、環境系科目の合計も同点のときは、第 1 志望の志望区分に対応した科目の得

点率の高い方を優先させる。

(6) 留学生（卒業見込みを含む）への注意事項

日本の大学を卒業した留学生（卒業見込みを含む）は本試験を受験することを強く推奨する。その他の留学生は、本試験ではなく2月実施予定の試験を受験することを強く推奨する。ただし、いずれの留学生も出願に先立って、下記の「問合せ先・連絡先」まで必ず詳細を問い合わせること。

また、留学生のうち本学以外を卒業した者または卒業見込みの者においては、出願に先立ち必ず「第一志望の指導教員」に連絡し、受入れについて確認した上で、「第一志望区分申告書」（様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること）を願書提出時に別途 C クラスター事務区教務掛（建築系）へ提出すること。提出期間は 2025 年 5 月 28 日（水）～2025 年 6 月 11 日（水）午後 5 時とする。

VI. 入学後の教育プログラムの選択

入試区分「建築学専攻」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは以下の通りである。いずれのプログラムを履修するかは、合格者の志望と入試成績に応じて審査の後に決定される。詳細については、募集要項 Part A の『XIV. 表 修士課程入学後の教育プログラムと志望専攻』を参照すること。また、教育プログラムの内容については、募集要項 Part A の『X. 修士課程入学後の教育プログラムについて』を参照すること。

○修士課程教育プログラム

・建築学専攻

○大学院博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース）

・デザイン学分野

VII. その他

(1) 研究室説明会

各研究室の研究内容について、学外向けの説明会（対象：京都大学以外の学生・社会人）を開催する予定である。日時場所等の詳細は建築学専攻ホームページに掲載する。

<建築学専攻ホームページ内の入学試験のページ>

<https://www.ar.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admission/exam>

(2) その他

訂正や追加指示などが工学研究科または建築学専攻のホームページに掲載される場合があるので、適宜チェックすること。

<工学研究科ホームページ内の入学試験のページ>

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/graduate/exam1>

<建築学専攻ホームページ内の入学試験のページ>

<https://www.ar.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admission/exam>

問合せ先・連絡先

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛（建築系）

電話 : 075-383-2967

E-mail : kenchiku@adm.t.kyoto-u.ac.jp

参照 <http://www.ar.t.kyoto-u.ac.jp/>

機械工学群（機械理工学専攻・マイクロエンジニアリング専攻・航空宇宙工学専攻）

I. 専攻別志望区分

(1) 教育プログラム

修士課程教育プログラム（2年）、および修士課程と博士後期課程を連携した前後期連携教育プログラム（5年）を設けている。選抜方法はそれぞれの教育プログラムにより異なる。特に、前後期連携教育プログラムには、通常の一般選考に加え、筆記試験を免除する特別選考を設ける。前後期連携教育プログラムに関する詳細は本募集要項「Part A: X 修士課程入学後の教育プログラムについて」、および工学研究科 HP（「工学研究科教育プログラム」<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>）を参照すること。

教育プログラム		選抜方法
修士課程		一般選考
前後期連携	高度工学コース	特別選考
	融合工学コース	一般選考

(2) 専攻別志望区分一覧

専攻	志望区分	研 究 内 容	教育プログラム		
			前後期連携 (融合工学コース)*	前後期連携 (高度工学コース)	修士課程
機械理工学専攻	1	ヒューマンマシンシステム設計、システム工学、人間中心の自動化設計	a, f	任意の志望区分を選択できる	任意の志望区分を選択できる
	2	適応材料力学、先進材料強度学、複合材料工学、マイクロメカニクス	a, b		
	3	ナノ・マイクロ材料力学、微小材料強度学、ナノ構造体・薄膜、マルチフィジックス	a, b		
	4	環境流体力学、空気力学、大気乱流、混合・拡散、圧縮／非圧縮性乱流、衝撃波	a, c		
	5	熱工学、エネルギー変換、反応を伴う熱・物質・電荷輸送、分子熱流体工学、可視化と計測、数値解析	a		
	6	分光計測学、プラズマ診断、レーザー計測	a, b, c, d, f, g		
	7	材料力学、環境発電/AI/量子機械デバイス材料機能設計、計算物理学、データサイエンス	a, b		
	8	熱力学、伝熱学、熱流体力学、燃焼工学、環境工学	a, d		

専攻	志望区分	研 究 内 容	教育プログラム		
			前後期連携 (融合工学コース)*	前後期連携 (高度工学コース)	修士課程
機械理工学専攻	9	ロボット用メカニズム・機構学、乗り物、搭乗型モビリティ、ヒトの動作特性、ロボット操作、能力マイニング	a, f	任意の志望区分を選択できる	任意の志望区分を選択できる
	10	機械機能要素工学、トライボロジー、表面・界面創成	a, b, f		
	11	ロボット工学、制御工学、ソフトロボティクス、生物規範ロボティクス、生体力学	a, c, f, g		
	12	材料工学、材料照射効果、格子欠陥、極限材料、陽電子消滅分光	a, b		
	13	量子ビーム応用、結晶・非晶質材料、高温高压、宇宙地球物質の合成、中性子回折装置の設計	a, b		
マイクロエンジニアリング専攻	14	最適システム設計、生産システム、コンピュータ援用設計・生産・解析	a, f		
	15	生体模倣システム、機械学習、ナノ・マイクロ加工、マイクロ流体力学、細胞・分子生物学	a, c, f, g		
	16	ナノ・マイクロシステム、材料・加工・実装、センサ、アクチュエータ、ナノ構造物理	a, c, f, g		
	17	量子ビーム工学、表面・界面物性	a, b		
	18	複雑適応システム、アクティブマター、生物物理学、計算力学	a, b, c		
	19	ナノ形態制御、ナノ粒子、ナノワイヤ、光機能デバイス、マイクロ熱流体工学	a, b, d		
	20	計測工学、精密加工学、加工の知能化、制御理論応用	a, f		
	21	生体組織・細胞力学、メカノバイオロジー、計算力学、分子力学計測	a, c, f, g		
	22	バイオエンジニアリング、マイクロ流体工学、1細胞生物学、オミクス、遺伝子制御	a, c, g		
航空宇宙工学専攻	23	流体力学、高速空気力学、分子気体力学	a		
	24	非平衡流体力学、希薄気体力学	a		
	25	電離気体・反応性気体工学、プラズマ理工学、プラズマプロセス工学、宇宙推進工学	a, b		
	26	システム制御理論、最適制御、非線形制御、システム同定、統計的学習、航空宇宙システム	a, f		
	27	弾性波動、非破壊評価工学、複合材料・構造、動的破壊力学	a		

*前後期連携教育プログラム（融合工学コース）の対応

- a. 応用力学分野
- b. 物質機能・変換科学分野
- c. 生命・医工融合分野
- d. 融合光・電子科学創成分野
- e. 人間安全保障工学分野
- f. デザイン学分野
- g. 総合医療工学分野

※各分野の詳細は、工学研究科 HP（「工学研究科教育プログラム」
<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>）参照

Ⅱ. 募集人員

機械工学群（機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、航空宇宙工学専攻） 113 名
（前後期連携教育プログラムの募集人員若干名を含む）

Ⅲ. 出願資格

（1）一般選考

本募集要項「Part A: II－i 出願資格」に記載の条件を満たす者。

（2）特別選考

本募集要項「Part A: II－i 出願資格」に記載の条件を満たし、指導予定教員と事前に十分面談を重ね、受入推薦書を交付された者。事前コンタクトにおいては、指導予定教員が志願者の希望する学習・研究内容と、指導予定教員の研究活動との整合性の有無を判断する。さらに、修士課程入学後の学習・研究活動を円滑に進めるため、志願者と指導予定教員のディスカッションを通じて研究計画を出願前に明確化する。

Ⅳ. 学力検査日程

（1）一般選考

8月3日（日）	9：30～11：30 数学	13：00～14：30 機械力学
8月4日（月）	9：00～12：30 専門科目	

※ 試験場は桂キャンパスCクラスターである。詳細は受験票送付時に通知する。

（2）特別選考

5月28日（水）	10：00～18：00 のいずれかの時間帯（約20分） 予備選考面接
----------	---------------------------------------

※ 試験場は桂キャンパスCクラスターである。

※ 予備選考の可否は郵便で通知する。

8月4日（月）		14：30～ 口頭試問
---------	--	----------------

※ 試験場は桂キャンパスCクラスターである。詳細は受験票送付時に通知する。

Ⅴ. 入学試験詳細

（1）配点と選考方法

（a）一般選考

科目	配点
英語	120点
数学	180点
機械力学	150点
専門科目	400点
合計	850点

専門基礎に関する筆記試験と英語に関する TOEFL テストの成績により決定する。

(b) 特別選考

科目	配点
英語	120点
口頭試問	730点
合計	850点

英語に関する TOEFL テストの成績および口頭試問により決定する。事前の予備選考を行うため、**一部提出書類の締切日が早い**（VI. (2) 参照）ので注意すること。予備選考に不合格であった受験者は希望すれば一般選考を受験することができる。

(2) その他

(a) 科目について

(i) 機械力学

工業力学、振動工学から出題する。

(ii) 専門科目

流体力学、熱力学（統計熱力学を含む）、材料力学、制御工学から出題する。

(iii) 英語

筆記試験は行わず、TOEFL テストの成績（120 点満点）で代用する。成績の提出方法その他については、下記の項目(e)およびVI. (1)、VI. (2) を参照のこと。提出がない場合は英語の得点が 0 点となる。

受験資格により TOEFL を受験することが困難な場合は、下記 VI. (3) まで連絡すること。

(iv) 口頭試問

受験者による研究計画についてのプレゼンテーションの後、研究計画および専門知識に関して試問を行う。

受験者が口頭試問の発表指導を指導予定教員から受けることを妨げない。発表指導においては、口頭試問において受験者が説明しようとしている研究計画が、事前コンタクトで確認した内容と一致するように指導する。

(b) 合格者の決定法

(i) 原則として、総得点が 425 点（基準点）以上の者を有資格者とする。ただし、問題の難易度に応じて有資格判定の基準点を調整することがある。

(ii) 有資格者の成績上位の者から合格者を決定する。

(iii) 合格発表後、入学辞退等があれば有資格者の中から繰り上げ合格者を決定する。

(c) 留学生（卒業見込みを含む）への注意事項

本機械工学群では、日本の大学を卒業した留学生（卒業見込みを含む）は本試験を受験することを強く推奨する。その他の留学生は、本試験ではなく 2 月実施予定の試験を受験することを強く推奨する。ただし、いずれの留学生も出願に先立って、下記の VI. (3) まで必ず詳細を問い合わせること。

(d) 学力検査に関する注意事項

(i) 試験会場や試験に関する注意などは、2025 年 7 月 28 日（月）～8 月 4 日（月）に桂キャンパス C クラスター C3 棟 1 階（b 棟）掲示板に掲示する。

(ii) 試験開始 20 分前までに試験室に入室すること。

(iii) 試験開始後 30 分以上遅刻した者の入室は認めない。

(iv) 試験開始後の途中退室は認めない（用便等、一時退室を特別に認める場合を除く）。

(v) 時計を持ち込んでよいが、計時機能のみを有するものに限る。

(vi) 定規、コンパス、辞書、電卓、およびこれらに類するものの使用は認めない。

(vii) 携帯電話等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見

なされることがあるので注意すること。

(viii) その他の注意は試験室にて与える。

(e) TOEFL 成績の提出について

- (i) 2023 年 8 月 3 日以降に受験した TOEFL-iBT の成績を有効とする。TOEFL-ITP および TOEFL-iBT Home Edition の成績は受け付けない。以下の項目(ii)および(iii)の手続きにより成績を提出すること。提出がない場合は英語の得点が 0 点となる。TOEFL の受験後、TOEFL 実施機関のホームページで成績を確認できるまでに 2 週間程度、Institutional Score Report が指定送付先に到着するまでに 6～8 週間程度かかるとされている。到着が遅れる場合もあるので、十分な時間的余裕を持って TOEFL を受験すること。なお、Test Date Scores のみを利用する。
 - (ii) 受験した TOEFL テストの Test Taker Score Report のコピーを提出すること (TOEFL 実施機関のウェブサイトの個人ページからダウンロードが可能な PDF 形式の Test Taker Score Report を印刷したものでも良い)。
 - (iii) 受験した TOEFL テストの Institutional Score Report が 2025 年 7 月 28 日(月)までに機械工学群に届くように、出願者の責任において TOEFL 実施機関に送付依頼の手続きを取ること。Institutional Score Report の送付依頼の際には、送付先のコード (Institution Code) として「B431」を指定すること (Institution Code が「B431」と指定されていれば、Department Code はどのように指定されていても良い)。送付依頼手続きは、TOEFL テスト申込時のほか、申込後や TOEFL テスト受験後にも可能であるので、TOEFL 実施機関に確認すること。なお、原則、Institutional Score Report の到着の有無についての問い合わせには、回答しない。
 - (iv) Institutional Score Report の京都大学の Institution Code 「9501」への送付は認めない。既に TOEFL を受験し、Institutional Score Report を Institution Code 「9501」に送付済みの場合でも、必ず「B431」に再度送付依頼の手続きをとること。
 - (v) 原則として、機械工学群に届いた Institutional Score Report に記載の成績を英語の点数とする。ただし、出願者が Institutional Score Report の送付依頼を正しく行ったにもかかわらず、(iii)に記載の期日までに機械工学群に Institutional Score Report が届いていない場合には、提出された Test Taker Score Report のコピーに記載の成績を英語の点数とすることがある。
 - (vi) 英語を母国語とする受験者は、「英語を母国語とする旨の宣誓書」(様式 4) の提出により TOEFL 成績の提出を免除することがある。免除を受けようとする場合には、予め下記の VI. (3) に詳細を問い合わせること。
 - (vii) 受験資格により TOEFL を受験することが困難な場合は、下記の VI. (3) まで連絡すること。
- <参考> TOEFL に関するホームページ：

<https://www.toefl-ibt.jp>

<https://www.ets.org/toefl.html>

VI. 出願要領

(1) 一般選考

本募集要項「Part A: III 出願要領」に記載の工学研究科に提出する出願書類の他に、以下の(a), (b)の書類を 2025 年 7 月 17 日 (木) 午後 5 時までに下記 (3) の提出先に提出または送付(必着・書留便)すること(※2025 年 7 月 15 日 (火) 以前の日本の発信局消印がある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合においても受理する。)。願書とは提出先が異なるので注意すること。

また、留学生においては、以下の(a), (b)の書類に加えて、以下の(c)の書類も提出すること。ただし、以下の(c)の書類については 2025 年 5 月 28 日 (水) ～2025 年 6 月 11 日 (水) 午後 5 時

まで（願書の提出期間と同じ）に下記（3）の提出先に提出または送付（必着・書留便）すること（※2025年6月9日（月）以前の日本の発信局消印がある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合においても受理する。）。願書とは提出先が異なるので注意すること。

※様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること。

(a) TOEFL 成績に関する提出書類

項目 V. (2) (e) に記載の TOEFL テストの Test Taker Score Report のコピー

（なお、Institutional Score Report については、項目 V. (2) (e) に指定した方法で機械工学群への送付手続きを別途済ませておくこと）

(b) 志望研究区分申告票（様式 1）

(i) 合格者の研究室配属は、「志望研究区分申告票」により申告した志望区分番号に基づいて行う。

(ii) 配属を志望する研究区分番号と氏名を記入し、押印すること。受験票が届く前に提出する場合は、受験番号欄には記入する必要はない。

(iii) 「IX. 教員・研究内容説明書」を参照して、第 1 志望から第 27 志望まで、異なる区分番号を漏れなく記入すること。

(iv) 番号の重複や空欄などの不備がないように注意すること。

(v) 不備のある場合には、当該合格者の志望順位は、機械工学群において決定する。

(vi) 願書の志望区分記入欄には記入する必要はない。

(c) 志望する指導教員調書（様式 6：留学生のみ要提出）

志望する指導予定教員の確認印（署名）を得たものを提出すること。（コピー可）

事前コンタクトにおいては、指導予定教員が志願者の希望する学習・研究内容と、指導予定教員の研究活動との整合性の有無を判断する。

(2) 特別選考

本募集要項「Part A: III 出願要領」に記載の工学研究科に提出する出願書類の他に、以下の(a)～(d)の書類を、2025年5月19日（月）午後5時までに下記（3）の提出先に提出または送付（必着・書留便）すること。願書とは提出先が異なるので注意すること。

※2025年5月16日（金）以前の日本の発信局消印がある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合においても受理する。

※様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること。

(a) 指導予定教員からの受入推薦書（様式 2）

(b) 学部成績証明書（最新のもの）

(c) 希望研究コース・区分・分野等調査票（様式 3）

(d) 予備選考可否通知の返信用封筒（長形 3 号 120mm×235mm に住所・氏名・郵便番号を記入、110 円切手貼付）

さらに、以下の(e)の書類を、2025年7月17日（木）午後5時までに下記（3）の提出先に提出または送付（必着・書留便）すること。願書とは提出先が異なるので注意すること。

※2025年7月15日（火）以前の日本の発信局消印がある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合においても受理する。

(e) TOEFL 成績に関する提出書類

項目 V. (2) (e) に記載の TOEFL テストの Test Taker Score Report のコピー

（なお、Institutional Score Report については、項目 V. (2) (e) に指定した方法で機械工学群への送付手続きを別途済ませておくこと）

(3) 提出先・問合せ先

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛（機械工学群）

電話：075-383-3521 E-mail: 090kckyomu2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

参照： <https://www.me.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admission/exam>

VII. 入学後の教育プログラムの選択

入試区分「機械工学群」の入試に合格することにより、入学後に履修できる教育プログラムは下記のとおりである。

前後期連携教育プログラム

融合工学コース（a. 応用力学分野、b. 物質機能・変換科学分野、c. 生命・医工融合分野、d. 融合光・電子科学創成分野、f. デザイン学分野、g. 総合医療工学分野）
※現在、「e. 人間安全保障工学分野」を選択できる志望区分は機械工学群にはありません。

前後期連携教育プログラム

高度工学コース（機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、航空宇宙工学専攻）

修士課程教育プログラム

機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、航空宇宙工学専攻

各教育プログラムの詳細及び融合工学コースの各分野の内容については、工学研究科 HP（「工学研究科教育プログラム」 <https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>）、および下記項目Ⅷを参照すること。なお、いずれのプログラムを履修するかは、特別選考の場合には希望研究コース・区分・分野等調査票（様式3）に志望コースを記入してⅥ. (2) に従い提出すること。一般選考の場合には、合格者のみ研究室配属確定後、2025年10月27日（月）までにⅥ. (3) 記載の提出先へ「教育プログラム志望調書」（様式5）を提出すること。前後期連携教育プログラムを志望する場合は志望区分の予定教員の内諾が必要である。教員が不明の場合やその他不明なことがあれば、上記Ⅵ. (3) まで問い合わせること。

Ⅷ. 教育プログラムの内容について（前後期連携教育プログラム高度工学コース・修士課程教育プログラム）

【前後期連携教育プログラム 高度工学コース】

○機械理工学専攻

機械工学の対象はミクロからマクロにわたる広範囲な物理系であり、現象解析・システム設計から製品の利用・保守・廃棄・再利用を含めたライフサイクル全般にわたります。本専攻は、それらの科学技術の中核となる材料・熱・流体等に関する力学（物理）現象の解析および機械システムの設計論に関する教育・研究を行います。未知の局面において、従来の固定観念や偏見にとらわれない自由で柔軟な発想とダイナミックな行動力を有するとともに、機械工学の基礎となる幅広い学問とその要素を系統的に結びつけるシステム設計技術を融合させることができ、かつ、新しい技術分野に果敢に挑戦する、研究者・技術者群のリーダーを育成します。

○マイクロエンジニアリング専攻

微小な機械システムは 21 世紀における人間社会・生活に大きな変革をもたらす原動力です。また、生体は最精密な微小機械の集合です。本専攻は、それらのシステム開発の基礎となる微小領域特有の物理現象の研究をはじめ、微小機械に特有の設計・制御論に関する研究・教育を行います。ナノ・マイクロエンジニアリングのみならず医学・生命科学分野をはじめとする多くの分野に関連することから、本専攻では、機械工学を取り巻く異分野との融合領域における研究者・技術者を育成します。

○航空宇宙工学専攻

宇宙は 21 世紀における最大のフロンティアであり、自由な飛行は時代を超えた人類の夢です。その開発と実現を担う航空宇宙工学は、未知なる過酷な環境に対峙する極限的工学分野であり、機械系工学の先端知識を総合した革新的アイデアを必要とします。本専攻は、革新的極限工学としての航空宇宙工学に関する研究とその基礎となる教育を行います。近年の先端工学の発展には、その高度化・複雑化に伴い、従来の工学分野の融合と新分野の創成が不断に求められています。機械系工学群として提供されるより広く多彩な科目およびセミナー科目においてさらに研鑽を深め、より広い視野とより自在で積極的な思考力・応用力をあわせもつ航空宇宙工学分野の高レベルの研究者・技術者を育成します。

【修士課程教育プログラム】

○機械理工学専攻

機械工学の対象はミクロからマクロにわたる広範囲な物理系であり、現象解析・システム設計から製品の利用・保守・廃棄・再利用を含めたライフサイクル全般にわたります。本専攻は、それらの科学技術の中核となる材料・熱・流体等に関する力学（物理）現象の解析および機械システムの設計論に関する教育・研究を行います。本プログラムでは、機械工学およびその基礎工学の研究者・技術者として、学問分野、産業界、社会で求められているニーズに応えるべく、基本的な機械工学およびそれに関連する基礎工学の学理を習得することを目的とし、深い洞察力と知的蓄積を背景にした豊かな創造力を有する研究者・技術者を養成します。

○マイクロエンジニアリング専攻

微小な機械システムは 21 世紀における人間社会・生活に大きな変革をもたらす原動力です。また、生体は最精密な微小機械の集合です。本専攻は、それらのシステム開発の基礎となる微小領域特有の物理現象の研究をはじめ、微小機械に特有の設計・制御論に関する研究・教育を行います。ナノメートルオーダーに代表される微小領域特有の物理現象を解明し、ナノ材料・ナノ構造の作製・加工からマイクロメートルオーダーの微小な機械の構造および機構の作製をはじめ、微小機械システムの設計および開発等の広範囲な分野に通用する能力を有する研究者・技術者を養成します。

○航空宇宙工学専攻

宇宙は 21 世紀における最大のフロンティアであり、自由な飛行は時代を超えた人類の夢です。その開発と実現を担う航空宇宙工学は、未知なる過酷な環境に対峙する極限的工学分野であり、機械系工学の先端知識を総合した革新的アイデアを必要とします。本専攻は、革新的極限工学としての航空宇宙工学に関する研究とその基礎となる教育を行います。航空宇宙工学に関する技術的知識の習得よりも基礎学力向上のための教育を重視し、工学基礎全般にわたって十分な基礎学力とそれらを自在に使いこなす豊かな思考力と応用力・創造力を有し、航空宇宙工学をはじめとした先端工学の分野の進歩発展に貢献し先導できる研究者・技術者を育成します。

IX. 教員・研究内容説明書

(機械理工学専攻)

研究内容	区分
機械システム創成学研究室 (中西講師) (1) 輸送機械・生産機械における人間と自動化の協調系設計 (2) 無人航空機の自律制御とその安全防災活動への適用 (3) 複合機能を有する機械製品のユーザビリティ設計 (4) 産業用ロボットの教示作業支援技術 (5) 身体運動の観察時系列データからの運動状態・行動意図の推定	1
適応材料力学研究室 (西川准教授) (1) 材料力学と異分野の融合による先進複合材料のメゾスケール構造制御と高性能化 (2) 先進複合材料の固体力学と破壊力学 (3) 航空機用高剛化複合材の破壊力学特性発現機構のメゾメカニクス (4) 先進複合材構造の設計・製造と最適成形法に関する基礎科学 (5) 複合材料の破壊機構解明や構造健全性評価のための理論の展開	2
固体力学研究室 (平方教授・松永助教・王助教) (1) ナノ・マイクロスケールの材料強度と材料力学 (2) 電子を介した材料強度制御の基礎物理の確立 (3) ナノ構造体・二次元材料・薄膜の機械的特性および物性評価手法の開発 (4) 高強度・高機能ナノ構造材料の創製 (5) 力学と他の物理現象のマルチフィジックス	3
環境熱流体工学研究室 (長田教授・渡邊准教授) (1) 乱流構造とエネルギー輸送現象 (2) 乱流と衝撃波の干渉 (3) 空気力学(翼周りの流れと揚力/抗力など) (4) 高速流中の乱流現象 (5) 環境中の乱流拡散現象	4
熱システム工学研究室 (岩井教授・岸本准教授・郭助教) (1) 燃料電池・電解セル・二次電池・触媒反応器内の輸送・反応連成現象に関する研究 (2) 熱流動場の計測・可視化・シミュレーション (3) 電気化学デバイスにおける界面輸送機構の分子動力学解析 (4) 3次元ナノ構造の詳細解析に基づく機能性多孔質体の最適化 (5) エネルギーの変換・貯蔵に関する新コンセプトの創出と検証	5
光工学研究室 (蓮尾教授・四竈准教授・クズミン講師) (1) 分光手法・レーザー計測法の開発 (2) 各種プラズマの分光診断・計測 (3) 金属膜プラズマ駆動水素透過の分光診断 (4) 吸収・発光・散乱スペクトルを利用したセンサー開発 (5) 位相制御を用いた波面補償光学	6

研究内容	区分
材料物性学研究室 （嶋田教授・見波助教） （１）材料力学・計算物理学・データ科学に基づく先端デバイス材料機能の研究開発 （２）宇宙・極限環境での材料強度デザイン （３）再生可能エネルギー応用への環境発電材料設計 （４）人工知能(AI)・量子駆動デバイスに向けた量子物質科学：“一億分の１”世界の機械へ （５）機械学習とスーパーコンピュータによるデータ駆動型材料研究技術の開発	7
熱物理工学研究室 （黒瀬教授・若林助教・ピライ助教） （１）固体・流体の熱力学性質・輸送性質・ふく射性質の研究 （２）乱流燃焼機構の解明とモデリング （３）混相流に関する運動量・熱・物質の移動現象の解明とモデリング （４）マイクロスケール輸送現象・界面現象の解明とモデリング （５）スーパーコンピュータを用いた大規模数値シミュレーション	8
機構運動工学研究室 （小森教授・寺川助教） （１）ロボット用メカニズム(機構・からくり)の開発・設計、移動ロボット、自動車用メカニズム （２）ビークル／乗り物、搭乗型ロボット、搭乗型モビリティ、ライディングロボティクス （３）ヒトの動作特性の不思議を知る、直感的操作、ロボット操作 （４）ヒトの未知の能力を発見する、能力マイニング、足・脚による操作 （５）動きとアート／デザイン	9
機械機能要素工学研究室 （平山教授・安達助教） （１）機械要素の高効率化・高機能化に向けた最適設計指針の提示 （２）低摩擦摺動を可能とする材料／潤滑油／摺動面形状の開発と評価 （３）ナノ／メゾ／マクロを繋ぐ表面・界面のトライボロジー特性計測 （４）トライボロジー現象の基礎的解明に向けた表面・界面分析手法の確立 （５）量子ビームを用いた表面・界面のメカノオペランド分析	10
先端システム理工学研究室 （細田教授・川節講師） （１）人工筋駆動ロボットによるマニピュレーション （２）イオンゲル・イオン流体を用いたソフトセンサ （３）ソフトハンドによる物体の識別とマニピュレーション （４）インソールセンサの開発と応用 （５）生物規範ロボット	11
粒子線材料工学研究室（複合原子力科学研究所） （木野村教授・徐准教授・藪内助教） （１）高エネルギー粒子による材料の照射損傷発達過程の実験的・理論的研究 （２）先端材料中の格子欠陥の生成とその挙動の解明 （３）陽電子消滅分光法を用いた材料分析と分析装置開発 （４）原子炉、核融合炉用材料開発 （５）照射効果を用いた材料改質法の研究	12
量子ビーム物質解析学研究室（複合原子力科学研究所） （奥地教授・有馬准教授・梅田助教） （１）中性子線・X線・電子線による物質材料の構造解析技術の研究開発 （２）高温高圧力環境における物質材料の合成とマルチスケールでの構造解析 （３）宇宙空間・地球深部に存在する結晶・非晶質物質の人工合成と解析 （４）高温・高圧力・高ひずみ状態の発生・制御・時間進展計測技術の研究開発 （５）中性子回折装置の設計と工学利用の研究	13

(マイクロエンジニアリング専攻)

研究内容	区分
構造材料強度学研究室 (泉井教授・林講師) (1) 複合領域および複合物理問題の最適システム設計 (2) 形状・トポロジー最適化 (3) 機械製品・生産システムの構想設計法 (4) ユニバーサルデザイン (5) サステナブルエンジニアリング	1 4
マイクロバイオシステム研究室 (横川教授・藤本准教授・松本助教) (1) 生体分子・細胞計測のためのマイクロ・ナノシステムの設計と加工に関する研究 (2) オンチップ血管網を用いた腫瘍微小環境形成過程の再現と解明 (3) ヒト iPS 細胞由来オルガノイドを用いた脳・腎臓の臓器モデル創製と創薬応用 (4) ウイルス感染モデルを用いた組織間相互作用の解明 (5) 機械学習を用いた血管網をはじめとする 3 次元培養組織の形態および形成過程の解明	1 5
ナノ・マイクロシステム工学研究室 (土屋教授・廣谷准教授・パネルジー講師・霜降助教) (1) ナノ・マイクロスケールの材料創成・加工・プロセス・デバイス・システム (2) マイクロセンサ・アクチュエータ (慣性センサ、共振子、光学素子) (3) ナノ・マイクロスケールにおけるエネルギー輸送・変換の計測と制御 (4) ナノ・マイクロ機械デバイスを用いた機械学習システム (5) IoT や生体情報計測のためのフレキシブル・ストレッチャブルデバイス	1 6
ナノ物性工学研究室 (中嶋准教授) (1) 量子ビームと固体表面の相互作用に関する研究 (2) 高分解能イオン散乱分光法の開発と応用に関する研究 (3) 高速クラスターイオンと物質の相互作用およびその応用に関する研究 (4) 透過型二次イオン質量分析を用いた新しいイメージング質量分析法の開発 (5) 高速重イオンを用いた高感度二次イオン質量分析法の開発	1 7
生命数理科学研究室 (井上教授・瀬波講師・森川助教) (1) 生きものらしさが現れるダイナミクスの解明 (2) 複雑適応システムの構造と発展の理論 (3) 生命システムの制御機構の解明 (4) 生物の形態形成の数理モデリングと工学応用 (5) 計算科学に基づいた量子現象の基礎理論の探求と工学応用手法の開発	1 8
マイクロ加工システム研究室 (鈴木教授・名村准教授) (1) 物理的な自己組織化法によるナノ形態の制御に関する研究 (2) 形態を制御したナノ粒子・ナノワイヤの形成と応用に関する研究 (3) ナノ形態を制御した多層膜による光機能性の創出とその応用に関する研究 (4) ナノ形態制御表面を利用したふく射・吸収の制御に関する研究 (5) 光熱変換薄膜を利用したマイクロ熱流体現象に関する研究	1 9
精密計測加工学研究室 (河野准教授) (1) 工作機械の運動誤差の計測と補正 (2) 超精密計測加工システムの開発 (3) 切削加工プロセスのモデル化とデザイン (4) 機械要素の剛性、摩擦のモデル化 (5) 加工機の動的設計	2 0
バイオメカニクス研究室 (医生物学研究所) (安達教授・牧准教授・竹田助教) (1) 力学環境に応じた生体システムの構造・機能適応のメカニズム (2) 多細胞組織の発生・形態形成の多階層力学モデリングとシミュレーション (3) 骨細胞の力刺激感知と細胞間コミュニケーションによる骨リモデリング (4) ゲノム DNA の力学動態を介した細胞運命決定メカニズム (5) 細胞内構造の力学制御に基づくマイクロ・ナノマシナリー創製	2 1

研究内容	区分
ナノ生物工学研究室（医生物学研究所） （新宅教授・金子助教・峯岸助教） （１）細胞生物学のためのナノ・マイクロ流体工学 （２）細胞力学と遺伝子制御 （３）細胞動態と遺伝子発現の時系列計測による遺伝子制御ネットワーク解析 （４）細胞周辺微小環境の in vitro 再構築のためのナノ・マイクロ工学 （５）細胞動態と遺伝子発現制御を接続する機械学習プラットフォームの構築	2 2

(航空宇宙工学専攻)

研究内容	区分
流体力学研究室 (杉元講師) (1) 衝撃波を伴う高速気流解析 (2) 乱流の数値解法 (3) 非圧縮性流体の漸近の数値解法 (4) 気体論方程式の数値解法 (5) 分子気体効果を利用した気体分離システムの試作研究	2 3
流体数理学研究室 (高田教授・初鳥助教) (1) 運動論方程式に基づく流体中の非平衡現象の数理解析とシミュレーション (2) 非平衡流体における相反性の理論とその応用 (3) すべり流(希薄気体効果)の理論とその応用 (4) 相変化の非平衡動力学とそれによる気体力学の拡張 (5) 多孔体内気体輸送の運動論モデリング	2 4
推進工学研究室 (江利口教授・占部准教授) (1) プラズマと固体表面との物理的・化学的相互作用に関する基礎研究 (2) 固体表面及び微細構造内におけるプラズマからの粒子・エネルギー輸送に関する研究 (3) プラズマプロセスおよび高信頼性デバイス作製技術に関する研究 (4) 宇宙推進工学、特に電気推進器の高信頼性化に関する基礎研究 (5) 宇宙マイクロ・ナノ工学の創成(超小型推進、高機能材料・デバイスなど)に関する研究	2 5
制御工学研究室 (藤本教授・丸田准教授・鹿田助教) (1) 最適制御・非線形制御などのシステム制御理論 (2) 宇宙機の姿勢制御・最適設計 (3) 統計的学習・確率システム制御 (4) 制御系設計のためのシステム同定 (5) データ駆動型制御系設計	2 6
機能構造力学研究室 (琵琶教授・石井助教) (1) 複雑な微視構造・界面を有する固体における弾性波伝搬挙動の解析 (2) フォノン結晶・音響メタマテリアルによる弾性波機能構造の解析 (3) 非線形超音波特性に着目した欠陥・損傷の非破壊評価 (4) 超音波スペクトロスコーピーによる航空機構造用複合材料の特性評価 (5) 高速き裂進展における動的不安定性の解析	2 7

原子核工学専攻

I. 志望区分

研究グループ	志望区分	研究内容	対応する教育プログラム		
			連携教育プログラム (融合工学コース)	連携教育プログラム (高度工学コース)	修士課程教育 プログラム
量子エネルギー物理学 第1グループ	1-1	エネルギー変換工学 混相流体科学、環境流体輸送現象、分子熱流体、 新型炉・核融合炉エネルギー変換、原子炉システム安全、核融合炉に関連する数値計算モデリング 横峯教授、成田講師	応用力学分野		
	1-2	プラズマ物理学 核融合プラズマ中の輸送現象、波動によるプラズマ制御、高速イオンとプラズマの相互作用、先進的閉じこめ配位 村上教授、森下助教	応用力学分野		
量子エネルギー物理学 第2グループ	2-1	燃材料工学 原子炉材料・燃料、放射性廃棄物の処理処分、核融合炉燃料・材料 佐々木教授、小林准教授			
	2-2	重元素物性化学【本区分は今年度募集しない】 原子炉燃料サイクルの化学、重元素・アルファ放射体の物性化学・医薬応用 山村教授		任意の志望区分を選択することができます。	任意の志望区分を選択することができます。
量子システム工学 第3グループ	3-1	量子ビーム科学 量子ビームによるナノ科学、高速量子現象の物理学、原子衝突物理学、クラスター粒子応用工学 斉藤教授、土田准教授、間嶋准教授、瀬木講師、今井助教	生命・医工融合分野 先端医学量子物理領域 総合医療工学分野		
	3-2	粒子線医学物理学 中性子捕捉療法の実験物理学、原子炉および加速器システムの医学応用 田中教授、櫻井准教授、高田助教、松林助教	生命・医工融合分野 先端医学量子物理領域 総合医療工学分野		
量子物質工学 第4グループ	4-1	量子物理学※ 深層学習による自然科学の理解 小暮助教			
	4-2	中性子工学 原子炉・核融合炉材料の中性子照射効果、耐環境セラミック複合材料、中性子スピン干渉・光学現象の研究と応用、冷減速材中性子散乱断面積と冷中性子源の解析 檜木教授、田崎准教授			
	4-3	中性子源工学 原子力・加速器科学・医学応用のための加速器・研究炉中性子源の研究、加速器物理学、核反応・核変換工学、原子力施設の安全性評価研究 堀教授、石准教授、高橋准教授、山本准教授、上杉助教、沈助教、寺田助教			
	4-4	中性子応用光学 中性子スピン光学応用、中性子位相イメージング、超冷中性子を用いた素粒子原子核実験、新試験研究炉へ向けた分光器・検出器開発 日野教授、中村助教、樋口助教			

詳しい研究内容については、専攻ウェブサイト <https://www.ne.t.kyoto-u.ac.jp/> を参照。
※4-2 に配属

Ⅱ. 募集人員

原子核工学専攻 23 名

(以下の博士課程前後期連携教育プログラムの募集人員を含む。)

高度工学コース (原子核工学専攻) 若干名

融合工学コース (応用力学分野) 若干名

融合工学コース (生命・医工融合分野 先端医学量子物理領域) 若干名

融合工学コース (総合医療工学分野) 若干名

Ⅲ. 出願資格

本募集要項の Part A: Ⅱ-i を参照のこと。

Ⅳ. 学力検査日程

月 日	コース	時 間	試験科目
8 月 5 日 (火)	修士課程 教育プログラム	10:00~11:00 12:30~15:30	工学基礎 専 門
	博士課程前後期連携 教育プログラム	10:00~11:00 12:30~15:30 16:00~17:00*	工学基礎 専 門 口頭試問

* 時間に変更する場合がある。

※ 試験場は桂キャンパス C クラスターである。詳細は受験票送付時に通知する。

Ⅴ. 入学試験詳細

(1) 試験科目、出題範囲 [修士課程教育プログラム]

工学基礎、専門のすべてを受験しなければならない。

英語 (配点 100 点)

筆記試験は行なわず、TOEIC あるいは TOEFL テストの成績の提出で代用する。100 点満点への換算方法および成績の提出方法は以下に記す。なお、提出がない場合は英語の得点は 0 点となる。

(a) TOEIC の場合

- ・ TOEIC の点数 $\times 0.12$ を得点とする。ただし、100 点を上限とする。
- ・ 試験実施日より過去 2 年以内に受験した TOEIC L&R 公開テストを有効とする。IP など団体向けテスト、SW、Bridge は認めない。
- ・ デジタル公式認定証を印刷したもの、もしくは公式認定証 (原本) を試験当日に提出すること (項目 VI-(3)-(a) を参照)。

(b) TOEFL の場合

- ・ TOEFL の点数 $\times 1.2$ を得点とする。ただし、100 点を上限とする。
- ・ 試験実施日より過去 2 年以内に受験した TOEFL iBT テスト (Home Edition を含む) を有効とする。ITP など団体向けテストおよび MyBest スコアの利用は認めない。
- ・ 試験実施日の前日までに Institutional Score Report が当専攻に届くように、Institution Code「C323」を指定して TOEFL 実施機関に送付依頼の手続きを取る。
- ・ Test Taker Score Report の PDF 版を印刷したもの、もしくは郵送版のコピーを試験当日に提出すること (項目 VI-(3)-(a) を参照)。
- ・ Institutional Score Report が上述の期日までに届いていない場合には、提出された Test Taker Score Report の PDF 版を印刷したもの、もしくは郵送版のコピーに記載の成績を用いる。ただし、後日に書類の不正が認められた場合には合格を取り消す。

工学基礎 (配点 100 点)

出題範囲は学部 1、2 回生で学修する力学、微分積分である。

専門（配点 300 点）

以下の科目からの出題（計 9 問）より、3 問を選択して解答すること。

科 目	出題範囲
・ 数学	微分積分、線形代数、常微分方程式、フーリエ解析
・ 量子力学	1 次元運動、調和振動子、スピン運動、水素型原子
・ 統計力学	多粒子系の量子状態、理想気体、固体比熱、金属電子
・ 電磁気学	静電磁界、電流と磁界、電磁誘導
・ 放射線物理学	放射線と物質との相互作用、原子核の崩壊と半減期、放射線の検出と測定誤差
・ 物理化学	化学の基礎法則と熱力学、反応速度論
・ 材料物性	固体中の欠陥、固体の基本的な物性と温度の影響
・ 流体・熱工学	粘性流体、熱伝導、対流熱伝達、沸騰現象、熱機関
・ 原子炉物理学	臨界と中性子束分布、動特性と制御

専門試験の一部免除について

- ・ 国家資格やこれに準ずる資格を有する者、あるいは特筆すべき業績や実務経験を有する者については、その内容に応じて専門試験の一部を免除することがある。
- ・ 資格、業績・実務経験、それぞれに対して 1 問を免除して 100 点を与える。専門科目 3 問から免除された問題数を除いた問題数を選択解答する。（資格と特筆すべき業績・実務経験の両方が認められた場合は 2 問免除になる。）
- ・ 以下の資格に対して免除する。記載されていない資格も内容に応じて免除の可否を判定する。
第一種放射線取扱主任者（筆記試験合格者でもよい）、診療放射線技師、技術士、弁理士。
免除の申請方法については、項目 VI-(2) を参照すること。

(2) 試験科目、出題範囲〔博士課程前後期連携教育プログラム〕

工学基礎、専門、口頭試問のすべてを受験しなければならない。

英語、工学基礎、専門（一部免除を含む）の試験は、修士課程教育プログラム（項目 V-(1)）と共通で実施する。

口頭試問 項目 VI-(3)-(b) により提出された資料に基づき口頭試問を行う。口頭試問の試験室には、補足資料等の持ち込みはできない。

(3) 有資格者・合格者決定法および志望区分への配属

- (a) 試験科目（英語、工学基礎、専門）の総得点が 250 点以上の者を有資格者とする。
- (b) 有資格者の中から総得点順に募集人員の範囲内で合格者を決定する。
- (c) 総得点で同得点者があるときは、専門の得点が高い方を上位者とする。
- (d) 合格者発表後、辞退等があれば、合格者となっていない有資格者の中から (b) および (c) により繰り上げ合格者を決定する。
- (e) 合格者を志望する区分に配属する。
- (f) 合格者となった博士課程前後期連携教育プログラム志望者につき、口頭試問の結果を総合的に判断し、教育プログラムを決定する。

(4) 試験の注意事項

- ・ 筆記用具は、黒鉛筆、シャープペンシル、鉛筆削りおよび消しゴムに限る。
- ・ 電卓、辞書およびこれに類するものの持ち込みは認めない。
- ・ 携帯電話等の電源は切り、カバンの中に入れて指定された場所におくこと。身につけている場合、不正行為と見なされることがあるので注意すること。
- ・ 試験当日は、試験開始 30 分前までに指定された試験室前に集合すること。なお、試験開始時刻から 30 分以降は入室できない。

- ・試験室および口頭試問控室については、桂キャンパス C クラスター C3 棟 1 階（b 棟および c 棟）掲示板に、8 月 4 日（月）より掲示する。

VI. 出願要領

(1) 志望区分の申請およびインターネット出願時の登録事項

- ・インターネット出願システムでの出願登録の際、志望する教育プログラム・志望区分を登録すること。原子核工学専攻で履修できる教育プログラムと志望区分については、項目ⅠとⅦを参照し、研究内容の詳細については、専攻ウェブサイト <https://www.ne.t.kyoto-u.ac.jp/> を参照のこと。
- ・修士課程教育プログラムを第一志望とする場合、第二志望は登録せずに志望区分を選択すること。
- ・博士課程前後期連携教育プログラムを第一志望とする場合、修士課程教育プログラムを含め履修を志望する教育プログラム・コース・分野の志望順位を登録すること。志望しない教育プログラム・コース・分野は登録しないこと。
- ・項目Ⅶの(b)～(e)の連携教育プログラム志望にあたっては、出願者の希望する研究テーマが志望区分の研究分野に合致していることを、出願者と志望区分の教員（指導予定教員）の双方によって出願までに確認（事前コンタクト）を行い、インターネット出願登録の項目「指導教員に連絡を取った」を選択すること。

(2) 専門試験の一部免除の申請方法

専門試験の一部免除を申請する者は、工学研究科に提出する出願書類とは別途に、「専門試験の一部免除申請届」（様式 原M-01）に所定の事項を記載し、証明書類の写し（複数可）、返信先を宛名書きした長形 3 号の封筒（120 mm×235 mm）を添えて下記の提出先に提出すること。入学願書とは提出先が異なるので注意されたい。様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること。申請した受験者には、専門試験免除の可否と、可の場合は免除する問題数、試験時間を 7 月 17 日（木）までに上の長形 3 号の封筒で郵送にて知らせる。

別途書類

提出先：〒615-8540 京都市西京区京都大学桂
京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛
原子核工学専攻 入試担当

提出期限：6 月 20 日（金）17 時必着（後日の提出は認めない）

提出方法：提出書類を封筒に入れ、表に「入試別途書類（修士）」と朱書きすること。
郵送の場合は書留便とすること。

(3) 試験当日の提出書類

工学基礎の試験に先立って試験室で、以下のものを提出すること。

- 英語試験に TOEIC の成績を提出する者は、デジタル公式認定証を印刷したもの、もしくは公式認定証（原本）を提出すること。TOEFL の成績を提出する者は、Test Taker Score Report の PDF 版を印刷したもの、もしくは郵送版のコピーを提出すること。TOEIC の公式認定証（原本）は試験終了までに返却する。
- 連携教育プログラムを志望する受験者は、「口頭試問用提出書類」（様式 原M-02）に所定の事項を記入して提出すること。様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること。

VII. 入学後の教育プログラムの選択

原子核工学専攻の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは以下の通りである。

- 修士課程教育プログラム 原子核工学専攻
- 博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コース）原子核工学専攻
- 博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース）応用力学分野
- 博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース）生命・医工融合分野先端医学量子物理領域

(e) 博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース）総合医療工学分野

いずれのプログラムを履修するかは、受験者の志望と入学試験の成績（工学基礎、専門、英語の合計点）に応じて決定する（項目Ⅴ-(3)参照）。詳細については、項目Ⅰを参照のこと。また、教育プログラムの内容については、以下の項目Ⅷおよび、本募集要項記載の「修士課程入学後の教育プログラムについて」をそれぞれ参照すること。

項目Ⅵ-(1)に記載の通り、(b)～(e)の連携教育プログラム志望にあたっては、事前コンタクトを行うこと。事前コンタクトは原則として対面で行うこととするが、指導予定教員が適切と判断した場合はリモートで行うこともある。また、口頭試問の発表指導は行わない。

教員が不明の場合やその他不明なことがあれば、項目Ⅸ-(1)の入試担当に問い合わせること。

Ⅷ. 教育プログラムの内容について

【修士課程教育プログラム】

原子核工学専攻では、素粒子、原子核、原子や分子、プラズマなど、量子の科学に立脚したミクロな観点から、量子ビーム、ナノテクノロジー、アトムテクノロジーなど最先端科学を切り開く量子技術を追究するとともに、新素材創製・探求をはじめとする物質開発分野、地球社会の持続的発展を目指すエネルギー・環境分野、より健やかな生活を支える生命科学分野等への工学的応用を展開しています。

修士課程教育プログラムでは、十分な専門基礎学力を有し、明確な目的意識を備えた人材を分野を問わず受け入れ、ミクロな観点からの分析能力と高い問題解決能力を有する研究者、高度技術者の育成を目指します。

入学後は体系的な教育カリキュラムを通して基礎から先端までの幅広い知識を修得させ、修士論文研究を通して問題の発見と解決のための総合的思考能力を育成し、実習やインターンシップ等の実体験などを通して目的意識や問題解決力の涵養を図ります。

【高度工学コース】

原子核工学専攻では、素粒子、原子核、原子や分子、プラズマなど、量子の科学に立脚したミクロな観点から、量子ビーム、ナノテクノロジー、アトムテクノロジーなど最先端科学を切り開く量子技術を追究するとともに、新素材創製・探求をはじめとする物質開発分野、地球社会の持続的発展を目指すエネルギー・環境分野、より健やかな生活を支える生命科学分野等への工学的応用を展開しています。

高度工学コースでは、十分な専門基礎学力を有し、明確な目的意識を備えた人材を分野を問わず受け入れ、ミクロな観点からの創造性に富む分析能力とシステムとしての戦略的思考能力を有する先端的研究者の育成を目指します。

入学後は一貫した教育カリキュラムを通して基礎から先端までの幅広い知識を修得させ、自主性を尊重した研究指導、そして国内外の研究機関等との連携を生かした先端的研究教育を通じて国際的視野に立った総合的思考能力と基礎研究から工学的応用までの幅広い展開力を涵養します。

Ⅸ. その他

(1) 問合せ先

不明なことがあれば以下に問い合わせること。

原子核工学専攻 入試担当

電話：C クラスター事務区教務掛 075-383-3521

電子メール：inquiry2026@nucleng.kyoto-u.ac.jp

(2) 入試説明会

原子核工学専攻修士課程の入試に関する説明会を開催する。詳しくは専攻ウェブサイト

<https://www.ne.t.kyoto-u.ac.jp/> を参照すること。

材料工学専攻

I. 志望区分

志望区分	研 究 内 容
1	耐食・耐摩耗材料、ポーラス材料、触媒、キラリティ、自己組織化、材料物理化学
2	燃料電池材料、固体イオニクス、チタン製錬、レアメタル製錬、化学熱力学
3	構造材料、塑性変形機構、マイクロスケール力学特性、結晶欠陥、透過電子顕微鏡法
4	バルク・薄膜結晶成長、化合物半導体、太陽電池材料、光物性、量子計算科学
5	表面・界面物性、走査トンネル顕微鏡、原子レベル材料物性評価、ナノスケール元素分析
6	量子材料設計、セラミック材料、半導体材料、計算材料科学、エネルギー材料、電子分光
7	耐熱金属間化合物材料、先進電池材料、水素吸蔵・熱電変換材料、結晶格子欠陥、ナノ透過電子顕微鏡法
8	構造用金属材料、塑性加工、熱処理、ナノ・マイクロ組織制御、粒界・界面、機械的性質
9	凝固・結晶成長解析、凝固プロセス、電磁力プロセッシング、リアルタイムイメージング、材料組織解析
10	磁性物理学、磁性材料、強相関電子系、スピントロニクス、中性子散乱、核磁気共鳴
11	水溶液プロセス、イオン液体、材料電気化学、湿式非鉄製錬、電池材料、表面機能化
12	原子間力顕微鏡、熔融金属、界面電気化学、ナノトライボロジー、半導体表面プロセス

※ 志望区分と研究室の対応は、下記の教員・研究内容説明書を確認すること。

II. 募集人員

材料工学専攻 38 名 （「一般選考」と「特別選考」の合計人員）

III. 出願資格

材料工学専攻では「一般選考」に加え「特別選考」を行い、若干名を合格者とするところがある。それぞれの出願資格は以下の通りである。

(1) 一般選考

募集要項「II-i 出願資格」を満たす者。

(2) 特別選考

募集要項「II-i 出願資格」を満たし、指導予定教員と事前に十分面談を重ね受入推薦書を交付された者。但し、京都大学工学部物理工学科を卒業、あるいは卒業見込みの者を除く。

IV. 学力検査日程

(1) 一般選考

8月4日（月）	9：30～11：30 材料基礎学A	13：00～16：00 材料基礎学B
8月5日（火）	9：30～11：00 工業数学	11：00～ 面接

※試験場は吉田キャンパスである。詳細は受験票送付時に通知する。

(2) 特別選考

※ 入学願書の提出に先立ち、下記項目VI-(2)に記載の要領で受入推薦書等5点を「問い合わせ先」に提出した者に対し、5月26日（月）～6月2日（月）の期間に予備選考を行う。

※ 予備選考では面接を行うとともに、基礎学力および論理的思考力を判断するため、材料科学に関する小論文を課す。

※ 予備選考の可否は郵送により通知する。

※ 予備選考の合格者のみ下記項目VI-(1)に従い、「特別選考」として出願書類を工学研究科に提出し、8月6日（水）に行う以下の口頭試問を受験することができる。予備選考で不合格になった者も、希望すれば「一般選考」として出願書類を提出し、上記IV-(1)の一般選考学力検査を受験することができる。

※試験場は吉田キャンパスである。

V. 入学試験詳細

(1) 一般選考

1. 配点

[英語] 配点 100 点

筆記試験は行わず、TOEIC(TOEIC Listening & Reading Tests ; 以下 TOEIC L&R)の成績で代用する(100 点満点に換算する)。学力検査日から過去 2 年以内に受験した TOEIC「公開テスト」の成績表を提出すること。提出方法については下記 項目 VI-(1)を参照。TOEIC の「IP (Institutional Program) テスト」ならびに「iBT Special Home Edition」の成績は受け付けない。提出がない場合は英語の得点が 0 点となる。本専攻では、所属する大学院学生が TOEIC 730 点以上(レベルB)の英語力を有するべきと考えている。提出された TOEIC テストの点数は、このことを考慮して 100 点満点に換算する。

[工業数学] 配点 100 点

線形代数、微分積分、複素関数論、フーリエ解析、ラプラス変換、偏微分方程式、ベクトル解析など。

[材料基礎学A] 配点 120 点

[材料基礎学B] 配点 180 点

両科目とも、次の出題範囲から出題し、全問解答を要する。

- ・固体の原子および電子構造(化学結合、電子構造、結晶構造、X線解析など)
- ・熱力学・統計熱力学(相平衡、化学平衡、状態図など)
- ・材料組織(材料の微細構造、格子欠陥、拡散、相変態など)
- ・構造材料基礎(固体の機械的性質、弾性、塑性など)
- ・機能材料基礎(固体の電氣的性質、磁氣的性質など)
- ・材料プロセス基礎(金属材料、半導体材料、複合材料など)

[面接] 面接控室において、進路希望調査票を提出のうえ、指示に従うこと。

面接に欠席した場合、受験者の不利益になることがある。

2. 合格者決定法

総得点が各科目配点合計の 5 割以上の者を有資格者とし、その中から総得点の高い順に募集人員の範囲内で合格者を決定する。

3. 合格者の発表

「募集要項」の「V 合格者発表」を参照。

合格発表後、辞退等があれば有資格者の中から繰上げ合格を決定する。

(2) 特別選考

1. 配点

[英語] 配点 100 点

「一般選考」に同じ

[口頭試問] 配点 400 点

受験者が、材料科学に関連するプレゼンテーションを行い、引続いてその内容および関連事項に関する質疑応答を行う。

2. 合格者決定法

総得点が各科目配点合計の 5 割以上の者を有資格者とし、その中から総得点の高い順に若干名を合格者とする。

VI. 出願要領

(1) 全出願者共通事項

出願書類と志望区分

全ての出願者は、募集要項「Ⅲ 出願要領」に記載の出願書類を工学研究科に所定の受付日に提出する。なお、当専攻の志望区分は上記Ⅰのとおりであるが、当専攻では受験生に対し別途志望を調査する。志望区分と研究室および担当教員の関係は、下記の教員・研究内容説明書および材料工学専攻のウェブサイトで確認すること。<https://www.ms.t.kyoto-u.ac.jp/ja>

TOEIC 成績の提出

条件を満たす TOEIC L&R テストの成績表を 2025 年 7 月 25 日（金）午後 5 時必着で下記の「問い合わせ先」へ提出すること。入学願書とは提出先が異なるので注意すること。郵送の場合は、封筒に「材料工学専攻修士課程入試関係書類」と朱筆し、簡易書留とすること。成績表は原本を提出すること（コピーは不可）。ただし、TOEIC から紙媒体の成績証明書が発行されない場合はデジタル公式認定証（Digital Official Score Certificate）を印刷したものの提出を認める。提出された成績表は試験当日に、本人に返却する。それ以前に返却を希望する場合は下記の連絡先に連絡すること。

(2) 特別選考のみ

特別選考への出願を希望する者はまず、入学を希望する「志望区分」の指導予定教員と事前に十分な面談を重ね、受入推薦書（別紙様式 2）の交付を受けること。各志望区分に属する教員情報（連絡先等）は、下記の教員・研究内容説明書および材料工学専攻のウェブサイト（<https://www.ms.t.kyoto-u.ac.jp/ja>）または下記の「問い合わせ先」で確認すること。受入推薦書の交付を受けた者は、上記Ⅵ－(1)の各手続きに先立ち、以下の 5 点を 5 月 23（金）必着で下記の「問い合わせ先」へ提出すること。Ⅵ－(1)に記載の TOEIC L&R テストの成績表を 5 月 23 日（金）の時点で用意できる者は、これらと同時に提出することを推奨する。入学願書とは提出先が異なるので注意すること。郵送の場合は、封筒に「材料工学専攻入試関係書類（特別選考）」と朱筆し、簡易書留とすること。

- ・ 特別選考希望申告書（別紙様式 1）
 - ・ 指導予定教員受入推薦書（別紙様式 2）
 - ・ 推薦書（A4 判 1 枚で自薦、他薦いずれでもよい。様式は自由）
 - ・ 成績証明書（在籍大学または出身大学が作成したもの）
 - ・ 予備選考可否通知の返信用封筒（長形 3 号封筒に宛名を記入し 84 円切手貼付）
- ※様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること。

○ 問い合わせ先（連絡先）

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂 電話 075-383-3521

京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛

E-mail : 090kckyomu2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

（材料工学専攻 web site : <http://www.ms.t.kyoto-u.ac.jp/ja>）

VII. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には 3 種類の教育プログラムが準備されている。入試区分「材料工学専攻」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記のとおりである。

- (a) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（物質機能・変換科学分野）

(b) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（材料工学専攻）

(c) 修士課程教育プログラム 材料工学専攻

いずれのプログラムを履修するかは、合格決定後、入学までの適切な時期に志望を調査したうえで、その志望と入試成績に応じて審査の後に決定される。また、教育プログラムの内容については、学生募集要項 11 ページ以降記載の「X. 修士課程入学後の教育プログラムについて」及び次項の「VIII. 教育プログラムの内容について」をそれぞれ参照すること。

VIII. 教育プログラムの内容について（高度工学コース・修士課程教育プログラム）

【高度工学コース】

材料工学では、地球の「資源」や「物質」を有効に活用し、人類、そして地球の未来に役立つ「材料」に変換するための基礎技術と基礎理論を科学し、環境調和を考慮して人間社会を維持、発展させることに貢献することを目指して、新しい材料の開発・設計・製造プロセスに関する先進的教育と研究を行っています。そのために本専攻では、材料プロセス工学、材料物性学、材料機能学の各分野で、電子・原子レベルの元素の結合状態や結晶構造に関する研究から、ナノスケールのクラスター構造、メゾスケールからマクロスケールでの材料組織、マクロスコピックな結晶粒や加工組織や集合組織まで材料に関わる先進的教育研究を推進し、我が国が抱える緊急かつ重要な課題である環境、エネルギー、資源などの問題に、材料科学的な独自の視点で思考し、課題を設定し解決することができる、高い能力を持った研究者・技術者を育成します。

【修士課程教育プログラム】

現代の高度技術社会を支えている先端材料のほとんどは、電子、原子、ナノ、マイクロといった階層構造を理解し、それを的確に制御することで初めて発現する特異な機能を利用したものです。この構造と機能を関係づける物理を理解すること、そして自然環境との調和を最大限配慮した材料開発のために必要となる包括的な学問体系が材料工学です。材料工学専攻の修士課程では、材料工学の基礎及び応用分野における専門教育を行うとともに、研修や各種セミナー等に参加することを通じて幅広い知識の獲得と視野の拡大を図ります。さらに修士論文研究を通じて高い問題解決能力を有する研究者や高度技術者を育成します。

IX. その他

携行品

受験票、筆記用具（電卓の持込は不可）

教員・研究内容説明書

研究内容	区分
材料設計工学講座 材料設計工学分野 (1) 耐食・耐摩耗性能を有する多元系合金の湿式コーティング研究 (2) 陽極酸化による半導体材料表面への微細構造形成 (3) 合金や炭素からなる触媒の設計と表面処理への応用 (4) キラリティを有する金属ナノ材料の創製 (5) 金属や半導体の微細構造形成における自己組織化現象	第1
材料プロセス工学講座 表面処理工学分野 (1) 中温型燃料電池の実現に向けた固体電解質とその電極の探索 (2) リン酸塩における新しいプロトン伝導体の探索 (3) 高効率な新しいチタン製錬法の提案 (4) 材料の熱力学的解析と、それをベースにしたプロセス学 (5) 希土類、ニッケル、コバルトなどのレアメタルの製錬・リサイクルプロセス	第2

<u>材料プロセス工学講座 物質情報工学分野</u> (1) 硬質結晶性材料の塑性変形機構 (2) 原子分解能走査透過電子顕微鏡法 (3) 硬質結晶性材料を強化相として含む構造用金属材料の塑性変形機構 (4) マイクロスケール機械試験法を用いた変形機構解析 (5) ハイ/ミディアム・エントロピー合金の欠陥構造と力学特性	第 3
<u>材料プロセス工学講座 ナノ構造工学分野</u> (1) 多元系材料におけるバルク結晶成長 (2) 半導体材料における成膜プロセスの開発 (3) 化合物半導体における光物性 (4) 化合物太陽電池におけるデバイス構造の構築と高効率化 (5) 第一原理統計熱力学に基づく材料設計手法の開発	第 4
<u>先端材料物性学講座</u> (1) 走査トンネル顕微鏡による材料組織評価 (2) 表面・界面物性 (3) ナノスケール元素分析 (4) 新規ナノ計測手法の開発 (5) 走査トンネル顕微鏡を用いた表面反応機構の解明	第 5
<u>材料物性学講座 量子材料工学分野</u> (1) 計算科学に基づいた新材料と機能の探索 (2) ワイドギャップ半導体の材料設計と開発 (3) 次世代エネルギー変換・貯蔵材料の設計と開発 (4) 第一原理計算からの熱統計力学計算手法の開発 (5) 第一原理計算に基づいた材料インフォマティクス	第 6
<u>材料物性学講座 結晶物性工学分野</u> (1) 結晶欠陥、転位と力学特性 (2) 次世代耐熱構造用金属間化合物の変形機構 (3) 先進電池材料における固体イオニクス界面の微細構造と電池特性 (4) エキゾチック化合物の水素吸蔵、熱電変換機能 (5) 結晶欠陥のナノスケール電子顕微鏡法	第 7
<u>材料物性学講座 構造物性工学分野</u> (1) ナノ組織制御による強度と延性・靱性を両立させた構造用金属材料の実現 (2) 巨大ひずみ加工など新規プロセスによるバルクナノメタルの創製 (3) バルクナノメタルの相変態・析出・再結晶挙動と力学特性の解明 (4) ヘテロ構造金属材料の変形挙動およびその力学特性発現機構の解明 (5) 金属材料の水素脆性の解明	第 8
<u>先端材料機能学講座</u> (1) 凝固・結晶成長機構の実証的解明と材料プロセスへの応用 (2) 外場を利用した材料プロセッシング原理の確立と組織制御への応用 (3) 放射光などを利用した材料構造・組織評価法の開発 (4) 非平衡複相材料における拡散相変態過程の解明と制御 (5) 軟X線領域におけるナノ構造評価手法の開発	第 9
<u>材料機能学講座 磁性物理学分野</u> (1) 電子相関が強い系での新たな量子現象・新たな機能の探索 (2) フラストレート系・ランダム系・低次元磁性体の物理 (3) スピン流の新たな物理の開拓 (4) 希土類元素を含まない新たな磁性材料の開発 (5) 中性子散乱・核磁気共鳴・メスバウア分光等による微視的磁性評価	第 10
<u>材料機能学講座 材質制御工学分野</u> (1) 酸化還元反応ならびに酸-塩基反応を用いる水溶液系薄膜形成とその熱力学 (2) 自然順応型イオン液体を溶媒とする表面修飾ならびに機能化技術の研究 (3) 電解採取や電解精製をはじめとする湿式非鉄製錬技術の高度化と高効率化 (4) 次世代電池をめざした高容量金属負極材料の設計と開発 (5) 多孔質電極の作製とその利用における微小空間の電気化学	第 11
<u>材料機能学講座 機能構築工学分野</u> (1) 液中原子間力顕微鏡法の開発 (2) 溶融金属/固体界面の原子スケール物理化学 (3) 原子間力顕微鏡による界面電気化学 (4) 液中ナノトライボロジー (5) 半導体表面処理・微細加工技術の開発	第 12

2025 年 8 月実施入試（夏入試）

電気系（電気工学専攻・電子工学専攻）

博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コース・融合工学コース）（5 年型）

修士課程教育プログラム

I. 専攻別試験区分および志望区分一覧

従来の修士課程と同じ修士課程教育プログラムと、博士後期課程を連携した博士課程前後期連携教育プログラム（5 年型：高度工学コースと融合工学コース）の試験区分を設ける。修士課程教育プログラムはさらに一般と留学生に区分する。合格者決定法はそれぞれの試験区分により異なる。各プログラムの志望区分を表 1 に示す。

表 1 各教育プログラムの志望区分一覧

専攻	志望区分	研究内容	対応する教育プログラム		
			連携教育プログラム (融合工学コース)	連携教育プログラム (高度工学コース)	修士課程教育 プログラム
電気工学専攻	1	先端電気システム論 (非線形システム、エネルギーシステム・モビリティ、制御応用・ロボット) 薄教授、グエン講師、持山助教	融合光・電子科学 創成分野 任意の志望区分 を選択することが できます。	光・電子理工学 任意の志望区分 を選択することが できます。	任意の志望区分 を選択すること ができます。
	2	自動制御工学 (制御工学、システム・制御理論、数値最適化手法、システム解析) 萩原教授、細江准教授			
	3	システム創成論 (システム理論の生体計測応用、波動イメージングと逆問題、生体システム信号処理、人体電波センシング) 阪本教授			
	4	生体機能工学 (マルチモーダル生体信号処理、統計的機械学習、生体磁気計測、脳機能イメージング、量子磁気センサ) 吉井教授、伊藤准教授、上田博助教			
	5	超伝導工学 (超伝導体の電磁現象、超伝導マグネットの電磁特性、超伝導の医療応用、超伝導のエネルギー応用) 雨宮教授、曾我部助教			
	6	電磁回路工学 (電気電子回路、電気電磁回路、エネルギー回路、機械学習による回路設計、ネットワーク数理) 久門准教授			
	7	電磁エネルギー工学 (電磁気学、マイクロ磁気学、電磁界解析、計算工学) 松尾教授、美船准教授			
	8	電波科学シミュレーション (電磁力学、プラズマ理工学、計算機シミュレーション、宇宙空間物理学) 海老原教授、謝講師			

電気工学専攻	9	宇宙電波工学 (宇宙電波工学、宇宙プラズマ理工学) 小嶋教授、栗田准教授、上田義助教	融合光・電子科学 創成分野 任意の志望区分 を選択することが できます。	光・電子理工 学 任意の志望区 分を選択する ことができま す。	任意の志望区 分を選択する ことができま す。
	10	マイクロ波エネルギー伝送 (マイクロ波工学、無線電力伝送、マイクロ波応 用工学) 篠原教授、三谷准教授			
	11	優しい地球環境を実現する先端電気機器工学 (電気機器、輸送機器、再生可能エネルギー、超 伝導機器) 中村教授†、寺尾准教授†			
電子工学専攻	12	集積機能工学 (超伝導・磁性物性、超伝導・磁性材料、超伝導 デバイス工学、テラヘルツ分光、極微真空電子 工学) 米澤教授、掛谷准教授、後藤准教授、 池田助教	融合光・電子科学 創成分野 任意の志望区分 を選択すること ができます。	光・電子理工学 任意の志望区分 を選択すること ができます。	任意の志望区 分を選択する ことができま す。
	13	極微電子工学 (量子スピントロニクス、純スピン流デバイス物 性、トポロジカル物性物理) 白石教授、ブエブラ准教授、大島助教			
	14	応用量子物性 (光量子情報、ナノフォトニクス、光量子計測) 竹内教授、岡本准教授、向井助教			
	15	半導体物性工学 (半導体工学、電子材料、エネルギー変換素子、 電子デバイス工学) 木本教授、金子助教			
	16	電子材料物性工学 (電子材料物性、プローブ顕微鏡、ナノエレクト ロニクス、有機・バイオエレクトロニクス) 小林准教授			
	17	光材料物性工学 (光電子材料、光物性工学、光応用工学) 船戸教授†、正直講師、石井助教、 松田助教†			
	18	光量子電子工学 (固体電子工学、光電子工学、光量子電子工学) 浅野教授†、吉田助教			
	19	量子電磁工学 (電磁波工学、メタマテリアル、テラヘルツ工 学、量子エレクトロニクス) 杉山准教授、中西講師			
	20	ナノプロセス工学 (ナノ構造物理、デバイスプロセス工学、新機能 デバイス工学) デゾイメーカ教授、井上助教			

†・・・特定教員

入学後に履修する教育プログラムを、修士課程教育プログラム（2年）と博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コースおよび融合工学コース）（5年）の試験区分から願書提出時に選択して下さい。

II. 募集人員

電気系（電気工学・電子工学）修士課程教育プログラム（一般）・博士課程前後期連携教育プログラムあわせて合計 73 名（うち、博士課程前後期連携教育プログラムは 20 名以内とする）、修士課程教育プログラム（留学生）は若干名。

III. 出願資格

募集要項 Part A: II - i 出願資格に記載の条件を満たす者。さらに、修士課程教育プログラム（留学生）への出願は、外国の国籍を持ち、在留資格「留学」を有する、又は入学時に「留学」を取得できる見込みであることも条件とする。

博士課程前後期連携教育プログラム志願者は、以上の他に、項目 V.(2) の出願資格審査に合格する必要がある。志願者は所定の書類を VI. に記載の要領で桂キャンパス A クラスター事務区教務掛（電気系）に提出すること。

なお、留学生のうちで、京都大学工学部電気電子工学科出身（卒業見込者を含む）以外のものについては、志望研究室申告票で第一位に志望する予定の研究室に必ず事前に連絡をとり、指導希望教員に出願の許可を得ることを必須とする。

IV. 学力検査日程

(1) 修士課程教育プログラム（一般、留学生とも）

月 日	時 間	試験科目
8 月 2 日（土）	9:00～12:00	専門基礎 a
	13:30～16:00	専門基礎 b
8 月 3 日（日）	13:00～	面接（留学生のみ）

* 試験場は桂キャンパス A クラスターである。詳細は受験票送付時に通知する。

(2) 博士課程前後期連携教育プログラム（5 年型：高度工学コースおよび融合工学コース）

(a) 第一次出願資格審査

5 月 16 日（金）～ 5 月 23 日（金） のいずれか一日	9:00～18:00 の間のいずれかの 時間帯（約 60 分）	第一次口頭試問
--	------------------------------------	---------

* 試験場は桂キャンパス A クラスターである。

* 志願者には口頭試問に関する場所・時間の詳細を郵便その他の方法で通知する。

* 第一次出願資格審査の結果は 5 月 26 日(月)までに通知する。第一次出願資格審査に合格した志願者は第二次出願資格審査を受けること。

* 京都大学工学部電気電子工学科を卒業見込み、あるいは卒業した者は、第一次出願資格審査を免除される。

(b) 第二次出願資格審査

5 月 30 日（金）～ 6 月 4 日（水） のいずれか一日	9:00～18:00 の間のいずれかの 時間帯（20 分）	第二次口頭試問
---------------------------------------	----------------------------------	---------

* 試験場は桂キャンパス A クラスターである。

* 志願者には口頭試問に関する場所・時間の詳細を郵便その他の方法で通知する。

* 第二次出願資格審査結果の通知と願書の提出

出願資格審査結果は 6 月 6 日(金)までに通知する。出願資格審査に合格した志願者は入学願書を所定の期間に提出すること。出願期間末日(6 月 11 日(水))まで十分時間がないので注意すること。

(c) 面接

8 月 3 日（日）	9:00～18:00 の間のいずれかの 時間帯（約 10 分）	面接
------------	------------------------------------	----

* 試験場は桂キャンパス A クラスターである。詳細は受験票送付時に通知する。

V. 入学試験詳細

(1) 修士課程教育プログラム（一般、留学生とも）の試験科目

英語 配点 120 点

筆記試験は行わず、TOEFL 等の成績で代用する。提出方法については、項目 VI.1.(b)を参照。提出がない場合は英語の得点が 0 点となる。

専門基礎 a 配点 400 点

数学 1*、数学 2*

電磁気学 1（静電界、静磁界、電磁誘導）

電気回路（交流回路、分布定数回路、過渡現象）

物性基礎（量子力学の基礎、統計力学の基礎、固体物理の基礎）

の計 5 題から 4 題選択する。

* 数学 1、数学 2 は、微積分（一変数関数の微積分、多変数関数の微積分）、常微分方程式、線形代数（行列と連立一次方程式、ベクトル空間、行列の固有値と対角化）、複素関数論、フーリエ解析の範囲から 2 題を出題

専門基礎 b 配点 300 点

電磁気学 2（荷電粒子の運動、マクスウェルの方程式と電磁波）

電子回路（アナログ電子回路の基礎）

自動制御（連続時間システムの古典制御理論）

半導体・固体電子工学（半導体、固体電子物性・デバイス）

の計 4 題から 3 題選択する。

(2) 博士課程前後期連携教育プログラムの試験詳細

第一次出願資格審査、第二次出願資格審査、および面接により可否を判定する。

第一次出願資格審査

電気電子工学分野（数学および物理を含む）の基礎学力に関する口頭試問（約 60 分）を行う。京都大学工学部電気電子工学科を卒業見込み、あるいは卒業した者は、第一次出願資格審査を免除される。

第二次出願資格審査

志望する連携教育プログラム（5 年型）における研究計画に関する口頭試問を行い、これに学部の成績を考慮して資格審査を行う。この口頭試問（8 分説明 12 分試問）では、説明用資料（パワーポイントのスライドなどで 5 ページ以内、A4 用紙 5 枚以内に印刷できるもの）を用意し、持参したパソコンを用いて説明すること。

面接

専攻長が、研究の進捗状況などについて面接を行う。

(3) 有資格者決定法および志望区分への配属

1. 修士課程教育プログラム

専門基礎に関する筆記試験と英語(TOEFL 等)の成績により決定する。総得点(820 点満点)が 410 点以上の者を有資格者とする。有資格者の中から一般・留学生の試験区分ごとに総得点に応じて合格者を決定する。

筆記試験の注意事項

- ・試験中に使用を許可するのは、鉛筆、シャープペンシル（ボールペンは不可）、鉛筆削り（電動式を除く）、消しゴム、時計（時計機能のみのもの。スマートウォッチは使用不可）、眼鏡に限る。
- ・電卓、辞書、定規およびこれに類するものの持ち込みは認めない。

- ・携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等の電子機器類は、なるべく持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、カバンにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為とみなされる場合があるので注意すること。
- ・試験当日は、試験開始 40 分前までに指定された試験室前に集合すること。なお、試験開始時刻から 30 分以降は入室できない。
- ・試験室については、受験票送付時に通知する。

2. 博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コースおよび融合工学コース）

第一次出願資格審査、第二次出願資格審査および面接により決定する。博士課程前後期連携教育プログラム志願者は出願資格審査申込書をVI.2.に記載の受理期間中に提出し、出願資格審査を受けること。出願資格審査には指導予定教員の推薦（受入承諾書）と学部成績証明書が必要である。指導予定教員より受入承諾書を交付してもらう際には、事前に十分面談を重ねること。受入承諾書のない出願資格審査申込書は受理しない。出願資格審査に合格した志願者は工学研究科に出願手続きをし、面接を受けること（志望区分への配属は内々定となる）。正式な合格通知は募集要項 Part A: V 記載の日時に行う。出願資格審査に合格しなかった受験者は修士課程教育プログラム志望で出願することができる。

VI. 出願要領

1. 修士課程教育プログラム

工学研究科に提出する出願書類の他に、以下の書類を提出すること。入学願書とは提出先が異なるので注意されたい（様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること）。

- (a) 指導希望教員承諾書（京都大学工学部電気電子工学科出身（卒業見込者を含む）以外の留学生のみ）

6月11日(水)16時必着(厳守)。郵送の場合は「書留」又は「簡易書留」とすること。※学内便不可
次頁 3. の別途書類提出先に提出すること(期限内必着)。

- (b) TOEFL 等の成績証明書の提出

TOEFL-iBT のみを有効とする。なお、留学生についてはIELTSも可とする。

- ・ TOEFL-iBTの成績証明書(Test Taker Score Report)の原本（コピーや受験者自身で印刷したものは不可）（オンラインでのテスト申込時にETSアカウントのスコア通知設定（Score reporting Preference）ページで「オンライン上でのスコアレポートと郵送されたコピー」を選択しないと発行・送付されないの注意のこと。**なお、Test Date scoresのみを利用し、MyBest™ scoresは利用しない。また、TOEFL iBT Home Editionのスコアは認めないので、注意すること。**）

団体受験のTOEFL-ITPの成績証明書は受け付けないので、注意すること。

- ・ IELTSの場合はAcademic Moduleのみを有効とし、成績証明書（Test Report Form）の原本のみ受け付ける。

いずれか（ただし、受験日（2025年8月2日）から過去2年以内に受験した成績証明書に限る。）を次頁 3. の別途書類提出先に提出すること（提出後の変更は認めない）。**また、英語を母国語とする受験者も TOEFL等の成績証明書の提出を必要とする。**

提出は、**7月18日(金)16時必着(厳守)**。郵送の場合は「書留」又は「簡易書留」とすること。

提出された TOEFL 等の成績証明書は、筆記試験終了後に返却する。

- (c) 志望区分の申請

「志望研究室申告票」（様式 1）に志望順位を記入し、次頁 3. に記載する別途書類提出先に提出すること。IX. の「教員・研究内容一覧」を参照して申請すること。

留学生：**6月11日(水)16時(必着)**（受験番号の記載は不要）

留学生以外：**(b)の提出期限まで(必着)**（受験番号の記載は不要）**※TOEFL等と同時に提出すること。**

2. 博士課程前後期連携教育プログラム

工学研究科に提出する出願書類の他に、以下の書類を提出すること。入学願書とは提出期間および提出先が異なるので注意されたい（様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること）。

(1) 出願資格審査のための提出書類

(a)出願資格審査申込書（様式2）

(b)受入承諾書（様式3）

(c)学部成績証明書（工学研究科に提出する出願書類とは別に用意すること。本学工学部電気電子工学科卒業あるいは卒業見込みの者は必要ない。）

(d)研究計画説明書（様式4）

(e)TOEFL 等の成績証明書

前頁のVI. 1. (b)の箇所に記載のものを提出すること。

博士課程前後期連携教育プログラムの志望者は、以上の書類（(a)-(d)）を出願資格審査受理期間 **2025 年 5 月 7 日（水）から 2025 年 5 月 9 日（金）16 時（厳守）** までの間に、次項 3. に記載する提出先に提出すること。郵送の場合は「書留」又は「簡易書留」便とすること(期限内必着)。

書類（e）については、**2025 年 5 月 28 日（水）** までに同じ提出先に提出すること。万一、期日までに TOEFL 等の成績証明書の原本を提出できない場合は、Web 上で閲覧できる成績をプリントアウトしたものを期日までに提出し、それと同一受験の成績証明書原本を、VI.1. (b) に記載する修士課程教育プログラムの TOEFL 等の成績証明書提出期限までに、下記の別途書類提出先宛へ提出すること。

第一次出願資格審査のための口頭試問の時間および場所は 5 月 13 日（火）までに本人に連絡する。

(2) 志望研究室申告票（様式1）

「志望研究室申告票」（様式1）に志望研究室を記入し、次項 3. に記載する別途書類提出先に（1）の提出期限までに提出すること。

3. 問い合わせ先・別途書類提出先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学桂キャンパス A クラスター事務区教務掛(電気系)

電話 075-383-2077

E-mail : 090kakyomudenki@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

(メールで問い合わせる場合、電気系志望と記述すること)

HP: <https://www.ee.t.kyoto-u.ac.jp/>

Ⅶ. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には3種類の教育プログラムが準備されている。入試区分「電気・電子工学専攻」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記の通りである。

- (a) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（融合光・電子科学創成分野）
- (b) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（光・電子理工学）
- (c) 修士課程教育プログラム（電気工学専攻・電子工学専攻）

いずれのプログラムを履修するかは、受験者の志望に応じて決定する（Ⅴ. (3) 参照）。

詳細については、「Ⅰ. 専攻別試験区分および志望区分一覧」を参照のこと。また、教育プログラムの内容については、工学研究科 HP（「工学研究科教育プログラム」 <https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>）および、次項の「Ⅷ. 教育プログラムの内容について」をそれぞれ参照すること。

なお、(a)、(b)の連携教育プログラム志望にあたっては、志望区分の指導予定教員の承諾を得る必要がある。教員が不明の場合やその他不明なことがあれば、「Ⅵ. 3 の問い合わせ先」に連絡すること。

Ⅷ. 教育プログラムの内容について

【融合工学コース(融合光・電子科学創成分野)】

21 世紀においては全世界規模で情報処理量とエネルギー消費が爆発的に増大し、既存の材料・概念で構成されるハードウェアの性能限界と地球資源の枯渇が顕著になると予測されています。このような課題の解決に貢献し、光・電子科学分野で世界を先導するためには、電気エネルギー・システム工学、電子工学、量子物性工学、材料科学、化学工学、光機能工学、集積システム工学、量子物理工学など複数の異分野を融合して新しい学術分野を開拓し、かつ当該分野を牽引する若手研究者、高度技術者を育成することが重要です。

本教育プログラムでは、光・電子科学に関わる融合領域を開拓する教育研究を通じて、新しい学術分野における高い専門的知識・能力に加えて、既存の物理限界を超える概念・機能を創出する革新的創造性を備えた人材の育成を目指します。究極的な光子制御による新機能光学素子や高効率固体照明の実現、極限的な電子制御による耐環境素子や超集積システムの実現、光・スピン・イオンを用いた新機能素子や新規プロセスの開発、強相関電子系物質や分子ナノ物質の創成と物性制御、高密度エネルギーシステムの制御とその基礎理論、新しい物理現象を用いたナノレベル計測とその学理探求などの融合分野において、常に世界を意識した教育研究を推進します。様々な分野で世界的に活躍する教員による基盤的および先端的な講義、各学生の目的に応じたテーラーメイドのカリキュラムやインターンシップ等を活用した教育、光・電子理工学教育研究センターの協力を得て行う先端的融合研究を通じて、広い視野と高い独創性、国際性、自立性を涵養し、光・電子科学分野を牽引する人材を育成します。

【高度工学コース(光・電子理工学)】

高度でインテリジェントな将来型情報通信社会を実現するために必要なハードウェア技術の基礎から最先端研究レベルまでの学習と、デバイスからシステムに至るまで、発展する電気電子フロンティア基盤科学技術の修得を通して、広範な科学知識とフレキシブルな創造性を備えた豊かな人材を育成します。このプログラムの推進する教育及び研究は、光においては、任意の波長、強度、方向の、発光及び受光を可能にして光を自在にあやつり、電子においては、これまでの概念を超えるデバイスや量子効果などを通して、光と電子を極限まで制御することとその理解を目的とします。フォトリソグラフィやワイドギャップ半導体、分子ナノデバイスや量子凝縮系デバイスなどの新規材料・デバイス創成、パワーデバイス、電子・光・イオンによる革新的ナノプロセス、集積システム、環境エネルギーシステムとその制御、量子生体計測など、世界でトップクラスの研究成果を挙げている分野で教育と研究を推進することにより、博士号取得の段階で、自立し、幅広い専門知識を有し、国際的に通用する一流の人材を育成します。

【修士課程教育プログラム】

本系専攻においては、電気エネルギー、電気電子システム、光・電子材料とデバイス、電子情報通信などの専門分野における基礎学問の発展と深化、ならびに学際フロンティアの拡充と展開による創造性豊かな工学技術を構築することを目的とした教育と研究を行います。具体的には、電気エネルギーの発生・伝送・変換、超伝導現象の諸応用、大規模シミュレーション、自動制御、量子生体計測や、エレクトロニクスとの深化と異分野融合による、超伝導材料、イオンプロセス技術と応用、半導体機能材料、有機ナノ電子物性、電子・光・スピン・量子状態の制御などに関する教育と研究により、基礎から先端技術までの知識を修得して、工学技術開発の基本を体得し、豊かで弾力ある創造性と幅広い視点ならびに意欲的な先進性を有する先端技術研究開発者を育成します。

IX. 教員・研究内容一覧

(電気工学専攻)

教 員 名	研 究 内 容	区 分
薄 教授 グエン講師 持山 助教	<u>先端電気システム論研究室</u> (1) 非線形・多自由度システムの理論とデータ駆動型工学 (2) ソフトウェア工学による複雑システムの制御 (3) エネルギーシステム・モビリティシステムの解析・制御・設計 (4) 環境適応型ロボット歩行、ベストエフォート型モータドライブ	第 1
萩原 教授 細江 准教授	<u>自動制御工学研究室</u> (1) 確率的なダイナミクスをもつ系の解析と制御 (2) ロバスト制御系の解析と設計 (3) 機械系等に対する制御理論の応用に関する実験的研究	第 2
阪本 教授	<u>システム創成論研究室</u> (1) システム理論の生体計測応用 (2) 波動イメージングと逆問題 (3) 生体システム信号処理 (4) 人体電波センシング	第 3
吉井 教授 伊藤 准教授 上田博 助教	<u>生体機能工学研究室</u> (1) 統計的マルチモーダル生体信号処理 (聴覚・視覚・脳) (2) 物理拘束付き確率モデル・深層学習 (3) 光量子磁気センサによる生体磁気計測 (4) MRI を用いたスピンロックシーケンスによる脳機能イメージング	第 4
雨宮 教授 曾我部助教	<u>超伝導工学研究室</u> (1) 超伝導体の電磁現象 (2) 超伝導マグネットの電磁特性 (3) 超伝導の医療応用 (4) 超伝導のエネルギー応用	第 5
久門 准教授	<u>電磁回路工学研究室</u> (1) 電磁現象を含む回路システムの基礎研究 (2) 高速高周波回路のモデル化とシステム信頼性に関する研究 (3) 機械学習を用いた回路設計とネットワークの数理 (4) 電力フローの設計・インタラクティブ制御・電力システムの診断	第 6
松尾 教授 美船 准教授	<u>電磁エネルギー工学研究室</u> (1) 電気電子機器に対するモデル縮約法の開発 (2) 磁性材料のマルチフィジクスモデリング (3) 高速高精度電磁界計算技術 (4) 電気電子機器/デバイス最適設計手法	第 7

海老原 教授 謝 講師 (生存圏研究所)	<u>電波科学シミュレーション研究室</u> (1) 計算機シミュレーションによる宇宙環境変動に関する研究 (2) 計算機シミュレーションを用いた非線形プラズマ波動現象の研究 (3) 宇宙-地球間の電磁氣的結合に関する研究	第 8
小嶋 教授 栗田 准教授 上田義 助教 (生存圏研究所)	<u>宇宙電波工学研究室</u> (1) 科学衛星観測による宇宙空間プラズマ環境の研究 (2) 科学衛星搭載観測機器の超小型化に関する研究 (3) 宇宙利用のためのナノ材料特性に関する研究	第 9
篠原 教授 三谷 准教授 (生存圏研究所)	<u>マイクロ波エネルギー伝送研究室</u> (1) 宇宙太陽発電所 SPS に関する研究 (2) マイクロ波を用いた無線電力伝送に関する研究 (3) マイクロ波を用いた新材料創生に関する研究	第 10
中村 教授† 寺尾 准教授† (寄附講座)	<u>優しい地球環境を実現する先端電気機器工学研究室</u> (1) 回転機を中心とする先端的電気機器の研究 (2) 輸送機器に関する研究 (3) 再生可能エネルギーの利用技術に関する研究 (4) 超伝導機器に関する研究	第 11

(電子工学専攻)

教 員 名	研 究 内 容	区 分
米澤 教授 掛谷 准教授 後藤 准教授 池田 助教	<u>集積機能工学研究室</u> (1) 超伝導体や磁性体の新規物質応答・機能性の研究 (超伝導グループ) (2) 新規物質機能性の次世代測定技術の開発 (超伝導グループ) (3) 高温超伝導体のジョセフソン効果とエレクトロニクス応用 (超伝導グループ) (4) 巨視的量子状態のテラヘルツ時間領域分光 (超伝導グループ) (5) 耐過酷環境極微真空デバイスおよび新奇顕微質量分析技術の開発 (真空電子グループ)	第 12
白石 教授 プエブラ准教授 大島 助教	<u>極微電子工学研究室</u> (1) 半導体量子スピントロニクスの研究 (2) 純スピン流物性物理の研究 (3) トポロジカル絶縁体/超伝導体・ワイル強磁性体などを用いた新奇な固体量子物性の研究 (4) 上記研究を基盤とした新機能デバイスや量子ハイブリッド系の創成と量子技術への発展	第 13
竹内 教授 岡本 准教授 向井 助教	<u>応用量子物性研究室</u> (1) 光量子コンピュータ・量子シミュレーターや集積光量子回路の実現に関する研究 (2) 光量子情報等への応用にむけた、極微光デバイスの実現に関する研究 (3) 光子のさまざまな量子もつれ状態の生成と制御に関する研究 (4) 量子光を用いた、高感度・高分解能の新規光計測に関する研究	第 14
木本 教授 金子 助教	<u>半導体物性工学研究室</u> (1) 低次元半導体ナノ構造の電子輸送とデバイス応用 (2) 抵抗変化不揮発性メモリの基礎研究 (3) ワイドギャップ半導体シリコンカーバイド (SiC) パワーデバイスと高温動作集積回路	第 15
小林 准教授	<u>電子材料物性工学研究室</u> (1) 走査型プローブ顕微鏡を用いた新規物性計測法の開発 (2) 電子材料のナノスケール構造・物性評価 (3) 有機薄膜デバイスの開発とその光・電子物性に関する研究 (4) バイオデバイス・センサの構築へ向けた生体分子の構造機能計測	第 16
船戸 教授† 正直 講師 石井 助教 松田 助教†	<u>光材料物性工学研究室</u> (1) 窒化物半導体を用いた可視・紫外域光源の開発に関する研究 (2) 半導体のナノ局在系光物性の解明と制御に関する研究 (3) 高い時間・空間分解能を有する分光マッピング技術に関する研究 (4) 任意の波長合成を可能とするテラレーメイド光源の開発と応用に関する研究	第 17

浅野 教授† 吉田 助教	光量子電子工学研究室 (1) フォトニック結晶を用いた高ビーム品質・高輝度半導体レーザーの開発と応用 (2) フォトニック結晶レーザーの高機能化 (ビーム偏向制御・短パルス化等) に関する研究 (3) 熱輻射制御による高効率光源およびエネルギー変換に関する研究 (4) 高 Q 値ナノ共振器と極微小光回路による自在な光子制御に関する研究 (5) ワイドギャップ半導体を用いた次世代フォトニック結晶の開発	第 18
杉山 准教授 中西 講師	量子電磁工学研究室 (1) 電磁メタマテリアルを用いたテラヘルツ波及びマイクロ波の制御 (2) メタマテリアルを用いた新しい物理現象の理論的提案 (3) テラヘルツ波の測定技術の開発	第 19
テラサイメナ 教授 井上 助教 (光・電子理工学教育研究センター)	ナノプロセス工学研究室 (1) ナノプロセス技術の深化に関する研究 (2) 熱制御に向けたナノ構造開発・評価 (3) フォトニックナノ構造レーザーの解析・作製・評価 (4) ナノ構造における電磁界シミュレーション	第 20

†・・・特定教員

創成化学専攻群（材料化学専攻，高分子化学専攻）

I. 専攻別志望区分

区分 番号	講座・分野／研究内容	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム		修士課程教育 プログラム
		融合工学コース	高度工学コース	
【材料化学専攻】 https://www.mc.t.kyoto-u.ac.jp/ja				
101	<u>機能材料設計学講座</u> 機能材料の設計、無機合成化学、無機材料の精密構造解析、物性化学	物質機能・変換 科学分野 総合医療工学 分野	材料化学 専攻の定 める教育 プログラ ムに従う	材料化学 専攻の定 める教育 プログラ ムに従う
102	<u>無機材料化学講座 無機構造化学分野</u> 無機構造化学、レーザー科学、アモルファス工学、機能性ナノ材料			
103	<u>無機材料化学講座 応用固体化学分野</u> 無機固体化学、強相関電子物性、磁気光学、プラズモニクス、メタ光学			
104	<u>有機材料化学講座 有機反応化学分野</u> 有機反応化学・有機合成・創薬化学・ケミカルバイオロジー			
105	<u>有機材料化学講座 天然物有機化学分野</u> 天然物有機化学、有機合成、有機金属、触媒反応、電子共有有機材料、 有機元素化学			
106	<u>有機材料化学講座 材料解析化学分野</u> 電気化学分析、ケミカルバイオロジー、生体分子化学、脳神経化学			
107	<u>高分子材料化学講座 高分子機能物性分野</u> 高分子レオロジー、ソフトマテリアルの物理化学、高分子力学物性、高 分子ゲル、高分子液晶材料、天然高分子材料			
108	<u>高分子材料化学講座 生体材料化学分野</u> 高分子材料化学、生物高分子材料、生体機能材料、バイオマテリアル			
109	<u>ナノマテリアル講座 ナノマテリアル分野</u> 今年度は募集しない			
【高分子化学専攻】 https://www.pc.t.kyoto-u.ac.jp/ja/				
401	<u>先端機能高分子講座</u> 今年度は募集しない	物質機能・変換 科学分野、 生命・医工融合 分野、 総合医療工学 分野	高分子化学 専攻の定 める教育 プログラ ムに従う	高分子化学 専攻の定 める教育 プログラ ムに従う
402	<u>高分子合成講座・機能高分子合成分野</u> 分子設計、機能性高分子、超分子ポリマー、自己集合、導電性高分子、 特異構造高分子、コロイド、自己修復材料、分子認識、刺激応答性、分 子マシン、ゲル、ソフトマテリアル			
403	<u>高分子合成講座・高分子生成論分野</u> 高分子合成、精密重合、リビング重合、ラジカル重合、カチオン重合、 機能性高分子、高分子精密合成、重合触媒設計、重合中間体の化学、配 列制御、環状高分子、両親媒性ランダムコポリマー			
404	<u>高分子合成講座・重合化学分野</u> 重合化学、有機合成化学、元素化学、無機高分子、ヘテロ原子含有共役 系高分子、有機－無機ハイブリッド材料、機能性高分子、環境応答性高 分子、生体関連高分子、分子環境計測、分子イメージング			

405	高分子合成講座・生体機能高分子分野 生体高分子の自己組織化と機能、バイオインスパイアード科学、バイオハイブリッド材料、環境応答材料、生体膜工学、タンパク質工学、ナノ粒子工学、ゲルマテリアル工学、人工細胞工学、DDS、再生医療			
区分 番号	講座・分野／研究内容	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム	修士課程教育プログラム	
		融合工学コース	高度工学コース	
406	高分子物性講座・高分子機能学分野 高分子ナノ構造、高分子光・電子物性、有機薄膜太陽電池、光化学、光物理学、高分子薄膜、電子移動、分光法	物質機能・変換 科学分野	高分子化学専攻の 定める教育 プログラムに 従う	高分子化学専攻の 定める教育 プログラムに 従う
407	高分子物性講座・高分子分子論分野 高分子溶液学、光・小角X線散乱法、粘度法を用いた高分子溶液の性質の解明、溶液中の孤立高分子、高分子鎖ダイナミクス、高分子集合体の分子論的理解			
408	高分子物性講座・基礎物理化学分野 高分子物性に関する理論・計算機シミュレーション・実験、高分子系の相転移、相転移ダイナミクス、高分子レオロジー、ゲルの物理化学、高分子の結晶化機構			
409	高分子設計講座・高分子物質科学分野 高分子構造、高分子固体物性、高分子高次構造解析と制御、高分子系の相転移のダイナミクス、中性子・X線・光散乱、光学・電子顕微鏡、ブロックコポリマーの誘導自己組織化、高分子結晶			
410	高分子設計講座・高分子材料設計分野 今年度は募集しない			
411	高分子設計講座・高分子制御合成分野 制御重合、精密高分子合成、リビング重合、ラジカル重合、ラジカル反応、環状π共役分子、有機合成化学、元素化学、機能性材料、ソフトマテリアル、高分子結晶			
412	医用高分子講座・生体材料科学分野 今年度は募集しない	生命・医工融合 分野、 物質機能・変換 科学分野、 総合医療工学 分野		
413	医用高分子講座・発生システム制御分野 再生医療、幹細胞工学、細胞生物学、発生生物学、多細胞動態、医療用デバイス			

II. 募集人員

創成化学専攻群（材料化学専攻，高分子化学専攻） 75 名

III. 出願資格

募集要項 Part A 「II - i 出願資格」参照

IV. 学力検査日程

(1) 試験日時※・試験科目

8月6日（水）	9：30～11：30 物理化学	12：45～14：45 有機化学	15：30～17：00 専門科目（選択）
8月7日（木）	9：00～ 口頭試問		

※試験日時は状況により変更される場合があります。

(2) 試験場

試験は桂キャンパス A クラスターで行う。詳細は後日通知する。

V. 入学試験詳細

[英語] 配点 200 点

TOEIC の成績で評価する。

TOEIC : TOEIC Listening & Reading Test の成績を 200 点満点に換算する。このため学力検査日 (8 月 6 日) から過去 2 年以内に受験した TOEIC「公開テスト」の成績表を提出すること。提出方法については下記項目を参照。

TOEIC の「IP (Institutional Program) テスト」の成績は受け付けない。条件を満たす TOEIC「公開テスト」の公式認定証 (Official Score Certificate) の原本、もしくは TOEIC のデジタル公式認定証 (Digital Official Score Certificate) を印刷したものを下記のどちらかで提出すること。提出がない場合及び忘れた場合は、英語の得点は 0 点となる。

1) 7 月 31 日 (木) の午前 9 時から午後 5 時の間に、A クラスター事務区教務掛へ提出する。

2) 第 1 番目の試験科目 (物理化学) の直前に試験室で提出する。

成績表は面接時に返却する。

TOEIC「公開テスト」は、年 10 回程度実施されている。詳細については、以下を参照のこと。なお、TOEIC「公開テスト」後にその認定証が発行されるまでに時間を要するので、試験日まで十分に余裕をもって TOEIC「公開テスト」を受験しておくこと。

◆TOEIC: (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会

Tel: 03-5521-6033、<http://www.iibc-global.org/toeic.html>

[物理化学] 配点 250 点

すべて必須問題。高分子物性を含む。

[有機化学] 配点 250 点

すべて必須問題。高分子合成を含む。

[専門科目] 配点 200 点

無機化学 (1 題)・分析化学 (1 題)・生化学 (1 題) の 3 題中から計 2 題選択。

試験室には必ず受験票を携帯し、係員の指示に従うこと。

(1) 学科試験

試験当日は開始 20 分前までに指定された試験室前に集合すること。試験開始時刻から 30 分経過した後は入室できない。また、試験開始後、当該科目の試験時間中は退室できない。なお、物理化学、専門科目の試験時には、受験者全員に関数電卓を貸し出す。携帯電話、スマートウォッチ等の電子機器類は、電源を切り、カバンにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なすので注意すること。

(2) 口頭試問

創成化学専攻群の受験生全員に対して第 1 志望の専攻で口頭試問を行う。8 月 7 日 (木) 午前 8 時 45 分までに受験票交付時に指示する面接控室に集合すること。面接控室で「連絡先届」用紙を配付するので、口頭試問後の連絡先を明記して控室の担当教員に提出すること。同届を提出しなかった場合、受験者の不利益になることがある。

(3) 有資格者及び合格者決定法

筆記試験及び口頭試問の結果に基づいて合否判定を行う。

VI. 出願要領

志望区分の申請

合格者の研究室配属は、「志望区分申告票」（様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること）により申告した志望区分番号に基づいて行う。下の記入方法(1)～(3)に留意して「志望区分申告票」に記入し、6月13日（金）午後5時までに下記の提出先に提出または送付（必着・書留便（簡易））すること。願書とは提出先が異なるので注意すること。

提出先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 A クラスター事務区教務掛

電話：075-383-2077

E-Mail：090kakyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

ホームページ：https://www.s-ic.t.kyoto-u.ac.jp/fro/ja/admission/top

記入方法

- (1) 「I.専攻別志望区分」を参照して、「志望区分申告票」の志望区分番号欄に志望順位1位から志望順位18位までの区分番号を記入すること。なお、「I.専攻別志望区分」に記載の各専攻ホームページは、さらに各講座・分野（研究室）のホームページにリンクされており、これから研究内容の詳細を参照できる。
- (2) 「志望区分申告票」には氏名を記入し、押印すること。
- (3) 区分番号の重複や空欄などの不備がないように注意すること。不備のある場合には、受験者の不利益になることがある。

京都大学工学部工業化学科以外の他大学・他学科を卒業見込みの留学生出願者について

京都大学工学部工業化学科以外の他大学・他学科を卒業見込み（あるいは卒業）の留学生は、志望区分申告票で志望順位1位とする講座・分野の教員に必ず事前連絡すること。また、外国の大学を卒業見込み（あるいは卒業）の場合は、志望区分申告票で志望順位1位とする講座・分野の教員と事前連絡をとる前に必ずアドミッション支援オフィス（Admissions Assistance Office/AAO）で手続きを行ってください。詳しくは、以下のホームページに掲載していますので、確認してください。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/international/students1/study1/graduate/graduateinfo/ku-aao/index.html/>

VII. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には6種類の教育プログラムが準備されている。入試区分「創成化学専攻群」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは、合格した専攻・分野に応じて決まり、下記の通りである。

- (1) 修士課程教育プログラム
- (2) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（材料化学専攻）
- (3) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（高分子化学専攻）
- (4) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（物質機能・変換科学分野）

- (5) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（生命・医工融合分野）
- (6) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（総合医療工学分野）

いずれのプログラムを履修するかは、受験者の志望と入試成績に応じて決定する。合格決定後の適切な時期に志望を調査するので、合格決定後の指示に従うこと。

詳細については、「Ⅰ．専攻別志望区分」を参照のこと。また、教育プログラムの内容については、工学研究科 HP (<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>) 及び、次項の「Ⅷ．教育プログラムの内容について」をそれぞれ参照すること。

Ⅷ．教育プログラムの内容について（高度工学コース・修士課程教育プログラム）

【高度工学コース】

(a) 材料化学専攻

科学技術にもとづく社会の高度発展にともない、新物質や新材料開発に対する要請がますます強くなっています。これは、先端化学が現在の生活及び産業基盤を支えていること、またその将来果すべき役割にますます期待が膨らんでいることにほかなりません。化学は、新物質を作る技術に加えて、物質を構成する分子の成り立ちや性質を調べ、物質特有の機能を探索する学問に変貌しつつあります。

材料化学専攻では、無機材料、有機材料、高分子材料を中心に、構造と性質を分子レベルで解明しながら、新機能をもつ材料を設計するとともに、その合成方法を確立することを目的として研究・教育を行っています。このような環境の下、無機材料化学、有機材料化学、及び高分子材料化学に及ぶ材料化学全般にわたる基礎的な知識を修得します。さらに、独創的な発想と明敏な洞察力により積極的に材料化学の新領域を切り拓く能力をもった化学者・化学技術者を育成します。

(b) 高分子化学専攻

高分子化学専攻は、高分子の基礎的科学（合成、反応、物性、構造、機能）に関する研究を行うとともに、高分子関連の新材料創出と新たな科学技術の開発を目指し、自然と調和した人類社会の発展に貢献することを使命としています。そのため、バイオ、医療、環境、エネルギー、情報、エレクトロニクス等に関わる分野を含めて、幅広い領域に展開しています。21世紀に入って高分子が活躍する分野はますます拡大し、社会における重要性も増大しています。そこで本専攻では、幅広く正確な専門知識の修得、実践的研究教育を通じた研究の企画、提案、遂行能力の養成、研究成果の論理的説明と国際社会に発信する能力の修得、これら三つの目標を設定して教育を行い、高分子を基盤とする先端科学技術領域において国際的に活躍できる独創的な研究能力と豊かな人間性を備えた研究者、技術者を養成します。

【修士課程教育プログラム】

(a) 材料化学専攻

科学技術にもとづく社会の高度発展にともない、新物質や新材料開発に対する要請がますます強くなっています。これは、先端化学が現在の生活及び産業基盤を支えていること、またその将来果すべき役割にますます期待が膨らんでいることにほかなりません。化学は、新物質を作る技術に加えて、物質を構成する分子の成り立ちや性質を調べ、物質特有の機能を探索する学問に変貌しつつあります。

材料化学専攻では、無機材料、有機材料、高分子材料を中心に、構造と性質を分子レベルで解明しながら、新機能をもつ材料を設計するとともに、その合成方法を確立することを目的として研究・教育を行っています。修士課程では、広く材料化学全般にわたる基礎的な知識を習得し、無機材料化学、有機材料化学、あるいは高分子材料化学の分

野で先端的な研究を進めることによって、化学工業をはじめとする産業界で研究開発に携る人材を育成すると同時に、博士後期課程に進学してさらに研究を深める人材を養成します。

(b) 高分子化学専攻

高分子は、現代生活を支える必需物質として、また先端科学技術を実現する機能材料として、幅広い領域に展開しており、今後も高分子が活躍する分野はますます拡大し、人間社会における重要性も増大するものと思われます。そこで、本専攻では、高分子化学をベースに先端領域での研究開発において活躍できる研究者・技術者の養成を行います。高分子の生成、反応、構造、物性、機能についての基礎的な専門知識に関する講義と実践的研究教育を通じて、高分子を基礎とする専門的知識、研究推進能力、学術的倫理性を備えた研究者、技術者を養成します。また、自ら行った研究を的確に位置づけ、その内容と成果を社会に発表できる能力を養成します。

Ⅸ. その他

試験当日受験票を忘れた受験生は速やかにAクラスター事務区教務掛へその旨を申し出ること。

問合せ先・連絡先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 A クラスター事務区教務掛

電話 075-383-2077

E-Mail : 090kakyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

ホームページ : <https://www.s-ic.t.kyoto-u.ac.jp/fro/ja/admission/top>

先端化学専攻群

(物質エネルギー化学専攻, 分子工学専攻, 合成・生物化学専攻)

I. 専攻別志望区分

物質エネルギー化学 : <https://www.eh.t.kyoto-u.ac.jp/ja>

区分	研究内容	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム		修士課程教育プログラム
		融合工学コース	高度工学コース	
201	エネルギー変換化学講座 無機固体化学、ユビキタス元素を用いた金属酸化物の設計と機能性開拓、環境に調和した低温反応法の開拓、次世代に繋がる超伝導材料、磁性体、誘電体などの新物質開発	物質機能・変換科学分野		
202	基礎エネルギー化学講座、工業電気化学分野 電気化学、リチウム電池や燃料電池の反応とその材料、界面における電子・イオンの移動、イオン導電性材料、ナノ材料の合成			
203	基礎エネルギー化学講座、機能性材料化学分野 界面科学、界面現象と界面構造形成、界面の分光化学的解析、油水2相系およびイオン液体をもちいる機能性柔軟界面の構築			
204	基礎物質化学講座、基礎炭化水素化学分野 有機活性種化学、均一系触媒有機合成反応の開発、マクロサイクル化合物の新合成法開発、光機能性集積芳香族化合物創製、腫瘍イメージング	物質機能・変換科学分野、総合医療工学分野	物質エネルギー化学専攻の定める教育プログラムに従う	物質エネルギー化学専攻の定める教育プログラムに従う
	基礎物質化学講座、励起物質化学分野 本区分は、今年度、募集は行わない。	物質機能・変換科学分野		
205	基礎物質化学講座、先端医工学分野 疾患特異的分子プローブ、および診断と治療を同時に実現するセラノスティックプローブの設計・合成・機能評価、均一系触媒を用いる機能性分子の原子効率的合成	物質機能・変換科学分野、生命・医工融合分野、総合医療工学分野		
206	触媒科学講座、触媒機能化学分野 太陽光エネルギー変換のための新規光触媒開発、環境汚染物質浄化のための光触媒・触媒開発、高効率有機資源変換のための新規触媒反応設計、新規手法による酸化物微粒子の合成と機能化	物質機能・変換科学分野		
207	触媒科学講座、触媒有機化学分野 新規遷移金属錯体触媒の開発、反応機構解明ならびに機能開拓、環境保全に資する高効率分子変換反応の開発			
208	触媒科学講座、触媒設計工学分野 燃料電池構成材料と電極反応、炭化水素からの水素製造触媒、環境浄化やエネルギー変換のための無機材料、機能性無機材料の物性評価			
209	物質変換科学講座、有機分子変換化学分野 新たな有機金属反応活性種の創出と新規機能性有機分子および超分子の創製による化学資源活用型の有機合成反応の開発			
210	物質変換科学講座、構造有機化学分野 開口フラレンを基盤としたパイ共役ナノカーボン分子の合成と機能開拓、ナノ空間に隔離された孤立単分子の実現と動的挙動解析、優れたキラル光学特性をもつらせん状芳香族化合物の設計と創製			
211	物質変換科学講座、遷移金属錯体化学分野 遷移金属クラスター錯体の設計・合成および反応性開拓、金属-硫黄タンパクの生物無機化学、エネルギー変換を志向した分子触媒の開発			
212	同位体利用化学講座 本区分は、今年度、募集は行わない。			
213	有機機能化学講座 新奇パイ共役分子の設計・合成法の開発および機能開拓、典型元素の特性を生かした機能性材料の創製、生命システムの解明と操作のための機能性分子ツールの創製			

区分	研究内容	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム		修士課程教育プログラム
		融合工学コース	高度工学コース	
301	<u>生体分子機能化学講座</u> 本区分は、今年度、募集は行わない。	物質機能・変換科学分野、生命・医工融合分野、総合医療工学分野		
302	<u>分子理論化学講座</u> 量子化学・統計力学理論の開発と応用、溶液、蛋白質など凝縮系・材料における化学反応・化学過程のダイナミクスと機構の解明			
303	<u>量子機能化学講座</u> 本区分は、今年度、募集は行わない。			
304	<u>応用反応化学講座 触媒反応化学分野</u> 元素戦略に基づく触媒開発の基礎化学、光触媒化学および環境触媒化学、酸化触媒、固体酸塩基触媒、触媒反応ダイナミクス、触媒物性と機能発現			
305	<u>応用反応化学講座 光有機化学分野</u> 人工光合成系の構築、有機太陽電池の開発、ナノカーボン材料の創製、典型元素の特性を活かした機能性有機材料の開発			
306	<u>応用反応化学講座 物性物理化学分野</u> 物性物理化学全般（光機能分子設計・物性計測・反応解析・活性過渡種）、機能分子設計～合成～評価、高分子物性、分子集合体物性、ナノ構造物性、過渡分光分析、電子物性評価、電子素子形成	物質機能・変換科学分野	分子工学専攻の定める教育プログラムに従う	分子工学専攻の定める教育プログラムに従う
307	<u>分子材料科学講座 量子物質科学分野</u> 無機スピン-フォトニクス材料の創製、ダイヤモンド中の発光中心、超高感度・超高分解能センサ、バイオイメーjing、量子情報素子、ダイヤモンド高品質化			
308	<u>分子材料科学講座 分子レオロジー分野</u> 本区分は、今年度、募集は行わない。			
309	<u>分子材料科学講座 有機分子材料分野</u> 有機デバイス（特に有機エレクトロルミネッセンスと有機太陽電池）の創製と基礎科学の構築、有機デバイス応用のための有機および高分子合成、固体NMRおよびDNP-NMRによる構造－有機デバイス機能相関の解明			
310	<u>分子材料科学講座 量子分子科学分野</u> 振電相互作用、機能性分子の理論設計、反応性指標			
311	<u>分子材料科学講座 細孔物理化学分野</u> 多孔質物質の水の浄化への応用、多孔質物質のガス分離への応用			

区分	研究内容	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム		修士課程教育プログラム
		融合工学コース	高度工学コース	
501	<u>有機設計学講座</u> 機能分子の合成化学、新規有機金属反応剤のデザイン及び創製、新規精密重合反応の開拓、新しい触媒的不斉反応システムの開拓、キラルらせん高分子の機能開拓	物質機能・変換科学分野、総合医療工学分野		
502	<u>合成化学講座 有機合成化学分野</u> 本区分は、今年度、募集は行わない。			
503	<u>合成化学講座 機能化学分野</u> 分子空間化学、超分子材料化学、超分子触媒の開拓、カーボン空間材料の創製、高分子リン光物質の創製			
504	<u>合成化学講座 物理有機化学分野</u> 物理有機化学、有機機能材料化学、有機ナノテクノロジー、超分子光化学、光応答分子システム、分子エレクトロニクス材料			
505	<u>合成化学講座 有機金属化学分野</u> 有機化学および有機金属化学における新現象の発見、社会的な要求に応える合成反応と機能性有機化合物の開発			
506	<u>生物化学講座 生物有機化学分野</u> 生物有機化学、機能性生命分子のデザインと創製、in vivo有機化学の開拓、超分子バイオマテリアル、ケミカルバイオロジー	物質機能・変換科学分野、生命・医工融合分野、総合医療工学分野	合成・生物化学専攻の定める教育プログラムに従う	合成・生物化学専攻の定める教育プログラムに従う
507	<u>生物化学講座 分子生物化学分野</u> 分子生理学、脳神経化学、分子医工学、創薬工学、ナノセンサーデバイス工学、生体イオン制御、細胞シグナリングとシミュレーション			
508	<u>生物化学講座 生体認識化学分野</u> 生化学、分子生物学、細胞生物学、脳神経生物学、がん生物学、細胞内シグナル伝達、生体金属イオン制御			
509	<u>生物化学講座 生物化学工学分野</u> 微生物ゲノムを基盤とした生物化学・生物工学、極限環境微生物の代謝生理、遺伝子工学、ゲノム工学、生体機能化学、合成生物学、システムズ生物学、生物進化学			
510	<u>反応生命化学講座 分子集合体化学分野</u> 固体分子化学、分子集積化学、錯体機能化学、イオン伝導・輸送体の合成化学、無機-有機複合系非晶質材料、超分子ソフトマテリアル、生体機能制御材料			

Ⅱ. 募集人員

先端化学専攻群（物質エネルギー化学、分子工学、合成・生物化学） 106 名

Ⅲ. 出願資格

募集要項 Part A 「Ⅱ－i 出願資格」参照

Ⅳ. 学力検査日程

(1) 試験日時・試験科目

8 月 6 日（水）	10：00～11：30 化学Ⅰ	13：00～16：00 化学Ⅱ
8 月 7 日（木）	9：00～ 口頭試問	

(2) 試験場

試験は桂キャンパス A クラスターで行う。詳細は後日通知する。

Ⅴ. 入学試験詳細

[英 語] 配点 200 点

筆記試験は行わず、TOEFL、TOEIC または IELTS の成績により評価。成績の提出方法その他については、下記の項目（2）英語の成績証明書・学力評価についてを参照のこと。

[化学Ⅰ] 配点 300 点

融合化学*・分析化学・生化学・化学工学から 2 問選択（各 150 点）。

[化学Ⅱ] 配点 550 点

物理化学（200 点）、有機化学（200 点）、無機化学（150 点）、すべて必須問題。

*融合化学は、有機化学・物理化学・無機化学の範囲からの出題とする。

(1) 学科試験

試験当日は開始 20 分前までに指定された試験室前に集合すること。試験開始時刻から 30 分経過した後は入室できない。また、試験開始後、当該科目の試験時間中は退出できない。なお、化学Ⅰ・化学Ⅱの試験時には、受験者全員に関数電卓を貸し出す。携帯電話、スマートウォッチ等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、カバンにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なしますので注意すること。

(2) 英語の成績証明書・学力評価について

- ・TOEFL、TOEIC、または IELTS の成績により評価する。
- ・TOEFL の受験者成績証明書（「Test Taker Score Report」）の ETS から紙媒体で送付された原本、IELTS の成績証明書（Test Report Form）原本または TOEIC の公式認定証（Official Score Certificate）（以下、成績証明書と略す）の成績により英語の学力を評価する。ただし、学力考査日（8 月 6 日）から過去 2 年以内に受験した成績証明書を提出すること。
- ・TOEFL の場合は TOEFL-iBT（internet-Based Test）、TOEFL iBT Home Edition を受け付ける。TOEFL の My Best Score は受け付けない。
- ・TOEIC の場合は TOEIC Listening & Reading 公開テストのみ受け付ける。TOEFL-ITP や TOEIC-IP などの団体試験の成績証明書は無効となるので注意されたい。なお、公式認定証（Official Score Certificate）の原本、もしくは TOEIC のデジタル公式認定証（Digital Official Score

Certificate) を印刷したものを提出すること。

- ・成績証明書は、試験集合時刻に試験室で提出する。提出がない場合及び忘れた場合は、英語の得点は 0 点になる。
- ・成績証明書は、後日 1 年の年限で、希望する者には返却する。
- ・TOEFL、TOEIC または IELTS 試験の受験から、その成績表が手元に届くまでに 1 ヶ月近くを要するので、試験日まで十分に余裕をもって受験しておくこと。

各試験の詳細についての問い合わせ先は、それぞれ下記の通り。

TOEFL : ETS Japan 合同会社・TOEFL[®]テスト日本事務局

TEL: 03-6204-9830、<https://www.toefl-ibt.jp/>

TOEIC : (一財) 国際ビジネスコミュニケーション協会

TEL: 03-5521-6033、<http://www.iibc-global.org/toEIC.html>

IELTS : (公財) 日本英語検定協会

IELTS 東京テストセンター TEL: 03-3266-6852

IELTS 大阪テストセンター TEL: 06-6455-6286 <http://www.eiken.or.jp/ielts/>

(3) 口頭試問

先端化学専攻群の受験生全員に対して口頭試問を行う。8 月 7 日 (木) 午前 8 時 45 分までに受験票交付時に指示する口頭試問控室に集合すること。口頭試問控室で「連絡先届」用紙を配付するので、口頭試問後の連絡先を明記して控室の担当教員に提出すること。同届を提出しなかった場合、受験者の不利益になることがある。

(4) 有資格者及び合格者決定法

筆記試験および口頭試問の結果に基づいて合否判定を行う。

VI. 出願要領

志望区分の申請

合格者の研究室配属は、「志望区分申告票」（様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること）により申告した志望区分番号に基づいて行う。下の記入方法(1)～(3)に留意して「志望区分申告票」に記入し、6月13日（金）午後5時までに下記の提出先に提出または送付（必着・書留便（簡易））すること。願書とは提出先が異なるので注意すること。

提出先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 A クラスター事務区教務掛

電話：075-383-2077

E-Mail：090kakyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

ホームページ：<https://www.s-ic.t.kyoto-u.ac.jp/fro/ja/admission/top>

記入方法

- (1) 「I.専攻別志望区分」を参照して、「志望区分申告票」の志望区分番号欄に志望順位 1 位から志望順位 29 位までの区分番号を記入すること。なお、「I.専攻別志望区分」に記載の各専攻ホームページは、さらに各講座・分野（研究室）のホームページにリンクされており、これから研究内容の詳細を参照できる。
- (2) 「志望区分申告票」には氏名を記入し、押印すること。
- (3) 区分番号の重複や空欄などの不備がないように注意すること。不備のある場合には、受験者の不利益になることがある。

VII. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には 9 種類の教育プログラムが準備されている。入試区分「先端化学専攻群」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記の通りである。

- (1) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（物質機能・変換科学分野）
- (2) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（生命・医工融合分野）
- (3) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（総合医療工学分野）
- (4) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（物質エネルギー化学専攻）
- (5) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（分子工学専攻）
- (6) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（合成・生物化学専攻）
- (7) 修士課程教育プログラム 物質エネルギー化学専攻
- (8) 修士課程教育プログラム 分子工学専攻
- (9) 修士課程教育プログラム 合成・生物化学専攻

いずれのプログラムを履修するかは、受験者の志望と入試成績に応じて決定する。合格決定後の適切な時期に志望を調査するので、合格決定後の指示に従うこと。

詳細については、「I. 専攻別志望区分」を参照のこと。また、教育プログラムの内容については、工学研究科 HP (<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>) 及び、次項の「VIII. 教育プログラムの内容について」をそれぞれ参照すること。

VIII. 教育プログラムの内容について（高度工学コース・修士課程教育プログラム）

【高度工学コース】

(a) 物質エネルギー化学専攻

21 世紀における人類の持続的発展を可能とするためには、科学技術の質的発展、とりわけ、最少の資源と最少のエネルギーを用い、環境への負荷を最小にして、高い付加価値を有する物質と質の良いエネルギーを得てこれを貯蔵する技術、資源の循環およびエネルギーの高効率利

用をはかる技術の創成が必要とされています。このためには、物質とエネルギーに関する新しい先端科学技術の開拓が不可欠であり、物質変換およびエネルギー変換を支える化学は、その中心に位置する学術領域です。物質エネルギー化学専攻では、この要請に応えるために、高度な学術研究の実践による学知の豊かな発展を通して人類の福祉に貢献すること、社会が求める人類と自然の共生のための新しい科学技術を創造し、それを担う人材を育成します。

このために、第一に、基礎化学の系統的な継承と学理の深化、第二にそれに基づいた創造性の高い応用化学の展開を通じて、上記の学術活動を行います。また、創造的で当該分野を質的に発展させる契機をもたらすスケールの大きな先端的研究、世界をリードする研究を目指すと共に、問題発見、課題設定、問題解決を自律的に行うことができ、かつ社会的倫理性の高い人材を継続的に育成することを目標としています。

(b) 分子工学専攻

分子工学専攻では物理化学的な見地に基づき、生体物質から、有機物質、高分子物質、さらに無機物質に至るまでの広範な物質群を対象として、分子科学、分子工学に関する基礎科学を追及すると共に、時代が必要とする先端技術の開拓をする事を目的として、研究・教育を行っています。博士課程では、豊かな総合性と国際性を有し、分子に対する本質的理解と広範な知識に基づいて独創的な研究・技術開発を推進する能力を有する化学者の育成を目的としています。また主体的に実験を計画、立案し、実験を行い、国際的に発信できるような高度な研究者・技術者を育成します。

(c) 合成・生物化学専攻

① 専攻における研究・教育の必要性

合成化学と生物化学は独自の発展を遂げてきましたが、近年両者のバリアは急速に狭まる状況にあります。合成化学と生物化学を基軸にした学際領域の研究と教育の推進は、現代社会における資源枯渇・環境負荷への対応、人類の幸福と自然との調和を目的とした中核的学問分野の開拓とそれを担う創造性豊かな人材の育成に必要です。

② 教育の目的

合成・生物化学専攻の高度工学コースにおいては、合成化学と生物化学を基軸とした総合精密科学の次代を担う人材を育成するとともに、健全な自然観・生命観の醸成と持続可能な社会の実現のための新産業基盤技術の創出に貢献する創造性豊かな人材を輩出することを目的としています。

③ 教育の到達目標

電子レベル／分子レベル／ナノレベル／マイクロレベル／バイオレベルでの電子状態／分子構造／反応／物性／機能／システムの発現と制御をそれぞれのレベルにおける最先端の方法論と理論を修得し、修士課程では十分な基礎専門学力に基づいた柔軟な思考力と高い問題解決能力を身につけ、博士課程では幅広い視野と豊かな創造力に基づいたリーダーとして社会に貢献できる研究者・技術者となることを目標としています。

【修士課程教育プログラム】

(a) 物質エネルギー化学専攻

21 世紀における人類の持続的発展のためには、最少の資源と最少のエネルギーを用い、環境への負荷を最小にして、高い付加価値を有する物質と質の良いエネルギーを得てこれを貯蔵する技術、資源の循環およびエネルギーの高効率利用をはかる技術の創成が必要とされています。このためには、物質とエネルギーに関する新しい先端科学技術の開拓が不可欠であり、物質変換およびエネルギー変換を支える化学は、その中心に位置する学術領域です。物質エネルギー化学専攻では、この要請に応えるために、高度な学術研究による学知の豊かな発展を通じて人類の福祉に貢献すること、社会が求める人類と自然の共生のための新しい科学技術を創造し、それを担う人材を育成することを目指しています。第一に学理の深化、第二にそれに基づいた創造性の高い応用化学の展開によって、課題設定、問題解決を自律的に行うことができ、かつ

社会的倫理性の高い人材を育成します。

(b) 分子工学専攻

化学は物質の変換を扱う学問であるとともに、物性を電子構造・分子の配列と相互作用などとの関連で論じ、新しい機能をもつ分子や材料の設計を行う学問としてますますその分野を広げつつあります。分子工学は、原子・分子・高分子などがかわる微視的現象を対象とする基礎学問を支柱として、原子・分子・高分子の相互作用を理論的、実験的に解明し、その成果を分子レベルで直接工学に応用する新しい学問領域であり、その重要性は化学の新しい展開の中で、強く認識されています。特にわが国では、分子工学による先端的技術の発展に大きな期待が寄せられています。新しい電子材料、分子生物学における機能性物質、高性能の有機・無機・高分子材料、高選択性触媒、エネルギー・情報関連材料などの開発などは、現在分子工学で対象とすべき重要な研究テーマです。

分子工学専攻は、分子論的視野に立ち、斬新な発想で基礎から応用への展開ができる研究者・技術者を育成します。

(c) 合成・生物化学専攻

① 専攻における研究・教育の必要性

21 世紀の科学と技術のあらゆる分野において、物質合成、変換とその制御の重要性が認識され、特に「環境」「エネルギー」「材料」「情報」「食品」「医療」などの分野において「化学」を基盤とした学際領域の開拓とそれを担う創造性豊かな人材の養成が必要とされています。

② 教育の目的

合成・生物化学専攻の修士課程教育プログラムにおいては、物質の構造・物性・反応を理解することにより、多彩な物質と機能を創りだす力および生命現象の物質的基盤を化学からのアプローチにより理解する力を培い、人類の繁栄と幸福、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育成することを目的とします。

③ 教育の到達目標

合成化学、生物化学及びそれらの融合分野の基礎から最先端にわたる教育と研究を通じ、有機化学・物理化学・錯体化学・生物化学の幅広い学術分野の知識と技術を修得し、柔軟な思考力と十分な専門基礎学力に基づいた斬新な視点からの課題設定・解決能力を身につけることを目標とします。

IX. その他

試験当日、受験票を忘れた受験生は速やかにAクラスター事務区教務掛にその旨を申し出ること。

問合せ先・連絡先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 A クラスター事務区教務掛

電 話：075-383-2077

E-Mail：090kakyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

参 照：https://www.s-ic.t.kyoto-u.ac.jp/fun/ja/admission/top

化学工学専攻

I. 志望区分

志望 区分	研 究 内 容	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム (融合工学コース)	連携教育プログラム (高度工学コース)	修士課程教育 プログラム
1	化学工学基礎講座 ソフトマター工学分野 複雑流体・ソフトマターの移動現象や非平衡プロセスに関する基礎的研究、特に、計算機シミュレーションを用いた高分子液体・コロイド分散系・ベシクル・細胞組織などに関する基礎研究	応用力学分野 物質機能・変換 科学分野	化学工学専攻 の定める教育 プログラムに 従う	化学工学専攻 の定める教育 プログラムに 従う
2	化学工学基礎講座 界面制御工学分野 界面制御工学、ナノ拘束空間工学、特に、分子やイオンのナノ細孔空間内特有の挙動と構造、吸着場や液膜場によるナノ粒子群の構造形成と制御、秩序相・固相発生過程の基礎研究	応用力学分野 物質機能・変換 科学分野		
3	化学工学基礎講座 反応工学分野 反応工学、材料反応工学、電気化学反応工学、特に、気相材料合成反応と燃料電池等の電気化学反応プロセスのモデリング、劣質炭素資源の新しい転換プロセスの開発、選択水素化触媒反応プロセスの開発	物質機能・変換 科学分野		
4	化学システム工学講座 分離工学分野 分離工学、吸着工学、乾燥工学、特に、電界、高周波電磁場、放電を利用した分離法・材料プロセスの開発、ナノ材料の合成・エネルギー分野への応用	物質機能・変換 科学分野		
5	化学システム工学講座 エネルギープロセス工学分野 エネルギープロセス工学、材料工学、電子工学、光工学、ナノテクノロジー、特に、自然・再生可能エネルギー生成、高効率エネルギー利用など、資源および環境問題の解決につながる技術の開発	応用力学分野 物質機能・変換 科学分野		
6	化学システム工学講座 材料プロセス工学分野 材料プロセス工学、特に微粒子、ファイバー、多孔質材料の創製、構造制御と機能発現、材料プロセス工学に基づいた新規食品の開発	物質機能・変換 科学分野		
7	化学システム工学講座 プロセスシステム工学分野 プロセスシンセシス、プロセスの最適設計・操作、プロセス制御・監視・データ解析、マイクロ化学プラントの最適設計・操作に関する研究	応用力学分野 物質機能・変換 科学分野		
8	化学システム工学講座 環境プロセス工学分野 環境プロセス工学、マイクロ化学操作論、環境反応工学、特に、バイオマスの新規転換法の開発、マイクロリアクターの開発と設計・操作論、生分解性プラスチックの分解挙動解析に関する研究	物質機能・変換 科学分野		
10	化学システム工学講座 環境安全工学分野 環境安全工学、低品位資源転換工学、特に廃棄物の安全で効率的な有効利用法の開発に関する研究、二酸化炭素の排出抑制のためのプロセス開発	物質機能・変換 科学分野		
11	化学工学基礎講座 動的界面化学分野 音や液流、磁場といった非平衡状態がもたらす界面現象についての研究、特に身近に存在する実在系の安定性を決定づける表面間力の制御。得られた知見に基づく様々な機能性薄膜の創成に関する研究	物質機能・変換 科学分野		
12	化学工学基礎講座 移動現象論分野 分子・エネルギー・情報の流れに関する移動現象論、特に、アクティブマターの運動と構造、分子モーターのエネルギー論、細胞と細胞組織の合成生物学など、自律的に流れを制御する新規材料の基礎研究	応用力学分野 物質機能・変換 科学分野		

詳しい研究内容については、ホームページ <http://www.ch.t.kyoto-u.ac.jp/ja> を参照

Ⅱ. 募集人員

化学工学専攻 34 名

Ⅲ. 出願資格

募集要項 PartA 「Ⅱ-i 出願資格」 参照

Ⅳ. 学力検査日程

	9 : 0 0	1 3 : 0 0	1 6 : 0 0
8 月 6 日 (水)	～ 1 1 : 3 0	～ 1 5 : 3 0	～ 1 8 : 0 0
	専門科目 1	専門科目 2	面接

Ⅴ. 入学試験詳細

(1) 科目、出題範囲

〔英語〕 配点 200 点

TOEIC Listening & Reading Testの成績を200点満点に換算する。このため学力検査日（8月6日）から過去2年以内に受験したTOEIC「公開テスト」の成績表を提出すること。提出方法については下記項目を参照。

TOEICの「IP (Institutional Program) テスト」の成績は受け付けない。条件を満たすTOEIC「公開テスト」の公式認定証 (Official Score Certificate) の原本、もしくはTOEICのデジタル公式認定証 (Digital Official Score Certificate) を印刷したものを提出すること。提出がない場合及び忘れた場合は、英語の該当部分の得点は0点となる。

【提出方法】

最初の試験科目（専門科目1）の直前に試験室にて提出すること。成績表は面接時に返却する。

TOEIC公開テストは、年10回程度実施されている。詳細については以下を参照のこと。なお、TOEICテスト試験日からテスト結果が手元に届くまで1ヶ月近くを要するので、試験日まで十分に余裕をもってTOEICテストを受験しておくこと。

◆TOEIC: (一財)国際ビジネスコミュニケーション協会・IIBC試験運営センター

Tel: 03-5521-6033, <https://www.iibc-global.org/toeic.html>

〔専門科目1〕 配点 400 点

移動現象（2題）、分離工学（2題）、粒子工学、プロセス制御（以上6題から4題選択）。ただし、移動現象の出題範囲は、流動、伝熱、拡散とし、分離工学の出題範囲は、ガス吸収、蒸留、吸着、乾燥、抽出とする。

〔専門科目2〕 配点 400 点

化学工学量論（熱力学含む）、基礎物理化学、基礎有機化学、化学工学数学、反応工学（2題）、プロセスシステム工学（以上7題から4題選択）。ただし、化学工学数学の出題範囲は、微分積分学、線形代数学、常微分方程式、ベクトル解析、複素解析、偏微分方程式とする。

専門科目1、専門科目2の試験は日本語による出題で、試験時に電卓を貸与する

(2) 有資格者及び合格者決定法

総得点500点以上を有資格者とする。ただし、問題の難易度に応じて有資格判定の基準点を調整することがある。有資格者の成績上位者から合格者を決定する。

VI. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には4種類の教育プログラムが準備されている。本専攻の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記の通りである。

- (a) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（応用力学分野）
- (b) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（物質機能・変換科学分野）
- (c) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（化学工学専攻）
- (d) 修士課程教育プログラム 化学工学専攻

いずれのプログラムを履修するかは、受験者の志望と入試成績に応じて決定する。合格決定後の適切な時期に志望を調査するので、合格決定後の指示に従うこと。

詳細については、「Ⅰ. 志望区分」を参照のこと。また、教育プログラムの内容については、ホームページ（<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>）及び、次項の「Ⅶ. 教育プログラムの内容について」をそれぞれ参照すること。

なお、入学後の研究室配属の希望調査も、教育プログラムの志望調査とあわせて、合格決定後におこなう。

Ⅶ. 教育プログラムの内容について（高度工学コース・修士課程教育プログラム）

【高度工学コース】

化学工学は、基礎科学の成果をより迅速に、かつ環境に配慮しながら生産活動や社会福祉として結実するための多様な要求に対応するための基盤工学です。高度工学コースでは、高度の教養と人格を備えた研究者・高級技術者として独立して活動するための実践的訓練を行うことにより、高度な専門知識と柔軟な思考力および豊かな想像力を修得させます。より具体的には、研究テーマの選定、研究の計画、実施、発表の過程を可能な限り自主的に進めさせるとともに、常に世界的に評価され得る創造的な研究を遂行するよう指導します。さらに、他専攻、他研究科、国外研究機関との共同研究の機会を積極的に与え、協調能力、提案能力、発表能力、国際性を身につけさせます。またTAのほか、学部の特別研究の指導などにも参加させ、研究指導者としての能力をも身につけさせます。これらを通じて、高度な研究遂行能力をもった国際的に活躍できる研究者、新たな化学工学の基盤を創製し得る研究者、さらには研究をマネジメントし得る指導者を育成します。

【修士課程教育プログラム】

化学工学は、基礎科学の成果をより迅速に、かつ環境に配慮しながら生産活動や社会福祉として結実するために、21世紀に求められている高度で複雑な機能性物質・材料の開発、エネルギー・環境と調和した各種生産装置・技術の開発などの多様な要求に対応できる基盤工学です。修士課程においては、この基盤工学の骨格を講義を通じて学ばせるとともに、世界最先端の研究に従事させることによってその真髄を習得させます。これらの教育・研究を実施する過程での、教員との議論、学生間の議論、教員・外部の技術者・他の学生との共同研究、学会での発表等を通じて、高級技術者としての意思疎通能力、協調能力、提案能力、発表能力、倫理観等を養わせます。さらに、TA(Teaching Assistant)などの形で教育補助を行わせ指導者としての要件を体得させます。これらの素養を備えた高級技術者を育成することによって、社会の発展に寄与します。

Ⅷ. その他

集合時間および集合場所について

試験当日は、試験開始 20 分前までに化学工学専攻試験場前に集合すること。試験場については後日通知する。

入退室について

試験開始時間から 30 分以降は入室できない。また、試験開始後、当該科目の試験時間中は退室できない。

面接について

化学工学専攻の受験者全員について面接を行うので、受験者は 8 月 6 日（水）専門科目 2 の終了後、15:50 までに面接控室（後日通知する）に集合すること。

電卓の貸出しについて

化学工学専攻の試験中に使用する電卓を、機能確認のために事前に貸出する。希望者は下記の時間帯に桂キャンパス A クラスター事務区教務掛に取りに来ること。

貸出時間帯 7 月 17 日（木）10:00～16:00

＊注意：電卓の機種・機能の確認後は、速やかに上記時間内に同事務室に返却のこと。

携帯電話について

携帯電話は必ず電源を切り、かばん等に入れ所定の場所に置くこと。試験中、携帯電話を時計として使用することも禁止する。試験中に携帯電話等の通信機器の所持が判明した場合は、不正行為と見なされる場合がある。なお、時計（通信機能のないものに限る）については各自で用意すること。

問合せ先・連絡先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 A クラスター事務区教務掛(化学工学担当)

電 話：075-383-2077

E-Mail：090kakyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

参 照：http://www.ch.t.kyoto-u.ac.jp/ja

入試区分／専攻別 別途提出書類様式

Designated Forms (for Each Department / Division)

京都大学大学院工学研究科 社会基盤・都市社会系
修士課程入学資格者選考試験

Entrance Examination for the Master's Program
Department of Civil and Earth Resources Engineering, and Department of Urban Management,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

選考方法及び英語成績証明書の提出に関する申請書

Application Form for Selection Method and Submission of English Official Score Report

受験番号
(記入しないこと)

For official use. Please do not fill in

1. 入学資格試験において、希望する選考方法一つに○印をつけること。

Enter “○” in one of the boxes below to select the selection procedure.

選考方法 Selection Procedure	選択 Choice
一般学力選考 General Academic Selection	
学科外別途選考 I 型 Special Selection of non-Civil, Environmental and Resources Engineering (non-Global Engineering)* Students Type I	
学科外別途選考 II 型 Special Selection of non-Civil, Environmental and Resources Engineering (non-Global Engineering)* Students Type II	
社会人別途選考 Special Selection of Career-Track Working Students	

* Undergraduate school of Global Engineering was renamed from April 1, 2022.

(一般学力選考または学科外別途選考 I 型による受験者のみ)

(Following is only for applicants who will take General Academic Selection or Special Selection of non-Civil, Environmental and Resources Students Type I)

希望する問題冊子の言語一つに○印をつけること。

Enter “○” in one of the boxes below to select the language for the subject test.

問題冊子の言語 Language	選択 Choice
日本語 Japanese	
英語 English	

※注 英語の問題冊子には「資源工学」は含まれない。

Question sheet in English does not contain “Earth Resources Engineering.”

(学科外別途選考 II 型・社会人別途選考による受験者のみ)

(Following is only for applicants who will take Special Selection of non-Civil, Environmental and Resources Engineering Students Type II or Career-Track Working Students.)

学力試験において希望する科目一つに○印をつけること。

Enter “○” in one of the blank spaces below to select the subject for the subject test.

- | | |
|---------------------------------|--|
| ☐ 数学 | Mathematics |
| ☐ 物理（力学） | Physics (Mechanics) |
| ☐ 構造力学 | Structural Mechanics |
| ☐ 水理学 | Hydraulics |
| ☐ 土質力学 | Soil Mechanics |
| ☐ 計画理論 | Systems Analysis for Planning and Management |
| ☐ 資源工学 | Earth Resources Engineering |

2. 提出する（あるいは期日までに提出予定の）成績証明書に○印をつけること。

Enter “○” in one of the blank spaces below to select the type of score report that you submit (or you are going to submit by the deadline).

- ☐ TOEFL-iBT (internet-Based Test)
☐ TOEIC (Listening & Reading Test)
☐ IELTS (Academic Module)

(1) TOEIC または IELTS 試験の成績証明書を提出する場合、該当する一つに○印をつけること。

Enter “○” in one of the blank spaces below to select the submission method of score report for TOEIC and IELTS.

☐ 成績証明書を本様式と同封して提出する。
Score report is submitted along with Form-M1.

☐ 成績証明書を 7 月 18 日（金）午後 4 時必着で提出する。
Score report will be sent by postal mail no later than 4:00PM on Friday, July 18

(2) TOEIC または IELTS 試験の成績証明書の返却について、該当する一つに○印をつけること。

Enter “○” in one of the blank spaces below to indicate preference regarding the return of the original score report for TOEIC and IELTS.

- ☐ 返却を希望する
Original score report needs to be returned to the applicant.
☐ 返却を希望しない
Original score report need NOT to be returned to the applicant.

日付 _____
Date

出願者氏名 _____
Name of Applicant

印 _____
Stamp or Signature

京都大学大学院工学研究科 社会基盤・都市社会系
修士課程入学資格者選考試験

Entrance Examination for the Master's Program
Department of Civil and Earth Resources Engineering, and Department of Urban Management,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

入学後の教育プログラム履修志望調書

Selection of Course Program

入学後に履修を希望する教育プログラム（１つのみ）に○を記入すること。

Enter “○” in one of the boxes below for course program you wish to pursue upon entering the Master's Program.

修士課程教育プログラム Master's Course Program	
	(1) 社会基盤工学専攻 または 都市社会工学専攻 Department of Civil and Earth Resources Engineering, or Department of Urban Management

博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース） Interdisciplinary Engineering Course Program	
	(2) 応用力学分野 Postgraduate Integrated Course Program of Applied Mechanics
	(3) 人間安全保障工学分野 Postgraduate Integrated Course Program of Human Security Engineering

博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コース） Advanced Engineering Course Program	
	(4) 社会基盤工学専攻 または 都市社会工学専攻 Department of Civil and Earth Resources Engineering, or Department of Urban Management

希望指導教員署名：

Signature of Supervisor

【注】 必ず、希望指導教員から署名をもらうこと。

【Note】 Please make sure to gain signature from whom you wish to receive supervision.

日付 _____ 出願者氏名 _____ 印
Date Name of Applicant Stamp or Signature

京都大学大学院工学研究科 社会基盤・都市社会系
修士課程入学資格者選考試験

Entrance Examination for the Master's Program
Department of Civil and Earth Resources Engineering, and Department of Urban Management,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

志望する指導教員調書

Preferred Study Area and Supervisor

志望区分および希望指導教員の氏名を記入すること。

Enter the number of area in which you wish to study and the name of supervisor from whom you wish to receive supervision.

第 1 志望区分番号 First choice study area number	希望指導教員名 Name of Supervisor

希望指導教員署名：

Signature of Supervisor

【注】必ず、希望指導教員から署名をもらうこと。

【Note】Please make sure to gain signature from whom you wish to receive supervision.

選考方法に○を記入すること Enter “○” in one of the blank spaces below.

	一般学力選考		General Academic Selection	
	学科外別途選考	I 型	Special Selection of non-Civil, Environmental and Resources Engineering Students	Type I
		II 型		Type II
	社会人別途選考		Special Selection of Career-Track Working Students	

(一般学力選考による受験者のみ)

以下の欄に、第 2 志望から第 10 志望区分まで記入できる。

(Following is only for applicants who are undergoing General Academic Selection.)

Enter the numbers of the study areas for your second to tenth choices below.

第 2 2nd	第 3 3rd	第 4 4th	第 5 5th	第 6 6th	第 7 7th	第 8 8th	第 9 9th	第 10 10th

日付 _____
Date

出願者氏名 _____
Name of Applicant

印 _____
Stamp or Signature

京都大学大学院工学研究科 社会基盤・都市社会系
修士課程入学資格者選考試験

Entrance Examination for the Master's Program
Department of Civil and Earth Resources Engineering, and Department of Urban Management,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

承 諾 書

Letter of Acceptance

京都大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻長・都市社会工学専攻長 殿

Dear Chairpersons of Department of Civil and Earth Resources Engineering, and Department of Urban Management, Graduate School of Engineering, Kyoto University

住所 :
Address

機関 :
Institution

氏名 :
Name

印
Stamp or Signature

私は、下記の者が、在職したまま京都大学大学院工学研究科に入学及び在学することを承諾します。
I consent to the following persons enrolling in Graduate School of Engineering, Kyoto University while still in office.

志願者氏名 : _____
Name of Applicant

京都大学大学院工学研究科 都市環境工学専攻 修士課程入学試験

選考方法及び受験科目申請書

1. 入学資格試験において、希望する選考方法一つに○印をつけること。

選考方法	選択
(1) 一般学力選考	
(2) 特別選考	

※ 京都大学工学部地球工学科環境工学コース（京都大学工学部衛生工学科を含む）を卒業見込みの者および同コース卒業後実務経験が2年未満の者は必ず（1）を選択すること。それ以外の志願者は、いずれを選択してもよいが、（2）を選択し、かつ数学と専門の両方を受験した者については、特別選考に不合格となった場合、一般学力選考と同じ配点にした上で、一般学力選考に組み入れられて再度合否判定が行われることに注意すること。また、特別選考では、筆記試験に加えて、小論文及び口頭試問が課されることに注意すること。

2. 上記1において（2）特別選考を選択した場合のみ、受験を希望する科目に○印を一つつけること。この申請書で選択しなかった科目は試験当日受験できないことに注意すること。

選択科目	選択
数学のみ	
専門のみ	
数学及び専門	

3. TOEFL、TOEIC または IELTS 試験の成績証明書の提出に関して、該当する一つに○印をつけること。

☐ 成績証明書を本様式と同封して提出する。

☐ 成績証明書は後日提出する。

4. 成績証明書について、該当する試験に○印をつけること。成績証明書は試験当日に返却します。

☐ TOEFL-iBT (internet-Based Test)

☐ TOEFL-PBT (Paper-Based Test)

☐ TOEIC

☐ IELTS

日付 _____

出願者氏名 _____

印

京都大学大学院工学研究科 都市環境工学専攻 修士課程入学試験

志望区分調書

志望する志望区分の番号を記入すること（I. 志望区分を参照のこと）。

志望順位	第1 志望	第2 志望	第3 志望	第4 志望	第5 志望	第6 志望	第7 志望	第8 志望	第9 志望	第10 志望
志望区分 番号										

日付 _____ 出願者氏名 _____ 印

年 月 日

建築学専攻長 殿

志願者

西暦 大学 学部 学科
年 月 (卒業・卒業見込)

氏名 _____
(記名捺印または自筆署名)

第一志望区分申告書

私は、
京都大学大学院工学研究科 修士課程建築学専攻に入学の上は、第一志望区分について下記のとおり
志望しますので申告致します。

記

志 望 区 分 _____

本志願者に対する修士論文の指導にあたることを承諾します。

第一志望区分担当教員 _____
(記名捺印または自筆署名)

【注】留学生で本学以外の大学を卒業した者または卒業見込みの者はこの申告書を提出すること。それ以外の者は提出不要である。

志望研究区分申告票

(様式1)

機械工学群(機械理工学専攻・マイクロエンジニアリング専攻・航空宇宙工学専攻)

受験番号						受験番号が届く前に提出する場合は、受験番号を記入しなくて良い。
氏名	Ⓜ (フリガナ:)					

志望順位	志望区分番号	専攻	区分	研究室
第1志望		機械理工学専攻	1	機械システム創成学研究室
第2志望			2	適応材料力学研究室
第3志望			3	固体力学研究室
第4志望			4	環境熱流体工学研究室
第5志望			5	熱システム工学研究室
第6志望			6	光工学研究室
第7志望			7	材料物性学研究室
第8志望			8	熱物理工学研究室
第9志望			9	機構運動工学研究室
第10志望			10	機械機能要素工学研究室
第11志望			11	先端システム理工学研究室
第12志望			12	粒子線材料工学研究室(複合原子力科学研究所)
第13志望			13	量子ビーム物質解析学研究室(複合原子力科学研究所)
第14志望		マイクロエンジニアリング専攻	14	構造材料強度学研究室
第15志望			15	マイクロバイオシステム研究室
第16志望			16	ナノ・マイクロシステム工学研究室
第17志望			17	ナノ物性工学研究室
第18志望			18	生命数理科学研究室
第19志望			19	マイクロ加工システム研究室
第20志望			20	精密計測加工工学研究室
第21志望			21	バイオメカニクス研究室(医生物学研究所)
第22志望			22	ナノ生物工学研究室(医生物学研究所)
第23志望		航空宇宙工学専攻	23	流体力学研究室
第24志望			24	流体数理学研究室
第25志望			25	推進工学研究室
第26志望			26	制御工学研究室
第27志望			27	機能構造力学研究室

- ※記入上の注意
- 1.黒のボールペンを使用し,楷書で丁寧に記入のこと
 - 2.氏名欄は自筆署名押印のこと
 - 3.修正する場合は二重線で消し,訂正印を押印のうえ,正しく書き直すこと
 - 4.第1志望欄から第27志望欄のすべてを記入のうえ,重複していないか確認のこと

受付日

(様式 2)

京都大学大学院工学研究科 機械工学群 修士課程入学資格者選抜試験

受入推薦書

受験生氏名 _____

日付 年 月 日

指導予定教員

氏名 _____ 印

専攻名 ()

志望研究区分番号 ()

(様式3)

京都大学大学院工学研究科 機械工学群 修士課程入学資格者選抜試験
希望研究コース・区分・分野等調査票（特別選考）

氏名 _____ 印

(1) 希望する研究内容の区分番号（1～27）を希望するコースの対応する欄に記入すること。

融合工学コースを希望する場合は、分野名を（ ）内に必ず記入すること。

前後期連携教育プログラムのコース	志望区分番号
高度工学コース	
融合工学コース () 分野	

(2) 入学資格試験における特別選考の予備選考に関して、希望する選考方法一つに○印を付けること。

選考方法	選択
予備選考を不合格の場合には一般選考を受験する	
予備選考を不合格の場合には一般選考を受験しない	

(3) 希望する分野・研究区分を選んだ理由（500字程度）

(裏面にも記入のこと)

(様式3裏面)

(4) 大学院での研究構想（目標、動機、方法、等）（500字程度）

(様式4)

京都大学大学院工学研究科 機械工学群 修士課程入学資格者選抜試験

英語を母国語とする旨の宣誓書

入試委員長 殿

私は英語を母国語とすることをここに宣誓いたします。

年 月 日

国籍 _____

氏名 _____

年 月 日 生

サイン _____

京都大学大学院工学研究科 機械工学群 修士課程入学資格者選抜試験

教育プログラム志望調書（一般選考）

1. 履修する教育プログラムを記入すること。

選択欄	履修を志望する教育プログラム
()	修士課程
()	前後期連携（高度工学コース）
()	前後期連携（融合工学コース） () 分野

- ・ 希望する教育プログラムを1つ選び、選択欄に○をつけること。
- ・ 前後期連携（融合工学コース）を希望する場合は、分野名を教育プログラム欄の（ ）内に必ず記入すること。

日付 _____ 氏名 _____ 印

2. 博士課程前後期連携教育プログラムを履修志望する場合には、コースに関わらず、指導予定教員から、必ず受入承諾を得ること。（修士課程を選択した場合は不要）

受 入 承 諾

学生氏名 _____

博士課程前後期連携教育プログラムとして、上記学生の研究室受入を承諾いたします。

日 付 _____

専攻名 _____

（指導予定教員）

職・氏名 _____ 印

京都大学大学院工学研究科
機械工学群
修士課程入学試験

志望する指導教員調書

志望する指導教員の氏名を記入し、確認印をもらうこと。

指導教員氏名	印
--------	---

希望研究題目

日付 _____ 出願者氏名 _____

京都大学大学院工学研究科 原子核工学専攻 修士課程入学試験

専門試験の一部免除申請

原子核工学専攻長 殿

専門試験の一部免除を申請するため、国家資格やこれに準ずる資格、特筆すべき業績および実務経験を証明する書類を同封します。

同封の書類名：_____

年 月 日

氏 名 _____

印または署名 _____

(様式 原M-02)

京都大学大学院工学研究科 原子核工学専攻 修士課程入学試験

口頭試問用提出書類

(連携教育プログラムを志望した受験生のみ)

受験番号	
------	--

氏 名	
-----	--

指導予定教員名	
---------	--

連携教育プログラムを志望した理由 (500 字程度)

(連携教育プログラムの口頭試問のための資料とする。ワープロ等で作成したものを貼り付けてもよい。)

--

(様式 1)

特別選考希望申告書

(京都大学大学院工学研究科修士課程 材料工学専攻入学資格者用)

年 月 日

(ふりがな)

(1) 受験者氏名：

(2) 現在の所属：

(3) 希望理由

① 材料工学専攻を志望する理由

② 特別選考で受験する理由

③ 入学後の抱負

以上

(様式 1)

特別選考希望申告書

(京都大学大学院工学研究科修士課程 材料工学専攻入学資格者用)

年 月 日

(ふりがな)

(1) 受験者氏名：

(2) 現在の所属：

(3) 希望理由

① 材料工学専攻を志望する理由

② 特別選考で受験する理由

③ 入学後の抱負

以上

2025 年 8 月実施入試(夏入試)

(様式 1)

志望研究室申告票(京都大学大学院工学研究科電気系専攻)

博士課程前後期連携教育プログラム および 修士課程教育プログラム

- ・ 修士課程教育プログラム合格者の研究室配属の決定はこの申告票に基づいて行う。IX.の「教員・研究内容一覧」を参照して、配属を志望する研究分野に順位を記入すること。
- ・ 修士課程教育プログラム志願者は全ての研究室に順位をつけること。（ただし、留学生は、第一志望の研究室に○印を記入すること。）順位の重複・空欄があるなどの不備がないように注意すること。不備がある場合には、電気系専攻において、適宜、修正・付加を行う。
- ・ 博士課程前後期連携教育プログラムを志願する者は、下の「博士課程前後期連携教育プログラム志望研究室」欄に受入を承諾された研究室に○印を記入すること。

試験区分 (いずれかを○で囲む)	博士課程前後期連携教育プログラム・融合工学コース (融合光・電子科学創成分野)	博士課程前後期連携教育プログラム・高度工学コース (光・電子理工学)	修士課程教育プログラム	
志 望 区 分	(博士課程前後期連携教育プログラム志願者は希望分野の欄に○を記入、修士課程教育プログラム志願者は全ての研究室に順位を数字で記入すること(ただし、留学生は、第一志望の研究室に○印を記入すること。))		博士課程前後期連携教育プログラム志望研究室	修士課程教育プログラム志望順位
第 1	先端電気システム論研究室(薄研)			
第 2	自動制御工学研究室(萩原研)			
第 3	システム創成論研究室(阪本研)			
第 4	生体機能工学研究室(吉井研)			
第 5	超伝導工学研究室(雨宮研)			
第 6	電磁回路工学研究室			
第 7	電磁エネルギー工学研究室(松尾研)			
第 8	電波科学シミュレーション研究室(海老原研)			
第 9	宇宙電波工学研究室(小嶋研)			
第 10	マイクロ波エネルギー伝送研究室(篠原研)			
第 11	優しい地球環境を実現する先端電気機器工学研究室(中村研)			
第 12	集積機能工学研究室(米澤研)	超伝導グループ		
		真空電子グループ		
第 13	極微電子工学研究室(白石研)			
第 14	応用量子物性研究室(竹内研)			
第 15	半導体物性工学研究室(木本研)			
第 16	電子材料物性工学研究室			
第 17	光材料物性工学研究室(船戸研)			
第 18	光量子電子工学研究室(浅野研)			
第 19	量子電磁工学研究室			
第 20	ナノプロセス工学研究室(メーナカ研)			

受験番号(空欄でも可) 受験者氏名(自署)

(様式 2)

京都大学大学院工学研究科電気系修士課程入試 博士課程前後期連携教育プログラム

出 願 資 格 審 査 申 込 書						
フリガナ			性別		年齢	歳
氏名						
生年月日	西暦 年 月 日					
学歴	年 月 大学 学部 学科 入学					
	年 月 大学 学部 学科 卒業・卒業見込					
留学生	国籍					
現住所	(〒 -) TEL () - 携帯電話 () -					
電子メールアドレス	※携帯のメールアドレスは不可。PC からのメールを受信できるもの					
現在の所属研究室						
試験区分 (いずれかを ○で囲む)	融合工学コース (融合光・電子科学創成分野)		高度工学コース (光・電子理工学)			
入試事務 使用欄 (記入不要)						

(様式 3)

京都大学大学院工学研究科電気系修士課程入試 博士課程前後期連携教育プログラム

受 入 承 諾 書

志願者氏名

大学学部学科

入学年度 (学年)

受入予定教員所見

--

上記学生が博士課程前後期連携教育プログラムに合格した場合には研究室受入を承諾いたします。

年 月 日

専攻名

(指導予定教員)
職・氏名

_____印

(様式4)

京都大学大学院工学研究科電気系修士課程入試 博士課程前後期連携教育プログラム

研究計画説明書		氏名	
研究題目 (予定)			
研究計画 (1. 目的および意義、 2. 計画および方法、 3. 関連研究の状況)			

【留学生用】 For International Applicants

京都大学大学院工学研究科電気系専攻
修士課程入学試験

Entrance Examination for the Master's Course Program in the Department of Electrical Engineering/Electronic
Science and Engineering,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

指導希望教員承諾書

Consent Form of Prospective Supervisor

留学生の出願に際しては、希望する指導教員の氏名を記入し、出願の承諾に関する署名をもらうこと。

Each international applicant must complete contact with the prospective supervisor whose academic guidance is sought for, prior to submitting the application documents, to which the prospective supervisor must consent by signing this form.

指導希望教員氏名 _____

Name of Prospective Supervisor

(to be filled in by the applicant)

下記出願者が 2025 年 8 月実施の修士課程入学試験に合格した場合には研究室に受け入れて指導を行うことを前提とする出願について、それを承諾した証として、以下に署名します。

The following signature is to certify the consent to the applicant designated at the bottom of this form for his/her applying to the entrance examination, with the understanding that the applicant will be under my academic supervision, provided that the applicant passes the one to be held in August, 2025

受入予定教員氏名（署名） _____ 印

Name of Prospective Supervisor (Signature)

日付 _____
Date

出願者氏名 _____
Name of Applicant

サイン _____
Signature

志望区分申告票

創成化学専攻群(材料化学専攻, 高分子化学専攻)

氏名	㊞ (フリガナ:)			6月13日(金)までに Aクラスター事務区 教務掛へ提出すること
性別	☐ 男	☐ 女	生年月日(西暦) 年 月 日	
出身	京都大学:()学科・()研究室・学生番号【 】 他大学:()大学 電話番号(携帯・研究室等)()メールアドレス()			

志望順位	区分番号	専攻	区分番号	講座・分野
第1志望		材料化学	101	機能材料設計学講座
第2志望			102	無機材料化学講座 無機構造化学分野
第3志望			103	無機材料化学講座 応用固体化学分野
第4志望			104	有機材料化学講座 有機反応化学分野
第5志望			105	有機材料化学講座 天然物有機化学分野
第6志望			106	有機材料化学講座 材料解析化学分野
第7志望			107	高分子材料化学講座 高分子機能物性分野
第8志望			108	高分子材料化学講座 生体材料化学分野
第9志望				ナノマテリアル講座 ナノマテリアル分野(今年度は募集しない)
第10志望				先端機能高分子講座(今年度は募集しない)
第11志望		高分子化学	402	高分子合成講座 機能高分子合成分野
第12志望			403	高分子合成講座 高分子生成論分野
第13志望			404	高分子合成講座 重合化学分野
第14志望			405	高分子合成講座 生体機能高分子分野
第15志望			406	高分子物性講座 高分子機能学分野
第16志望			407	高分子物性講座 高分子分子論分野
第17志望			408	高分子物性講座 基礎物理化学分野
第18志望			409	高分子設計講座 高分子物質科学分野
				高分子設計講座 高分子材料設計分野(今年度は募集しない)
			411	高分子設計講座 高分子制御合成分野
				医用高分子講座 生体材料学分野(今年度は募集しない)
			413	医用高分子講座 発生システム制御分野

※記入上の注意

- 黒のボールペンを使用し,楷書で丁寧に記入のこと
- 氏名欄は必ず自筆署名および押印のこと
- 第1志望欄から第18志望欄のすべてを記入のうえ,重複していないか確認のこと
- 提出後の志望変更は不可

受付日

志望区分申告票

先端化学専攻群(物質エネルギー化学専攻, 分子工学専攻, 合成・生物化学専攻)

氏名	㊞ (フリガナ:)			6月13日(金)までに Aクラスター事務区 教務掛へ提出すること
性別	☐ 男	☐ 女	生年月日(西暦) 年 月 日	
出身	京都大学:()学科・()研究室・学生番号【 】			
	他大学:()大学			
	電話番号(携帯・研究室等)()メールアドレス()			

志望順位	志望区分番号
第1志望	
第2志望	
第3志望	
第4志望	
第5志望	
第6志望	
第7志望	
第8志望	
第9志望	
第10志望	
第11志望	
第12志望	
第13志望	
第14志望	
第15志望	
第16志望	
第17志望	
第18志望	
第19志望	
第20志望	
第21志望	
第22志望	
第23志望	
第24志望	
第25志望	
第26志望	
第27志望	
第28志望	
第29志望	

専攻	区分番号	講座・分野
物質エネルギー化学	201	エネルギー変換化学講座
	202	基礎エネルギー化学講座 工業電気化学分野
	203	基礎エネルギー化学講座 機能性材料化学分野
	204	基礎物質化学講座 基礎炭化水素化学分野
		基礎物質化学講座 励起物質化学分野 （今年度は募集しない）
	205	基礎物質化学講座 先端医工学分野
	206	触媒科学講座 触媒機能化学分野
	207	触媒科学講座 触媒有機化学分野
	208	触媒科学講座 触媒設計工学分野
	209	物質変換科学講座 有機分子変換化学分野
	210	物質変換科学講座 構造有機化学分野
	211	物質変換科学講座 遷移金属錯体化学分野
		同位体利用化学講座 （今年度は募集しない）
	213	有機機能化学講座
分子工学		生体分子機能化学講座 （今年度は募集しない）
	302	分子理論化学講座
		量子機能化学講座 （今年度は募集しない）
	304	応用反応化学講座 触媒反応化学分野
	305	応用反応化学講座 光有機化学分野
	306	応用反応化学講座 物性物理化学分野
	307	分子材料科学講座 量子物質科学分野
		分子材料科学講座 分子レオロジー分野
	309	分子材料科学講座 有機分子材料分野
	310	分子材料科学講座 量子分子科学分野
	311	分子材料科学講座 細孔物理化学分野
合成・生物化学	501	有機設計学講座
		合成化学講座 有機合成化学分野 （今年度は募集しない）
	503	合成化学講座 機能化学分野
	504	合成化学講座 物理有機化学分野
	505	合成化学講座 有機金属化学分野
	506	生物化学講座 生物有機化学分野
	507	生物化学講座 分子生物化学分野
	508	生物化学講座 生体認識化学分野
	509	生物化学講座 生物化学工学分野
	510	反応生命化学講座 分子集合体化学分野

- ※記入上の注意
- 1.黒のボールペンを使用し,楷書で丁寧に記入のこと
 - 2.氏名欄は必ず自筆署名および押印のこと
 - 3.第1志望欄から第29志望欄のすべてを記入のうえ,重複していないか確認のこと
 - 4.提出後の志望変更は不可。

受付日

出 願 書 類 (様式)

Application Documents (Forms)

京都大学大学院工学研究科

修士課程出願資格認定申請・調書

出願資格番号	(9)・(10) ※いずれかに○	申請年月日	
入試区分		指導予定教員名	
フリガナ		現住所	〒
氏名			
生年月日		TEL(昼間連絡可能な番号)	
(年齢)		E-mailアドレス	
年月	学 歴 （ 高 等 学 校 卒 業 か ら 記 入 ）		
年月	職 歴 等		
年月	取得資格免許等及び学協会等の活動、貢献、その他特記すべき事項		

注 1. 年齢は、申請日現在で記入すること。
2. この用紙に書ききれない場合は、同様式用の紙を付加すること
3. ※欄は、記入しないこと。

認 定 欄	
※	合・否

2026年度修士課程(2025年8月実施分) 履 歴 書

Applicants to the 2026 Master's Program (Examination in August 2025)

Resume

入試区分 Division		受験番号 ※記入不要 Examinee's Number ※Need not fill out	
氏名フリガナ Name in KATAKANA		留学生国籍(注1 Note1) International Student Nationality	
氏名 Name		留学生経費区分 (入学時予定) International student category at the time of admission	☐ 国費(日本政府)MEXT Scholarship Student ☐ 私費Privately Funded Student ☐ 自国政府派遣 International Student Sent by Home Government ☐ JICA International Student supported by JICA
氏名アルファベット表記 (留学生のみ) Name in English alphabet (International student only)		AAO ID (AAO申請者のみ) AAO Applicant only	
生年月日(西暦) Date of Birth	(西暦)年Year 月Month 日Day	性別 Sex	☐ 男 ☐ 女 Male Female
TEL(昼間連絡可能な番号) Contactable telephone number in daytime		e-mail	

履 歴 (空白期間の無いよう記入すること) History

学 歴	入学及び卒業年月(西暦で記入) Year and Month of Entrance and Completion	在学年数 Years Attended	学校名 Name of School	正規の修業年限 Required years for Graduation in standard
	年 月 入学 From Year Month Entrance 年 月 卒業 To Year Month Completion	年Years	小学校 (注2 Note2) Elementary Education (Elementary School)	年Years
	年 月 入学 From Year Month Entrance 年 月 卒業 To Year Month Completion	年	中学校 (注2 Note2) Secondary Education (Lower Secondary School)	年
	年 月 入学 From Year Month Entrance 年 月 卒業 To Year Month Completion	年	高等学校 Secondary Education (Upper Secondary School)	年
	年 月 入学 From Year Month Entrance 年 月 卒業(見込) To Year Month Completion(Expected)	年	大学 University/College 学部・学科 Faculty & Department	年
	年 月 入学 From Year Month Entrance 年 月 卒業 To Year Month Completion	年	高等専門学校 Technical College 学科 Department	年
	年 月 入学 From Year Month Entrance 年 月 卒業(見込) To Year Month Completion(Expected)	年	高等専門学校専攻科 Technical College Advanced Course 専攻 Department	年
	年 月 From Year Month 年 月 To Year Month	年	注3~5参照 Refer to Note 3 - 5	
	年 月 From Year Month 年 月 To Year Month	年	注3~5参照 Refer to Note 3 - 5	
	職 歴	勤務期間 Period of Employment	在職年数 Years of Employment	勤務先名称 Name of Organization
年 月 From Year Month 年 月 To Year Month		年		
年 月 From Year Month 年 月 To Year Month		年		
年 月 From Year Month 年 月 To Year Month		年		

- 注: Note
- 重国籍者はすべての国籍を記載すること。
1. Those who have multiple citizenships must list all nationalities.
 - 履歴事項は、日本の大学を卒業又は卒業見込みの者は、高等学校入学から現在までを記入すること。
2. Applicants who have graduated or expect to graduate from foreign university need to enter information from their elementary school to the present.
それ以外の者は、小学校入学から現在までを記入すること。
Other applicants need to enter information from high school to the present.
「在学年数」、「正規の修業年限」欄の数値も漏れなく記入すること。
Fill in completely for both "Years attended" and "Required years for graduation in standard".
 - 研究生の経歴は、学歴欄に記入すること。
3. Put your study records as a research student on "Educational Background" section.
 - 履歴欄は、空白期間がないように記入し、自宅において学習した期間については、「自宅学習」として、その期間を記入すること。
4. Fill in all the sections without blank period, and applicants who have the period of study at home fill in like "Study at home"
 - 記入欄が足りない場合は、同様の様式の別紙を作成して記入すること。
5. If the space is not sufficient, attach another sheet like this document.

履歴書 Resume							
入試区分 Division	社会基盤・都市社会系 Civil and Earth Resources Engineering / Urban Management		受験番号 ※記入不要 Examinee's Number ※Need not fill out		外国の大学出身者		
氏名フリガナ Name in KATAKANA	キョウダイ ハナコ		留学生国籍(注1 Note1) International Student Nationality	●●●●国			
氏名 Name	ドロッダウンリストから選択すること。 Select from the dropdownlist.		留学生経費区分 (入学時予定) International student category at the time of admission	☐ 国費(日本政府)MEXT Scholarship Student ☒ 私費Privately Funded Student ☐ 自国政府派遣 International Student Sent by Home Government ☐ JICA International Student supported by JICA			
氏名アルファベット表記 (留学生のみ) Name in English alphabet (International student only)	Kyodai Hanako		AAO ID (AAO申請者のみ) AAO Applicant only	1XXXX			
生年月日(西暦) Date of Birth	2001 (西暦)年Year	1 月Month	1 日Day	性別 Sex	☐ 男 Male ☒ 女 Female		
TEL(昼間連絡可能な番号) Contactable telephone number in daytime	XXX-XXXX-XXXX		e-mail	X X X 日本 ^① の大学卒業 (見込)者は、小中学校は記入不要			
履歴(空白期間の無いよう記入すること) History							
学歴 Educational Background	入学及び卒業年月(西暦で記入) Year and Month of Entrance and Completion		在学年数 Years Attended	学校名 Name of School		正規の修業年限 Required years for Graduation in standard	
	2007年9月入学 From Year Month Entrance	2013年8月卒業 To Year Month Completion	6年Years	AAAA School 小学校 (注2 Note2) Elementary Education (Elementary School)		6年Years	
	2013年9月入学 From Year Month Entrance	2016年8月卒業 To Year Month Completion	3年Years	BBBB School 中学校 (注2 Note2) Secondary Education (Lower Secondary School)		3年Years	
	2016年9月入学 From Year Month Entrance	2019年8月卒業 To Year Month Completion	3年Years	CCCC School 高等学校 Secondary Education (Upper Secondary School)		3年Years	
	2019年9月入学 From Year Month Entrance	2023年8月卒業(見込) To Year Month Completion(Expected)	4年Years	DDDD University 大学 School of *** Engineering 学部・学科 Higher Education (Undergraduate Level) Faculty & Department		4年Years	
	年 月 入学 From Year Month Entrance	年 月 卒業 To Year Month Completion	年Years	浪人期間も含め、空白期間の無いよう記入すること。 Fill in all the sections without blank period, and applicants who have the period of		高等専門学校 Technical College 学科 Department	
	年 月 入学 From Year Month Entrance	年 月 卒業(見込) To Year Month Completion(Expected)	年Years	高等専門学校専攻科 Technical College Advanced Course 専攻 Department		年Years	
	2024年10月 From Year Month	2025年3月 To Year Month	0.5年Years	Study at home. 注3~5参照 Refer to Note 3-5		研究 ^② 生の経歴は、学歴欄に記入すること。 Put your study records as a research student on "Educational Background" section.	
	2025年4月 From Year Month	2026年3月 To Year Month	1年Years	Kyoto University Graduate School of Engineering Research Student 注3~5参照 Refer to Note 3-5			
	勤務期間 Period of Employment		在職年数 Years of Employment	勤務先名称 Name of Organization			
	2023年10月 From Year Month	2024年9月 To Year Month	1年Years	EEEE Co.,Ltd. アルバイトは記入不要。 Part-time job is not required to be filled out.			
	年 月 From Year Month	年 月 To Year Month	年Years				

注：Note

1. 重国籍者はすべての国籍を記載すること。
1. Those who have multiple citizenships must list all nationalities.

2. 履歴事項は、日本の大学を卒業又は卒業見込みの者は、高等学校入学から現在までを記入すること。
2. Applicants who have graduated or expect to graduate from foreign university need to enter information from their elementary school to the present.
それ以外の者は、小学校入学から現在までを記入すること。
Other applicants need to enter information from high school to the present.
「在学年数」、「正規の修業年限」欄の数値も漏れなく記入すること。
Fill in completely for both "Years attended" and "Required years for graduation in standard".

3. 研究生の経歴は、学歴欄に記入すること。
3. Put your study records as a research student on "Educational Background" section.

4. 履歴欄は、空白期間がないように記入し、自宅において学習した期間については、「自宅学習」として、その期間を記入すること。
4. Fill in all the sections without blank period, and applicants who have the period of study at home fill in like "Study at home"

5. 記入欄が足りない場合は、同様の様式の別紙を作成して記入すること。
5. If the space is not sufficient, attach another sheet like this document.

履 歴 書									
Resume									
入試区分 Division		社会基盤・都市社会系 Civil and Earth Resources Engineering / Urban Management			受験番号 ※記入不要 Examinee's Number ※Need not fill out		日本の大学出身者		
氏名フリガナ Name in KATAKANA		キョウダイ ハナコ			留学生国籍(注1 Note1) International Student Nationality				
氏名 Name		京大 花子			ドロップダウンリストから選択すること。 Select from the dropdownlist.		国費(日本政府)MEXT Scholarship Student 私費Privately Funded Student		
氏名アルファベット表記 (留学生のみ) Name in English alphabet (International student only)					AAO ID (AAO申請者のみ) AAO Applicant only		自国政府派遣 International Student Sent by Home Government JICA International Student supported by JICA		
生年月日(西暦) Date of Birth		2001		4	2	性別 Sex	☐ 男 ☒ 女 Male Female		
TEL(昼間連絡可能な番号) Contactable telephone number in daytime		XXX-XXXX-XXXX			e-mail		X X X 日本の大学卒業 (見込)者は、小 中学校は記入不要		
履 歴 (空白期間の無いよう記入すること) History									
学 歴	入学及び卒業年月(西暦で記入) Year and Month of Entrance and Completion			在学年数 Years Attended		学校名 Name of School		正規の修業年限 Required years for Graduation in standard	
	年 月 入学 From Year Month Entrance					小学校 (注2 Note2)		年 Years	
	年 月 卒業 To Year Month Completion			年 Years		Elementary Education (Elementary School)		年 Years	
	年 月 入学 From Year Month Entrance					中学校 (注2 Note2)		年 Years	
	年 月 卒業 To Year Month Completion			年 Years		Secondary Education (Lower Secondary School)		年 Years	
	2016 年 4 月 入学 From Year Month Entrance			3		●● 高等学校		3 年	
	2019 年 3 月 卒業 To Year Month Completion			年		Secondary Education (Upper Secondary School)		年	
	2020 年 4 月 入学 From Year Month Entrance			4		●● 大学		4 年	
	2024 年 3 月 卒業(見込) To Year Month Completion(Expected)			年		工学部●●学科 Higher Education (Undergraduate Level)		年	
	年 月 入学 From Year Month Entrance					高等専門学校 Technical College		年	
年 月 卒業 To Year Month Completion			年		学科 Department		年		
年 月 入学 From Year Month Entrance					浪人期間も含め、空白期間の無いよう記入すること。 Fill in all the sections without blank period, and applicants who have the period of		高等専門学校専攻科 Technical College Advanced Course		
年 月 卒業(見込) To Year Month Completion(Expected)			年		専攻 Department		年		
2019 年 4 月 From Year Month			1		自宅学習		研究生の経歴は、学歴欄に記入すること。 Put your study records as a research student on "Educational Background" section.		
2020 年 3 月 To Year Month			年		注3～5参照 Refer to Note 3 - 5				
2025 年 4 月 From Year Month			1		京都大学工学研究科研究生				
2026 年 3 月 To Year Month			年		注3～5参照 Refer to Note 3 - 5				
Educational Background									
職 歴	勤務期間 Period of Employment			在職年数 Years of Employment		勤務先名称 Name of Organization			
	2024 年 4 月 From Year Month			1		●●株式会社			
	2025 年 3 月 To Year Month			年		アルバイトは記入不要。 Part-time job is not required to be filled out.			
年 月 From Year Month									
年 月 To Year Month			年						
Employment History									

- 注： Note
- 重国籍者はすべての国籍を記載すること。
1. Those who have multiple citizenships must list all nationalities.
 - 履歴事項は、日本の大学を卒業又は卒業見込みの者は、高等学校入学から現在までを記入すること。
2. Applicants who have graduated or expect to graduate from foreign university need to enter information from their elementary school to the present.
それ以外の者は、小学校入学から現在までを記入すること。
Other applicants need to enter information from high school to the present.
「在学年数」、「正規の修業年限」欄の数値も漏れなく記入すること。
Fill in completely for both "Years attended" and "Required years for graduation in standard".
 - 研究生の経歴は、学歴欄に記入すること。
3. Put your study records as a research student on "Educational Background" section.
 - 履歴欄は、空白期間がないように記入し、自宅において学習した期間については、「自宅学習」として、その期間を記入すること。
4. Fill in all the sections without blank period, and applicants who have the period of study at home fill in like "Study at home"
 - 記入欄が足りない場合は、同様の様式の別紙を作成して記入すること。
5. If the space is not sufficient, attach another sheet like this document.

【修士課程出願者用】出願書類確認表
Application Documents Checklist for Master's Program

【Bクラスター 工学研究科大学院掛に提出】募集要項「Ⅲ 出願書類等」及び下記を参照の上、必要な書類がそろっているか確認してください。

Please submit to Graduate Student Section in B Cluster Office. Please make sure that you have necessary documents before submission, referring to III Application Documents in the Guidelines and the following.

	京大工学部卒業 (見込)者 Graduate / the Expected to Graduate from Faculty of Engineering, Kyoto University	日本の大学(京大 工学部以外)卒業 (見込)者 Graduate / the Expected to Graduate from Japanese University (Except for Faculty of Engineering, Kyoto University)	外国の大学卒業(見込)者 Graduate/ the Expected to Graduate from Universities outside of Japan.			出願資格(2) 該 当者(高専専攻 科修了・学位取 得者等) Applicants under Our Eligibility Requirement (2)	注意事項 Notes
			京大工学研究科研究生 Research Students of Graduate School of Engineering, Kyoto University	京大研究生(工学以外) Research Students of Graduate School in Kyoto University (except for Graduate School of Engineering)	左記以外 Applicants Other than the Two Listed Left.		
出願資格 Eligiblity Requirement	(1)	(1)	(3)(4)(5)(6)			(2)	※募集要項のⅡ i 「出願資格」参照。 Refer to II i "Elgibility" in our Guidelines.
☐ 志願票・写真票 Application Form and Photograph	○	○	○	○	○	○	☐ 出願する「入試区分」or「志望専攻」は正しいですか？ Is the printed “Division/Department” right? ☐ 写真は剥がれないように貼付できていますか？ Paste a photo securely. If it seems to come unglued, repaste it again.
☐ 受験票送付用封筒 Return Envelope for Examination Voucher to Applicant	○	○	○	○	○	○	☐ 410円/110円分の切手を重ねずに貼付していますか？ Paste a total of 410/110 yen Japanese postage stamp on each envelope by glue, not overlapping each other. Write the address only within Japan. (ATTENTION: Be sure to buy postage stamp not revenue stamp.)
☐ 合格者受験番号一覧送付用封筒 Envelope for Result of Entrance Examination	○	○	○	○	○	○	☐ 封筒のサイズは長型3号(120mm×235mm)ですか？ Please prepare standard "3号"envelope (Size:120mm×235mm), and paste each label. Paste strongly not to come off.
☐ 在留カード(表裏)のコピー Photocopy of Both Sides of Residence card	外国人留学生のみ提出 Only for International Students						※出願時に提出できない者は、パスポートのコピーを提出すること。 If you can't submit this, please submit a photocopy of passport page with face photograph.
☐ 履歴書 Resume	○	○	○	○	○	○	☐ 出願する入試種別に合った用紙を使用していますか？(用紙左上に記載) Is Course/Program/Enrollment month (upper left of the paper) right? ☐ 履歴に空白期間はありますか？(所属する学校が無い期間は「自宅学習」等記入してください) Fill in the section "History" without blank period. Applicants who have the period of study at home fill in "Study at home".
☐ 成績証明書(原本) The original of academic transcript		○		○※	○	○	☐ 日本語・英語以外の証明書には、日本語訳または英語訳を添付してください If the certificate is not written in English or Japanese, the original one and its English or Japanese translation must be submitted.
☐ 卒業(見込)証明書(原本) Original of Certificate of Graduation/Expected Graduation		○		○※	○	○	☐ 日本語・英語以外の証明書には、日本語訳または英語訳を添付してください If the certificate is not written in English or Japanese, the original one and its English or Japanese translation must be submitted.
☐ 推薦書(原本) Original of Letter of Recommendation				○※	○		☐ 日本語・英語以外の証明書には、日本語訳または英語訳を添付してください If the certificate is not written in English or Japanese, the original one and its English or Japanese translation must be submitted.
☐ 学士の学位授与証明書(原本) Original of Certificate of Bachelor's Degree						○	※出願資格Ⅱ i(2)に該当する者のみ Only for applicants under our eligibility requirement II i(2).

※工学研究科協力講座(研究所等)の研究生で、研究生の出願・入学手続きの際に原本を提出し、確認を受けている場合に限り、コピーの提出を可とする。

We can accept the photocopy of these documents only if applicants are research students who belong to the Cooperating Chairs of our Graduate School, which are the designated laboratories in research institutes of Kyoto University, and already submitted the original documents when applying.

【志望する入試区分のクラスターへ提出】

Submission to Cluster Office in Each Desired Division

入試区分別の指定提出書類 Documents Required in Some Divisions Other than the Above	募集要項の「入試区分別入学試験詳細」をよく読んで提出物の有無を確認し、指定された方法により提出してください。 提出場所は、上記書類の提出先と異なります。 In some Divisions, you may be required to submit other documents than the above. Read “Details of Entrance Examination of each Division and Department” in the Guidelines carefully. Please be noted that other documents need to be <u>submitted to cluster office in each desired division, different from the receiving office for the documents above.</u>
--	--

(受験票送付用)

速達

(合格者受験番号一覧送付用)

切手貼付欄
column for pasting
postage stamp

①410円分の郵便切手をのりで貼ること。(購入の際は収入印紙と間違えないようにしてください。)
②複数枚の切手を貼るときは、必ず重ならないよう貼ること。一部でも重なって貼った場合、郵送されない可能性があります。(この枠からはみ出してもかまいません。)
③Paste a total of 410 yen postage stamp by glue. (ATTENTION: Be sure to buy postage stamp not revenue stamp.)
④Be sure not to overlap stamps each other. If you do it, the mail may not arrive. You can also paste out of this frame.
⑤You can use only Japanese postage stamps.

住所
Address (Only the address in Japan)

氏名
Name

切取り線

様

切手貼付欄
column for pasting
postage stamp

①110円分の郵便切手をのりで貼ること。(購入の際は収入印紙と間違えないようにしてください。)
②複数枚の切手を貼るときは、必ず重ならないよう貼ること。一部でも重なって貼った場合、郵送されない可能性があります。(この枠からはみ出してもかまいません。)
③Paste a total of 110 yen postage stamp by glue. (ATTENTION: Be sure to buy postage stamp not revenue stamp.)
④Be sure not to overlap stamps each other. If you do it, the mail may not arrive. You can also paste out of this frame.
⑤You can use only Japanese postage stamps.

住所
Address (Only the address in Japan)

氏名
Name

切取り線

様

課程 Program	修士／博士後期(いずれかに○) Master's / Doctoral (Circle one)
入試区分 / 志望専攻 Division / Department	

課程 Program	修士／博士後期(いずれかに○) Master's / Doctoral (Circle one)
入試区分 / 志望専攻 Division / Department	

京都大学大学院工学研究科

〒615-8530 京都市西京区京都大学桂
TEL 075-383-2040, 2041

京都大学大学院工学研究科

〒615-8530 京都市西京区京都大学桂
TEL 075-383-2040, 2041

受験票送付用

(Return label for examination voucher to applicant)

These labels are used for sending your examination voucher and result to you. Please follow the steps below.

- ①カラーでプリントアウトしてください。
- ②「宛名ラベル」を切り取り線にしたがって、ハサミ等で切り取ってください。
- ③住所・氏名・郵便番号・入試区分を記入してください。
(日本国内の住所に限る)
- ④各「宛名ラベル」に必要な切手をのりで貼付してください。
(切手貼付欄の注意事項をよく読んでください。)
- ⑤市販の長形3号の封筒(120mm×235mm)に貼り付けてください。
(郵送中に剥がれてしまうことの無いよう、強くのり付けしてください。)

合格者受験番号一覧送付用

(Label for the result of entrance examination to applicant)

- These labels are used for sending your examination result to you. Please follow the steps below.
- ①Please print this label in color.
 - ②Along the cut line, cut it with scissors etc.
(……切り取り線……＝cut line)
 - ③Please write address in right space(Only the address in Japan), your name on the above of <様>, zip code in □□□-□□□□, and desired division in <入試区分> squarespace.
 - ④Please paste necessary stamps by glue in the column for pasting postage stamp. Please confirm the notes in the column.
 - ⑤Please prepare standard "3号"envelope (Size:120mm×235mm), and paste each label. Paste strongly not to come off.
Please make arrangement these envelopes to be able to receive in Japan.